

大阪府立大学 研究科

教育目的、教育目標、3ポリシー

<u>工学研究科</u>	3
機械系専攻	10
航空宇宙海洋系専攻	19
電子・数物系専攻	35
電気・情報系専攻	44
物質・科学系専攻	60
量子放射線系専攻	79
<u>生命環境科学研究科</u>	89
応用生命科学専攻	95
緑地環境科学専攻	100
獣医学専攻	105
<u>理学系研究科</u>	108

数理科学専攻	115
物理科学専攻	121
分子科学専攻	128
生物科学専攻	135
<u>経済学研究科</u>	142
経済学専攻	147
経営学専攻	157
<u>人間社会システム科学研究科</u>	167
現代システム科学専攻	170
人間社会学専攻	183
<u>看護学研究科</u>	194
総合リハビリテーション学研究科	202

工学研究科

○教育目的

工学研究科は、科学と技術の融合である工学の領域において、真理の探究と知の創造を重視し、自然環境と調和する科学技術の発展を図り、持続可能な社会の発展と文化の創造に貢献することをその基本の理念とする。この基本理念のもとで教育・研究を実践し、人と社会と自然に対する広い視野と深い知識をもち、豊かな人間性、高い倫理観、高度の専門能力を兼ね備え、工学における重要な課題を主体的に認識して問題の解決に努め、社会の発展、福祉の向上および文化の創造に貢献できる技術者・研究者を育成する。

博士前期課程

博士前期課程は、工学分野の広範な専門知識の教授と研究指導を通して、基本的研究能力と問題解決能力を培い、自らの知的財産を創造し、新領域を開拓できる人材を育成する。

博士後期課程

博士後期課程は、工学分野の高度な専門知識の教授と研究指導を通して、自立して研究活動を行い、その成果を総合評価する能力を培い、新しい知識を体系化し、先導的な工学領域を創生できる人材を育成する。

○教育目標

博士前期課程

- 1.技術者・研究者として社会に貢献する使命感、技術が人・社会・自然に及ぼす影響について深く考える姿勢と責任感、高い倫理観のある判断力を培う。
- 2.社会の変化と科学技術の激しい進歩に主体的に対応できる幅広い視野、基礎学力および柔軟な思考力を培う。

専門分野の基礎的知識・技術およびその応用力を育成し、問題解決のために独自の発想で課題を探究する能力と研究を遂行する基本的能力、そして知的資産を創造する能力を培う。

- 3.日本語能力、英語能力の向上を図り、会話・読解能力、学術論文や技術資料の調査・分析能力ならびに学術報告・論文の執筆能力を培う。
- 4.自ら遂行した研究の成果を論文としてまとめる能力、学会・研究会等で発表・討論する能力を培う。
- 5.学域学生に対する演習・実験の教育補助の実践を通して、教育研究指導の基礎的能力を培う。

博士後期課程

- 1.工学における重要な課題を主体的に認識するとともに、普遍的価値のある問題を抽出し、分析・総合・評価することによって、新しい知識を体系化する能力を培う。
- 2.生優れた学術論文を執筆するとともに、国内外の学会、国際会議において論文発表・研究討論する能力を培う。
- 3.自らの専門分野を深く探求するにとどまらず、他分野の研究と技術に広く目を向け、独創的な科学と技術を開拓し、新たな学問、先導的な工学領域と新規産業を切り開く能力を培う。
- 4.異文化に対する理解とコミュニケーション能力の向上を図り、国際的に活躍できる能力を培う。
- 5.学域および博士前期課程の学生に対する実験・研究の教育研究補助の実践を通して、教育研究に対する指導能力を向上させる。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

科学と技術の融合である工学の領域において、真理の探究と知の創造を重視し、自然環境と調和する科学技術の進展を図り、持続可能な社会の発展と文化の創造に貢献することをその基本の理念とする。この理念に基づく工学分野の広範な専門知識の教授と研究指導を通して、基本的な研究能力と問題解決能力を培い、自ら知的資産を創造し、工学分野の新領域を開拓できる能力を修得した者に修士（工学）の学位を授与する。博士前期課程では、所定の年限在学し、研究科規程に定める所要の単位数以上を修得することに加えて、必要

な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。

博士後期課程

科学と技術の融合である工学の領域において、真理の探究と知の創造を重視し、自然環境と調和する科学技術の進展を図り、持続可能な社会の発展と文化の創造に貢献することをその基本の理念とする。この理念に基づく工学分野の高度な専門知識の教授と研究指導を通して、自立して研究活動を行い、その成果を総合評価する能力を培い、新しい知識を体系化し、先導的な工学領域を創生できる能力を修得した者に博士（工学）の学位を授与する。

博士後期課程では、所定の年限在籍し、研究科規程に定める所要の単位数以上を修得することに加えて、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

1.工学研究科の教育研究上の理念・目的を踏まえ、学域と大学院博士前期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された教育課程を編成する。

2.授業科目は特論等の講義、特別演習、特別研究により編成する。特論等の講義により、専門分野に関する高度な専門知識を獲得させる。特別演習では、学生の専門および周辺分野についての調査・討論・実験等を通じて、幅広い専門知識を習得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力を高める。特別研究では、理論・実験などの研究指導のもとに修士論文を作成し、専門的な課題についての研究能力と問題解決能力を培う。

3.伝統的な学問分野の区分により教育研究を行う従来型の「標準履修課程」と、学生の所属分野に軸足を置きながらも、複数の専攻・分野にわたる横断的な学際領域を履修できる「オプション履修課程」を設ける。

- 4.研究者・技術者に必要な英語の運用能力を修得させるため、英語で実施する講義科目を開設する。
- 5.留学生の教育環境の充実を図り、海外大学との学生交流や教育連携を強化するため、すべての講義を英語で実施する「英語コース標準履修課程」を設ける。
- 6.企業経営者等による講義を通して、産業界で活躍しうるイノベーション創出型研究者としての素養を修得できる講義科目を大学院共通教育科目として開設する。
- 7.講義と海外での環境活動の企画・実践を通して、グローバルな観点から環境問題を理解するとともに国際的な協調力を養成できる随意科目を大学院共通教育科目として開設する。

博士後期課程

- 1.工学研究科の教育研究上の理念・目的を踏まえ、学域と大学院博士前期課程および後期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された教育課程を編成する。
- 2.自立した研究者として活躍できる創造的研究開発能力とともに高度な指導能力を養成するため、指導教員が学生の研究目的にあわせ、個別に履修指導を行うとともに、マンツーマンの研究指導を行なえる指導体制とする。
- 3.授業科目は、特別講義、特別演習、特別研究により編成する。特別講義により、専門分野に関するより高度かつ最新の研究動向に基づいた専門知識を獲得させる。特別演習では、学生の研究課題および周辺分野の最新の研究動向に関する調査、討論、実験等を通じて、特定分野の深い専門知識と周辺分野の幅広い知識を修得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力および知識の体系化能力を培う。特別研究では、理論・実験等の研究指導のもと博士論文を作成し、自立した研究者となるために必要な研究計画能力と総合評価能力を培う。
- 4.企業経営者等による講義や企業でのインターンシップを通して、産業界で活躍する企業研究リーダーに求められる能力と素養を修得できる講義科目・演習科目を大学院共通教育科目として開設する。

学修成果の評価の方針

1. 成績評価の基準は以下のとおりとする。

(1)成績評価は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の到達目標に対する達成度に応じて、工学研究科規程第14条に定めた基準に沿って、A+からDの評語で評価する。特に、単位修得（C以上）の基準を到達度として明記する。

(2)学期ごとに全ての授業の成績分布を集計し、到達目標の達成度について組織的に検討し、改善をはかる。

(3)成績評価は、達成度の絶対評価を基本として行うが、受講者数が少ない科目を除き、偏った評語の分布にならないように努力する。また、偏った分布になった場合はその原因を分析し、次期以降に改善をはかる。

2. 成績評価の方法は以下のとおりとする。

(1)成績評価は、最終の定期試験のみに偏重することなく、レポート、プレゼンテーション、学修態度等の多様な要素を組みあわせて到達目標の達成度を評価する。なお、授業への出欠状況は成績評価には使わない。

(2)具体的な評価方法は、授業担当教員が決定し、評価の基準、評価に用いる項目の配分を含めて、シラバスを通じて学生に事前に提示する。

3. 学位論文の審査は以下のとおりとする。

学位論文の審査は学位審査基準にしたがって行う。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

工学研究科は、いにしえの国際自由都市堺に立地し、「自由と進取の気風、新しい文化と産業の創造、世界への雄飛」をモットーに、科学と技術の融合である工学の領域において、真理の探究と知の創造を重視し、自然環境と調和した科学技術の進展を図り、持続可

能な社会の発展と文化の創造に貢献することを基本理念としている。

この基本理念のもとで、人と社会と自然に対する広い視野と深い知識を持ち、豊かな人間性、高い倫理観、高度の専門能力を兼ね備え、工学における重要な課題を主体的に認識して問題の解決に努め、社会の発展、福祉の向上、および文化の創造に貢献できる技術者、研究者の育成を教育研究の理念としている。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、工学研究科では次のような資質と能力、意欲を持った学生を求める。

- 1.技術者、研究者として社会に貢献しようという意欲を持った人
- 2.技術が人・社会・自然に及ぼす影響について、深く考えようとする姿勢と強い責任感を持った人
- 3.科学技術の著しい進歩に対して、主体的、積極的に新しい分野を切り拓こうとする姿勢と熱意を持った人
- 4.高い基礎学力と豊かな専門分野の基礎知識を持ち、自ら未知の問題解決のために立ち向かおうとする意欲のある人
- 5.異なる文化を理解し、多彩で国際的なコミュニケーションを図ろうとする意欲を持った人

以上に基つき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.大学における理系の基礎的な科目および各専門分野の科目を幅広く学び、基礎学力および各専門分野の基本的な知識を身に付けていること
- 2.各専門分野における英文を読んで理解し、書いて表現するための基本的な能力を身に付けていること
- 3.工学における課題を見つけ、解決しようとする基本的な能力を身に付けていること

博士後期課程

工学研究科は、いにしえの国際自由都市堺に立地し、「自由と進取の気風、新しい文化と

産業の創造、世界への雄飛」をモットーに、科学と技術の融合である工学の領域において、真理の探究と知の創造を重視し、自然環境と調和した科学技術の進展を図り、持続可能な社会の発展と文化の創造に貢献することを基本理念としている。

この基本理念のもとで、人と社会と自然に対する広い視野と深い知識を持ち、豊かな人間性、高い倫理観、高度の専門能力を兼ね備え、工学における重要な課題を主体的に認識して問題の解決に努め、社会の発展、福祉の向上、および文化の創造に貢献できる技術者、研究者の育成を教育研究の理念としている。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、工学研究科では次のような資質と能力、意欲を持った学生を求める。

- 1.自立した研究者として社会に貢献しようという意欲を持った人
- 2.研究成果が人・社会・自然に及ぼす影響について、深く考えながら研究に取り組む姿勢と強い責任感を持った人
- 3.新しい科学技術の展開に向けて、主体的、積極的に先導的な工学領域を創生しようとする姿勢と熱意を持った人
- 4.特定分野の深い専門知識と周辺分野の幅広い知識を持ち、問題の分析・総合・評価を行い、知識を体系化しようとする意欲のある人
- 5.国際的に、研究成果を発信し、研究活動を行おうとする意欲を持った人

以上に基づき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.大学および大学院博士前期課程における理系の基礎的な科目および各専門分野の科目を幅広くかつ深く学び、高い基礎学力および各専門分野の豊かな知識を身に付けていること
- 2.各専門分野における英文を読んで正確に理解するとともに、自らの研究成果を英文で論理的に表現し、発表するための能力を身に付けていること
- 3.工学における諸課題を見つけ、それらを体系的に整理するとともに、合理的に解決しようとする高度な能力を身に付けていること

機械系専攻

○教育目的

博士前期課程

機械工学全般にわたる幅広い学理・専門知識を身に付けるとともに、機械システム、エネルギーシステムの高度機能化・知能化・高信頼性に関連した課題に対する問題解決および研究に関する基本的な能力を修得するための、専門知識の教授および研究指導を行う。また、修得した能力を基礎として、国際的な視野と感覚を持ち、人間としての倫理観を備え、人・環境と共存・共生できる機械技術、機械システムの発展をめざして、学際的な領域を含む幅広い分野で活躍できる能力を持った機械技術者・研究者の育成をする。

博士後期課程

機械工学における高度な学理・専門知識を十分身に付けるとともに、機械システム、エネルギーシステムの高度機能化・知能化・高信頼性に関連した課題に対して自立して問題解決および研究開発できる能力を修得するための、専門知識の教授および研究指導を行う。また、修得した能力を基礎として、国際的な視野と感覚を持ち、人間としての倫理観を備え、人・環境と共存・共生できる機械技術、機械システムの発展をめざして、学際的な領域を含む専門分野で新しい知識を体系化し、先導的な領域を創生できる能力を持った機械技術者・研究者の育成をする。"

○教育目標

博士前期課程

- 1.機械工学全般にわたる幅広い学理・専門知識を身に付けるとともに応用力を育成し、計画的に活動できる能力を修得する。
- 2.機械システム、エネルギーシステムの高度機能化・知能化・高信頼性に関連した課題に対する問題解決および研究能力を修得する。
- 3.国際的な視野と感覚を持ち、人間としての倫理観を備え、人・環境と共存・共生できる機械技術、機械システムの発展に貢献できる能力を修得する。

- 4.機械技術および学際的な領域を含む幅広い分野で活躍できる能力を修得する。
- 5.機械技術者・研究者として必要な日本語および外国語によるコミュニケーション能力を修得する。
- 6.学術論文や技術資料の調査・分析能力ならびに学術報告・論文の執筆・発表能力を修得する。

博士後期課程

- 1.機械工学における高度な学理・専門知識を身に付けるとともに応用力を育成し、自立して計画的に活動できる能力を修得する。
- 2.機械システム、エネルギーシステムの高度機能化・知能化・高信頼性に関連した課題に対して自立して問題解決および研究開発する能力を修得する。
- 3.国際的な視野と感覚を持ち、人間としての倫理観を備え、人・環境と共存・共生できる機械技術、機械システムの発展に貢献できる高度な能力を修得する。
- 4.機械技術および学際的な領域を含む専門分野で新しい知識を体系化し、先導的な領域を創生できる能力を修得する。
- 5.機械技術者・研究者として必要な日本語および外国語によるコミュニケーション能力を修得する。
- 6.学術論文や技術資料の高度な調査・分析能力ならびに学術報告・論文の執筆・発表能力を修得する。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

機械工学全般にわたる幅広い学理・知識を十分身に付けるとともに、機械システム、エネルギーシステムの高度機能化・知能化・高信頼性に関連した研究および問題解決に関する基本的な能力を修得すること。および、その能力を基礎として、国際的な視野と感覚を持ち、人間としての倫理観を備え、人・環境と共存・共生できる機械技術、機械システムの発展をめざして、学際的な領域を含む幅広い分野で活躍できる能力を修得した者に修士（工学）の学位を授与する。

博士後期課程

機械工学における高度な学理・知識を十分身に付けるとともに、機械システム、エネルギーシステムの高度機能化・知能化・高信頼性に関連した課題に対して、自立して研究開発および問題解決できる能力を修得すること、および、その能力を基礎として、国際的な視野と感覚を持ち、人間としての倫理観を備え、人・環境と共存・共生できる機械技術、機械システムの発展をめざして、学際的な領域を含む専門分野で新しい知識を体系化し、先導的な領域を創生できる能力を修得した者に博士（工学）の学位を授与する。

機械工学分野

博士前期課程

機械系専攻機械工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に修士（工学）の学位を授与する。

- 1.機械工学全般にわたる幅広い学理・知識を十分に有している。
- 2.機械システム、エネルギーシステムの高度機能化・知能化・高信頼性に関連した研究および問題解決に関する基本的な能力を持つ。
- 3.その能力を基礎として、国際的な視野と感覚を有している。
- 4.人間としての倫理観を備え、人・環境と共存・共生できる機械技術、機械システムの発展を目指して、学際的な領域を含む幅広い分野で活躍できる能力を持つ。

博士後期課程

機械系専攻機械工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に博士（工学）の学位を授与する。

- 1.機械工学における高度な学理・知識を十分に有している。
- 2.機械システム、エネルギーシステムの高度機能化・知能化・高信頼性に関連した課題に対して、自立して研究開発および問題解決できる能力を持つ。

3.その能力を基礎として、国際的な視野と感覚を有している。

4.人間としての倫理観を備え、人・環境と共存・共生できる機械技術、機械システムの発展を目指して、学際的な領域を含む専門分野で新しい知識を体系化し、先導的な領域を創生できる能力を持つ。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

1.講義科目では、機械工学全般にわたる幅広い高度な学理・専門知識を身に付けることのできる体系化された教育課程を編成する。

2.特別演習および特別研究では、機械システム、エネルギーシステムの高度機能化・知能化・高信頼性に関連した課題に対する研究および問題解決に関する基本的な能力を修得するための専門知識の教授および研究指導をする。

3.少人数の研究グループでの指導では、講義科目などで修得した能力を基礎として、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を身に付け、国際的な視野と感覚を持ち、人間としての倫理観を備え、人・環境と共存・共生できる機械技術、機械システムの発展をめざして、学際的な領域を含む幅広い分野で活躍できる能力を修得できるように指導する。

4.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

5.修士論文の作成・発表を通じて、学術論文や技術資料の調査・分析ならびに学術報告・論文の執筆・発表技術を修得できるように指導をする。

博士後期課程

1.講義科目では、機械工学における高度な学理・専門知識を身に付けることのできる体系化された教育課程を編成する。

2.特別演習および特別研究では、機械システム、エネルギーシステムの高度機能化・知能化・高信頼性に関連した課題に対する研究および問題解決に対して自立して問題解決および研究開発できる能力を修得するための専門知識の教授および研究指導をする。

3.指導教員によるマンツーマンの指導では、修得した能力を基礎として、日本語および外

国語によるコミュニケーション能力を身に付け、国際的な視野と感覚を持ち、人間としての倫理観を備え、人・環境と共存・共生できる機械技術、機械システムの発展をめざして、学際的な領域を含む専門分野で新しい知識を体系化し、先導的な領域を創生できる能力を修得できるような指導する。

4.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

5.博士論文の作成・発表を通じて、学術論文や技術資料の高度な調査・分析ならびに学術報告・論文の執筆・発表技術の指導をする。

機械工学分野

博士前期課程

1.機械工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学域と大学院博士前期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された教育課程を編成する。

2.講義科目では、機械工学全般にわたる幅広い高度な学理・専門知識を身に付ける。

3.特別演習および特別研究では、機械システム、エネルギーシステムの高度機能化・知能化・高信頼性に関連した課題に対する研究および問題解決に関する基本的な能力を修得するための専門知識の教授および研究指導をする。

4.少人数の研究グループでの指導では、講義科目などで修得した能力を基礎として、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を身に付け、国際的な視野と感覚を持ち、人間としての倫理観を備え、人・環境と共存・共生できる機械技術、機械システムの発展を目指して、学際的な領域を含む幅広い分野で活躍できる能力を修得できるように指導する。

5.修士論文の作成・発表を通じて、学術論文や技術資料の調査・分析ならびに学術報告・論文の執筆・発表技術を修得できるように指導をする。

6.技術者および研究者として、豊かな教養と高い倫理観を培い、社会貢献と責任について考える能力を修得させるため、「研究公正 A」を開設する。

7.研究者・技術者に必要な英語の運用能力を修得させるため、英語で実施する講義科目を開設する。

8.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

9.留学生の教育環境の充実を図り、海外大学との学生交流や教育連携を強化するため、すべての講義を英語で実施する「英語コース標準履修課程」を設ける。

博士後期課程

1.機械工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学域と大学院博士前期課程および後期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された教育課程を編成する。

2.講義科目では、機械工学における高度な学理・専門知識を身に付ける。

3.特別演習および特別研究では、機械システム、エネルギーシステムの高度機能化・知能化・高信頼性に関連した課題に対する研究および問題解決に対して自立して問題解決および研究開発できる能力を修得するための専門知識の教授および研究指導をする。

4.指導教員によるマンツーマンの指導では、修得した能力を基礎として、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を身に付け、国際的な視野と感覚を持ち、人間としての倫理観を備え、人・環境と共存・共生できる機械技術、機械システムの発展を目指して、学際的な領域を含む専門分野で新しい知識を体系化し、先導的な領域を創生できる能力を修得できるような指導する。

5.博士論文の作成・発表を通じて、学術論文や技術資料の高度な調査・分析ならびに学術報告・論文の執筆・発表技術の指導をする。

6.技術者および研究者として、高度で豊かな教養と厳格な倫理観を培い、社会貢献と責任について考える能力を修得させるため、「研究公正 B」を開設する。

7.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

機械系専攻は、現代社会を支えるあらゆる機械、機器、構造物、設備、装置、プラント等、「機械」という範疇に含まれる全ての「もの」を対象として、「ものづくり」のための学理の構築と、「もの」の開発・設計・生産・運用を目的とした工学の重要な一分野であ

る。近年、あらゆる「機械」には、高機能化、知能化、システム化等が求められ、更に、複雑化、多様化、複合化する人間活動との調和を十分考慮した機械システムの開発・設計・生産・運用が不可欠となってきた。

一方、近年のエネルギー消費の増大に伴い、環境汚染問題が顕在化し、エネルギーの供給とそれに伴う環境汚染の防止をグローバルな観点に基づいて考慮した、人・環境と共存・共生する機械技術、機械システムの確立が求められている。

機械系専攻では、人と社会と自然に対する広い視野と深い知識をもち、豊かな人間性、高い倫理観、高度の専門能力を兼ね備え、社会の発展、福祉の向上および文化の創造に貢献できる技術者・研究者の育成をめざしている。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、機械系専攻では次のような資質と能力、意欲を持った学生を求める。

- 1.機械工学に関する技術者、研究者として社会に貢献しようという意欲を持った人
- 2.機械工学が人・社会・自然に及ぼす影響について、深く考えようとする姿勢と強い責任感を持った人
- 3.機械工学の著しい進歩に対して、積極的に新しい分野を切り拓こうとする姿勢と熱意を持った人
- 4.豊かな基礎学力と専門分野の基礎知識を持ち、機械工学に関する問題解決のために立ち向かおうとする意欲のある人

以上に基づき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.大学における理系の基礎的な科目および機械工学の科目を幅広く学び、基礎学力および機械工学の基本的な知識を身に付けていること
- 2.機械工学における英文を読んで理解し、書いて表現するための基本的な能力を身に付けていること

3.機械工学における課題を見つけ、解決しようとする基本的な能力を身に付けていること

博士後期課程

機械系専攻は、現代社会を支えるあらゆる機械、機器、構造物、設備、装置、プラント等、「機械」という範疇に含まれる全ての「もの」を対象として、「ものづくり」のための学理の構築と、「もの」の開発・設計・生産・運用を目的とした工学の重要な一分野である。近年、あらゆる「機械」には、高機能化、知能化、システム化等が求められ、更に、複雑化、多様化、複合化する人間活動との調和を十分考慮した機械システムの開発・設計・生産・運用が不可欠となってきている。

一方、近年のエネルギー消費の増大に伴い、環境汚染問題が顕在化し、エネルギーの供給とそれに伴う環境汚染の防止をグローバルな観点に基づいて考慮した、人・環境と共存・共生する機械技術、機械システムの確立が求められている。

機械工学専攻では、人と社会と自然に対する広い視野と深い知識をもち、豊かな人間性、高い倫理観、高度の専門能力を兼ね備え、社会の発展、福祉の向上および文化の創造に主体的に貢献できる自立した専門性の高い技術者・研究者の育成をめざしている。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、機械系専攻では次のような資質と能力、意欲を持った学生を求める。

機械工学に関する自立した技術者、研究者として社会に貢献しようという意欲を持った人

機械工学が人・社会・自然に及ぼす影響について、主体的に深く考えようとする姿勢と強い責任感を持った人

機械工学の著しい進歩に対して、主体的に新しい分野を切り拓こうとする姿勢と熱意を持った人

高い基礎学力と高度な専門知識を持ち、自ら機械工学に関する問題解決のために立ち向かおうとする意欲のある人

以上に基づき、次の 1～3 の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.大学および大学院博士前期課程における理系の基礎的な科目および機械工学の科目を幅広くかつ深く学び、高い基礎学力および機械工学の豊かな知識を身に付けていること
- 2.機械工学における英文を読んで正確に理解するとともに、自らの研究成果を英文で論理的に表現し、発表するための能力を身に付けていること
- 3.機械工学における諸課題を見つけ、それらを体系的に整理するとともに、合理的に解決しようとする高度な能力を身に付けていること

航空宇宙海洋系専攻

○教育目的

博士前期課程

博士前期課程では、総合工学に関する基礎学力、および総合的に物事を考える能力を育成する。また、社会的倫理観を養い、国際社会においても活躍できるための自己表現力をつけ、幅広い分野で活躍できる創造性豊かな指導的役割を担う人材の養成をめざす。航空機・宇宙機・船舶・海洋構造物等に関するシステムの開発（計画・設計・製造・運用・評価）、ならびにその利用にかかわる総合工学分野の先端的教育研究を行い、全地球的な視野から人類の持続可能な発展と地球環境の保全との調和をめざし、高度の創造性、総合性を有し、国際的視野をもって指導的役割を担う、研究開発型技術者・研究者を育成することを目的とする。

博士後期課程

博士後期課程では、総合工学に関する専門的学力、および総合的に物事を考える高度な能力を育成する。また、専門家責任を認識し、高い倫理観に基づいて国際社会に貢献し、幅広い分野で活躍できる創造性豊かな指導的研究者・技術者の養成をめざす。航空機・宇宙機・船舶・海洋構造物等に関するシステムの開発（計画・設計・製造・運用・評価）、ならびにその利用にかかわる総合工学分野の先端的教育研究を行い、全地球的な視野から人類の持続可能な発展と地球環境の保全との調和をめざし、高度の創造性、総合性を有し、国際的視野をもって指導的役割を担う、研究開発型技術者・研究者を育成することを目的とする。

○教育目標

博士前期課程

航空宇宙工学分野

- 1.航空機・宇宙機の開発（計画・設計・製造・運用・評価）・ならびにその利用にかかわる専門的知識を教授する。
- 2.航空宇宙工学分野の研究能力と問題解決能力を育成する。

- 3.地球環境システムについて深く理解し、自然環境と人間活動との調和を基調とする視点に立って、総合的判断能力をもつ先導的な人材としての能力を育成する。
- 4.幅広い基礎学理に裏付された高い創造性と柔軟性をもつ、国際的に通用する技術者・研究者を養成する。
- 5.技術革新に挑戦し、可能性を切り開く能力、精神を養成する。
- 6.人類、社会の重要課題を全地球的な視野から捉え、問題提起、解決する能力を養成する。

海洋システム工学分野

1. [倫理観] 人間活動の持続可能な発展の在り方について考え、海洋に関わる技術者として自覚する。科学技術が人・社会・自然に及ぼす影響を把握し、技術者・研究者が負うべき社会への貢献と責任を認識して高い倫理観に基づく判断・行動ができる能力を培う。
2. [表現力] 国際社会で活躍できる広範な視野をもつと共に、日本語能力、英語能力の向上を図り、会話・読解能力、学術論文や技術資料の調査・分析能力ならびに学術報告・論文の執筆・発表能力を培う。
3. [問題解決能力] 海洋に関わる自然および人工システムに関する基礎の学問を広く学び、それを基に物事を多角的に分析し、調和のとれた解を導くための統合化力を養い、直面する問題を解決する能力を培う。
4. [創造力] 海洋システム工学における基礎的知識・技術・統合化力を駆使して、海洋に関連する新しいシステム・知的資産を創造する能力を培う。
5. [指導力] 海洋システム工学に関する専門的な研究を通して研究者同士の協調性を養い、工学技術分野における専門的な指導能力を培う。

博士後期課程

航空宇宙工学分野

- 1.航空機・宇宙機の開発（計画・設計・製造・運用・評価）・ならびにその利用にかかわる高度で専門的な知識を教授する。

- 2.航空宇宙工学分野の高度な研究能力と問題解決能力を育成する。
- 3.地球環境システムについて深く理解し、自然環境と人間活動との調和を基調とする視点に立って、総合的判断能力をもつ先導的な研究者・技術者としての能力を育成する。
- 4.幅広い基礎学理と専門的知識に裏付された高い創造性と柔軟性をもつ、国際的に通用する技術者・研究者を養成する。
- 5.技術革新に挑戦し、可能性を切り開く高度な能力、精神を養成する。
- 6.人類、社会の重要課題を全地球的な視野から捉え、問題提起、解決する能力を養成する。

海洋システム工学分野

1. [倫理観] 人間活動の持続可能な発展の在り方について考え、海洋に関わる研究者として自覚する。科学技術が人・社会・自然に及ぼす影響を把握し、技術者・研究者が負うべき社会への貢献と専門家責任を認識して高い倫理観に基づく判断・行動ができる能力を培う。
2. [表現力] 国際社会で活躍できる広範な視野とコミュニケーション能力をもつと共に、高度な日本語能力、英語能力の向上を図り、会話・読解能力、学術論文や技術資料の調査・分析能力ならびに学術報告・論文の執筆・発表能力を培う。
3. [問題解決能力] 海洋に関わる自然および人工システムに関する専門的な学問を深く学び、それを基に物事を多角的に分析し、調和のとれた解を導くための統合化力を養い、直面する問題を解決する能力を培う。
4. [創造力] 海洋システム工学における専門的知識・技術・統合化力を駆使して、海洋に関連する新しいシステム・知的資産を創造する高度な能力を培う。
5. [指導力] 海洋システム工学に関する専門的な研究を通して研究者同士の協調性を養い、工学技術分野における専門的な指導能力を培う。
6. [自立] 海洋システム工学に関する新たな分野を開拓し、自立して研究を遂行する能力を培う。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

大阪府立大学および工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、航空宇宙海洋系専攻では次のディプロマ・ポリシーを定めている。

航空宇宙海洋系専攻（航空宇宙工学分野、海洋システム工学分野）では、次の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とする。

博士後期課程

大阪府立大学および工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、航空宇宙海洋系専攻では次のディプロマ・ポリシーを定めている。

航空宇宙海洋系専攻（航空宇宙工学分野、海洋システム工学分野）では、次の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とする。

航空宇宙工学分野

博士前期課程

航空宇宙海洋系専攻航空宇宙工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に修士（工学）の学位を授与する。

- 1.航空機、宇宙機に関するシステムの開発（計画・設計・製造・運用・評価）ならびにその利用について理解し、自分の考えを発信することができる。
- 2.航空宇宙工学分野における研究を遂行でき、問題を解決することができる。
- 3.地球環境システムについて深く理解し、自然環境と人間活動との調和を基調とする視点に立って、総合的に判断できる。
- 4.幅広い基礎学理に裏付けされた高い創造性と柔軟性を発揮することができ、国際的に活躍できる。

5.技術革新に挑戦することができ、可能性を切り開くことができる。

6.人類、社会の重要課題を全地球的な視野から捉えることができ、問題を提起し、解決できる。

博士後期課程

航空宇宙海洋系専攻航空宇宙工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に博士（工学）の学位を授与する。

1.航空機、宇宙機に関するシステムの開発（計画・設計・製造・運用・評価）ならびにその利用について理解し、自分の考えを発信することができる。

2.航空宇宙工学分野における研究を遂行でき、問題を解決することができる。

3.地球環境システムについて深く理解し、自然環境と人間活動との調和を基調とする視点に立って、総合的に判断できる。

4.幅広い基礎学理に裏付けされた高い創造性と柔軟性を発揮することができ、国際的に活躍できる。

5.技術革新に挑戦することができ、可能性を切り開くことができる。

6.人類、社会の重要課題を全地球的な視野から捉えることができ、問題を提起し、解決できる。

海洋システム工学分野

博士前期課程

航空宇宙海洋系専攻海洋システム工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に修士（工学）の学位を授与する。

1.人間活動の持続可能な発展の在り方について考え、科学技術が人・社会・自然に及ぼす影響を把握し、海洋に関わる技術者として、技術者・研究者が負うべき社会への貢献と責任を認識して高い倫理観に基づく判断・行動ができる。

- 2.国際社会で活躍できる広範な視野をもつと共に、日本語能力、英語能力の向上により、学術的なコミュニケーション能力を身に付けている。また、学術論文や技術資料の調査・分析ができ、自らの研究成果についての学術報告・論文の執筆・発表ができる。
- 3.海洋に関わる自然および人工システムに関する基礎の学問を広く学び、それを基に物事を多角的に分析すると共に、統合化力を用いて、直面する問題を解決するための、調和のとれた解を導くことができる。
- 4.海洋システム工学における基礎的知識・技術・統合化力を駆使して、海洋工学に関連する新しいシステム・知的資産を創造できる。
- 5.海洋システム工学に関する専門的な研究を通して研究者同士の協調性を養い、工学技術分野における専門的な指導ができる。

博士後期課程

航空宇宙海洋系専攻海洋システム工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に博士（工学）の学位を授与する。

- 1.人間活動の持続可能な発展の在り方について考え、科学技術が人・社会・自然に及ぼす影響を把握し、海洋に関わる研究者として、技術者・研究者が負うべき社会への貢献と専門家責任を認識して高い倫理観に基づく判断・行動ができる。
- 2.国際社会で活躍できる広範な視野とコミュニケーション能力をもつと共に、高度な日本語能力、英語能力の向上を図ることで、高度で学術的なコミュニケーション能力を身に付けている。また、学術論文や技術資料の専門的調査・分析ができ、自らの研究成果についての学術報告・論文の執筆・発表ができる。
- 3.海洋に関わる自然および人工システムに関する専門的な学問を深く学び、それを基に物事を多角的に分析し、調和のとれた解を導くための統合化力を養い、直面する問題を解決できる。
- 4.海洋システム工学における専門的知識・技術・統合化力を駆使して、海洋工学に関連する新しいシステム・知的資産を創造できる。
- 5.海洋システム工学に関する専門的な研究を通して研究同士の協調性を養い、工学技術分野における専門的な指導ができる。

6.海洋システム工学に関する未開拓の分野において自立して研究を遂行できる。”

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針

博士前期課程

工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、航空宇宙海洋系専攻の教育目標の達成を目的として、教育課程編成を行う。

1.工学研究科の教育研究上の理念・目的を踏まえ、学域と大学院博士前期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことともに、航空宇宙海洋系専攻の教育目標の達成を目的として、教育課程編成を行う。

2.授業科目は特論等の講義、特別演習、特別研究により編成する。特論等の講義により、専門分野に関する高度な専門知識を獲得させる。特別演習では、学生の専門および周辺分野についての調査・討論・実験等を通じて、幅広い専門知識を習得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力を高める。特別研究では、理論・実験などの研究指導のもとに修士論文を作成し、専門的な課題についての研究能力と問題解決能力を培う。

3.伝統的な学問分野の区分により教育研究を行う従来型の「標準履修課程」と、学生の所属分野に軸足を置きながらも、複数の専攻・分野にわたる横断的な学際領域を履修できる「オプション履修課程」を設ける。

4.研究者・技術者に必要な英語の運用能力を修得させるため、英語で実施する講義科目を開設する。

5.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

6.留学生の教育環境の充実を図り、海外大学との学生交流や教育連携を強化するため、すべての講義を英語で実施する「英語コース標準履修課程」を設ける。

7.企業経営者等による講義を通して、産業界で活躍しうるイノベーション創出型研究者としての素養を修得できる講義科目を大学院共通教育科目として開設する。

博士後期課程

工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、航空宇宙海洋系専攻の教育目標の達成を目的として、教育課程編成を行う。

- 1.工学研究科の教育研究上の理念・目的を踏まえ、学域と大学院博士前期課程および後期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うとともに、航空宇宙海洋系専攻の教育目標の達成を目的として、教育課程編成を行う。
- 2.自立した研究者として活躍できる創造的研究開発能力とともに高度な指導能力を養成するため、指導教員が学生の研究目的にあわせ、個別に履修指導を行うとともに、マンツーマンの研究指導を行なえる指導体制とする。
- 3.授業科目は、特別講義、特別演習、特別研究により編成する。特別講義により、専門分野に関するより高度かつ最新の研究動向に基づいた専門知識を獲得させる。特別演習では、学生の研究課題および周辺分野の最新の研究動向に関する調査、討論、実験等を通じて、特定分野の深い専門知識と周辺分野の幅広い知識を修得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力および知識の体系化能力を培う。特別研究では、理論・実験等の研究指導のもと博士論文を作成し、自立した研究者となるために必要な研究計画能力と総合評価能力を培う。
- 4.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。
- 5.企業経営者等による講義や企業でのインターンシップを通して、産業界で活躍する企業研究リーダーに求められる能力と素養を修得できる講義科目・演習科目を大学院共通教育科目として開設する。

航空宇宙工学分野

博士前期課程

- 1.航空宇宙海洋系専攻航空宇宙工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学域と大学院博士前期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うとともに、航空宇宙工学分野の教育目標の達成を目的として、教育課程編成を行う。
- 2.授業科目は特論等の講義、特別演習、特別研究により編成する。特論等の講義により、専門分野に関する高度な専門知識を獲得させる。特別演習では、学生の専門及び周辺分野についての調査・討論・実験等を通じて、幅広い専門知識を習得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力を高める。特別研究では、理論・実験などの研究指導のもとに修士論文を作成し、専門的な課題についての研究能力と問題解決能力を培う。

- 3.伝統的な学問分野の区分により教育研究を行う従来型の「標準履修課程」と、学生の所属分野に軸足を置きながらも、複数の専攻・分野にわたる横断的な学際領域を履修できる「オプション履修課程」を設ける。
- 4.研究公正について自らの問題として考える姿勢を培い、研究不正の種類や内容について理解させる講義科目を大学院共通教育科目として開設する。
- 5.研究者・技術者に必要な英語の運用能力を修得させるため、英語で実施する講義科目を開設する。
- 6.留学生の教育環境の充実を図り、海外大学との学生交流や教育連携を強化するため、すべての講義を英語で実施する「英語コース標準履修課程」を設ける。
- 7.企業経営者等による講義を通して、産業界で活躍しうるイノベーション創出型研究者としての素養を修得できる講義科目を大学院共通教育科目として開設する。
- 8.修了要件として、共通基礎科目、専門科目、研究指導関連科目の必要単位数を別途定める。
- 9.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

博士後期課程

- 1.空宇宙海洋系専攻航空宇宙工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学域と大学院博士前期課程および後期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うとともに、航空宇宙工学分野の教育目標の達成を目的として、教育課程編成を行う。
- 2.自立した研究者として活躍できる創造的研究開発能力とともに高度な指導能力を養成するため、指導教員が学生の研究目的にあわせ、個別に履修指導を行うとともに、マンツーマンの研究指導を行える指導体制とする。
- 3.授業科目は、特別講義、特別演習、特別研究により編成する。特別講義により、専門分野に関するより高度かつ最新の研究動向に基づいた専門知識を獲得させる。特別演習では、学生の研究課題及び周辺分野の最新の研究動向に関する調査、討論、実験等を通じて、特定分野の深い専門知識と周辺分野の幅広い知識を修得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力及び知識の体系化能力を培う。特別研究では、理論・実験等の研究指導のもと博士論文を作成し、自立した研究者となるために必要な研究計画能力と総合評価

能力を培う。

4.研究公正について自らの問題として考える姿勢を培い、研究不正の種類や内容について理解させる講義科目を大学院共通教育科目として開設する。

5.企業経営者等による講義や企業でのインターンシップを通して、産業界で活躍する企業研究リーダーに求められる能力と素養を修得できる講義科目・演習科目を大学院共通教育科目として開設する。

6.修了要件として、共通教育科目、専門科目、研究指導関連科目の必要単位数を別途定める。

7.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

海洋システム工学分野

博士前期課程

1.航空宇宙海洋系専攻海洋システム工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学域と大学院博士前期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うとともに、航空宇宙海洋系専攻海洋システム工学分野の教育目標の達成を目的として、教育課程編成を行う。

2.授業科目は特論等の講義、特別演習、特別研究により編成する。特論等の講義により、専門分野に関する高度な専門知識を獲得させる。特別演習では、学生の専門及び周辺分野についての調査・討論・実験等を通じて、幅広い専門知識を習得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力を高める。特別研究では、理論・実験などの研究指導のもとに修士論文を作成し、専門的な課題についての研究能力と問題解決能力を培う。

3.伝統的な学問分野の区分により教育研究を行う従来型の「標準履修課程」と、学生の所属分野に軸足を置きながらも、複数の専攻・分野にわたる横断的な学際領域を履修できる「オプション履修課程」を設ける。

4.技術者および研究者として、豊かな教養と高い倫理観を培い、社会貢献と責任について考える能力を修得させるため、「研究公正 A」を大学院共通教育科目として開設する。

5.研究者・技術者に必要な英語の運用能力を修得させるため、英語で実施する講義科目を開設する。

- 6.留学生の教育環境の充実を図り、海外大学との学生交流や教育連携を強化するため、すべての講義を英語で実施する「英語コース標準履修課程」を設ける。
- 7.企業経営者等による講義を通して、産業界で活躍しうるイノベーション創出型研究者としての素養を修得できる講義科目を大学院共通教育科目として開設する。
- 8.講義と海外での環境活動の企画・実践を通して、グローバルな観点から環境問題を理解するとともに国際的な協調力を養成できる自由科目を大学院共通教育科目として開設する。
- 9.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

博士後期課程

- 1.航空宇宙海洋系専攻海洋システム工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学域と大学院博士前期課程および後期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うとともに、航空宇宙海洋系専攻海洋システム工学分野の教育目標の達成を目的として、教育課程編成を行う。
- 2.自立した研究者として活躍できる創造的研究開発能力とともに高度な指導能力を養成するため、指導教員が学生の研究目的にあわせ、個別に履修指導を行うとともに、マンツーマンの研究指導を行える指導体制とする。
- 3.授業科目は、特別講義、特別演習、特別研究により編成する。特別講義により、専門分野に関するより高度かつ最新の研究動向に基づいた専門知識を獲得させる。特別演習では、学生の研究課題及び周辺分野の最新の研究動向に関する調査、討論、実験等を通じて、特定分野の深い専門知識と周辺分野の幅広い知識を修得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力及び知識の体系化能力を培う。特別研究では、理論・実験等の研究指導のもと博士論文を作成し、自立した研究者となるために必要な研究計画能力と総合評価能力を培う。
- 4.技術者および研究者として、高度で豊かな教養と厳格な倫理観を培い、社会貢献と責任について考える能力を修得させるため、「研究公正 B」を大学院共通教育科目として開設する。
- 5.企業経営者等による講義や企業でのインターンシップを通して、産業界で活躍する企業研究リーダーに求められる能力と素養を修得できる講義科目・演習科目を大学院共通教育

科目として開設する。

6.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。"

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針

博士前期課程

航空宇宙海洋系専攻では、航空機・宇宙機・船舶・海洋構造物等に関するシステムの開発（計画・設計・製造・運用・評価）、ならびにその利用にかかわる総合工学分野の先端的教育研究を行い、全地球的な視野から人類の持続可能な発展と地球環境の保全との調和をめざし、高度の創造性、総合性を有し、国際的視野をもって指導的役割を担う、研究開発型技術者・研究者を育成することを目的としている。

航空宇宙工学分野

航空機や宇宙機の開発、宇宙の利用等のため、渦や衝撃波を研究する流体力学、構造の強度と軽量化を研究する構造工学、ジェットエンジンなどを研究する推進工学、自動操縦や航法装置についての制御工学、総合的な評価と設計のためのシステム工学、宇宙から地球を観るリモートセンシングなどの宇宙環境利用工学などを教育研究の専門領域としている。したがって、航空宇宙工学分野では、次のような学生を求める。

- 1.航空宇宙工学分野の技術者、研究者として社会に貢献しようという意欲を持った人
- 2.技術が人・社会・自然に及ぼす影響について、深く考えようとする姿勢と強い責任感を持った人
- 3.科学技術の著しい進歩に対して、主体的、積極的に新しい分野を切り拓こうとする姿勢と熱意を持った人
- 4.英語、数学、物理等の高い基礎学力と当該専門分野の基礎知識を持ち、自ら未知の問題解決のために立ち向かおうとする意欲のある人
- 5.異なる文化を理解し、多彩で国際的なコミュニケーションを図ろうとする意欲を持った人

以上に基づき、次の 1~4 の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.英語で基本的なコミュニケーションが取れ、英文を読んで理解し、書いて表現する基礎的な能力を身に付けていること
- 2.大学卒業レベルの数学、物理学の学力を身に付けていること
- 3.航空宇宙工学の基礎学力を身に付けていること
- 4.科学技術に関する倫理感を身に付けていること

海洋システム工学分野

人間と環境の調和を基本理念とし、海洋の総合的な利活用のために、自然システムと人工システムの融合を図ることをめざした教育・研究を、流体力学、材料・構造工学、システム工学、環境工学などを駆使して実施している。したがって、海洋システム工学分野では、次のような学生を求める。

- 1.海洋システム工学分野の技術者、研究者として社会に貢献しようという意欲を持った人
- 2.技術が人・社会・自然に及ぼす影響について、深く考えようとする姿勢と強い責任感を持った人
- 3.科学技術の著しい進歩に対して、主体的、積極的に新しい分野を切り拓こうとする姿勢と熱意を持った人
- 4.英語、数学、物理等の高い基礎学力と当該専門分野の基礎知識を持ち、自ら未知の問題解決のために立ち向かおうとする意欲のある人
- 5.異なる文化を理解し、多彩で国際的なコミュニケーションを図ろうとする意欲を持った人

以上に基づき、次の 1~3 の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.英語で基本的なコミュニケーションが取れ、英文を読んで理解し、書いて表現する基礎的な能力を身に付けていること
- 2.大学卒業レベルの数学、力学の学力を身に付けていること

3.材料力学、流体力学、システム工学の基礎学力を身に付けていること

博士後期課程

航空宇宙海洋系専攻では、航空機・宇宙機・船舶・海洋構造物等に関するシステムの開発（計画・設計・製造・運用・評価）、ならびにその利用にかかわる総合工学分野の先端的教育研究を行い、全地球的な視野から人類の持続可能な発展と地球環境の保全との調和をめざし、高度の創造性、総合性を有し、国際的視野をもって指導的役割を担う、研究開発型技術者・研究者を育成することを目的とする。

航空宇宙工学分野

航空機や宇宙機の開発、宇宙の利用等のため、渦や衝撃波を研究する流体力学、構造の強度と軽量化を研究する構造工学、ジェットエンジンなどを研究する推進工学、自動操縦や航法装置についての制御工学、総合的な評価と設計のためのシステム工学、宇宙から地球を観るリモートセンシングなどの宇宙環境利用工学などを教育研究の専門領域としている。したがって、航空宇宙工学分野では、次のような学生を求める。

- 1.航空宇宙工学に関する新たな学問分野を開拓し、学問の発展に寄与しようという意欲を持った人
- 2.航空宇宙工学分野の技術者、研究者として社会に貢献しようという意欲を持った人
- 3.技術が人・社会・自然に及ぼす影響について、深く考えようとする姿勢と強い責任感を持った人
- 4.科学技術の著しい進歩に対して、主体的、積極的に新しい分野を切り拓こうとする姿勢と熱意を持った人
- 5.英語、数学、物理学等の高い基礎学力と当該専門分野の基礎知識を持ち、自ら未知の問題解決のために立ち向かおうとする意欲のある人
- 6.異なる文化を理解し、多彩で国際的なコミュニケーションを図ろうとする意欲を持った人

以上に基づき、次の1～5の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.英語でコミュニケーションが取れ、英文を読んで理解し、書いて表現する能力を身に付けていること
- 2.航空宇宙工学分野の研究を行うための数学、物理学の学力を身に付けていること
- 3.航空宇宙工学分野の専門知識を身に付けていること
- 4.航空宇宙工学分野のある学問領域において、研究能力と問題解決能力を身に付けていること
- 5.科学技術に関する倫理感と研究公正に関する正しい認識を身に付けていること

海洋システム工学分野

人間と環境の調和を基本理念とし、海洋の総合的な利活用のために、自然システムと人工システムの融合を図ることをめざした教育・研究を、流体力学、材料・構造工学、システム工学、環境工学などを駆使して実施している。したがって、海洋システム工学分野では、次のような学生を求める。

- 1.海洋システム工学に関する新たな学問分野を開拓し、学問の発展に寄与しようという意欲を持った人
- 2.海洋システム工学分野の技術者、研究者として社会に貢献しようという意欲を持った人
- 3.技術が人・社会・自然に及ぼす影響について、深く考えようとする姿勢と強い責任感を持った人
- 4.科学技術の著しい進歩に対して、主体的、積極的に新しい分野を切り拓こうとする姿勢と熱意を持った人
- 5.英語、数学、物理等の高い基礎学力と当該専門分野の基礎知識を持ち、自ら未知の問題解決のために立ち向かおうとする意欲のある人
- 6.異なる文化を理解し、多彩で国際的なコミュニケーションを図ろうとする意欲を持った人

以上に基づき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.英語でコミュニケーションが取れ、英文を読んで理解し、書いて表現する能力を身に付

けていること

2.海洋システム工学分野の専門知識を身に付けていること

3.航海洋システム工学分野のある学問領域において、研究能力と問題解決能力を身に付けていること"

電子・数物系専攻

○教育目的

博士前期課程

現代工学全般の根幹をなす数理工学およびイノベーション立国の基盤となる電子物理工学の基礎と応用に関する知識と展開力を十分に修得し、社会貢献への使命と工学倫理を身に付けた高度技術職、専門職、研究職への人材育成拠点たることをめざす。

博士前期課程では、数理工学分野と電子物理工学の独自領域、境界領域、ナノサイエンスなど新しく生まれた学問領域の研究をいち早く取り入れた教育を効果的に推進し、柔軟な発想力、正確な分析力、豊かな総合力を備えた人材を育成し広く社会に貢献することを目的にする。

博士後期課程

現代工学全般の根幹をなす数理工学およびイノベーション立国の基盤となる電子物理工学の基礎と応用に関する知識と展開力を十分に修得し、社会貢献への使命と工学倫理を身に付けた高度技術職、専門職、研究職への人材育成拠点たることをめざす。

博士後期課程では、数理工学分野と電子物理工学の独自領域、境界領域、ナノサイエンスなど新しく生まれた学問領域の研究をいち早く取り入れた教育を効果的に推進し、柔軟な発想力、正確な分析力、豊かな総合力を備えた高度の人材を育成し広く社会に貢献することを目的にする。

○教育目標

博士前期課程

電子物理工学分野

1.電子物性に関する物性評価、測定手法、理論解析に関する能力を修得する。

2. ナノ電子デバイスに関する基礎的知識および応用できる能力を修得する。
3. プロセス・材料・評価計測に関する基礎的知識および応用できる能力を修得する。
4. 専門知識に関連する学術論文などに関して、理解でき、分析でき、討論できる能力を養成する。
5. 新しい知識を体系化し、研究論文などに執筆し発表できる能力を養成する。
6. 修士学位取得者に相応しい責任感、倫理観のある判断能力を養成する。

博士後期課程

電子物理工学分野

1. 電子物性に関する物性評価、測定手法、理論解析に関する高い能力を修得する。
2. ナノ電子デバイスに関する基礎的知識および応用できる高い能力を修得する。
3. プロセス・材料・評価計測に関する基礎的知識および応用できる高い能力を修得する。
4. 専門知識に関連する学術論文などに関して、理解でき、分析でき、討論できる高い能力を養成する。
5. 新しい知識を体系化し、研究論文などに執筆し発表できる高い能力を養成する。
6. 博士学位取得者に相応しい責任感、倫理観のある高い判断能力を養成する。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

工学研究科博士前期課程 ディプロマ・ポリシーに加え、電子・数物系専攻では、数理工学分野と電子物理工学分野に基礎を置き、自然現象や社会現象を数理的モデルによって解明し、その結果を工学的に応用するための高度な知識と研究開発能力、また、物性物理・半導体物理に関する実験的・数理工学的解明を進め、新しいエレクトロニクス・デバイスを創製し高度情報化社会を支えることをその基本の理念とする。この理念に基づく数理工学および電子物理工学分野の広範な専門知識の教授と研究指導を通して、基本的研究能力と問題解決能力を培い、自ら知的資産を創造し、当該分野の新領域を開拓できる能力を修得

した者に修士（工学）の学位を授与する。博士前期課程では、所定の年限在学し、研究科規程に定める所要の単位数以上を修得することに加えて、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。

博士後期課程

工学研究科博士後期課程 ディプロマ・ポリシーに加え、電子・数物系専攻では、数理工学分野と電子物理工学分野に基礎を置き、自然現象や社会現象を数理的モデルによって解明し、その結果を工学的に応用するための高度な知識と研究開発能力、また、物性物理・半導体物理に関する実験的・数理工学的解明を進め、新しいエレクトロニクス・デバイスを創製し高度情報化社会を支えることをその基本の理念とする。この理念に基づく数理工学および電子物理工学分野の高度な専門知識の教授と研究指導を通して、自立して研究活動を行い、その成果を総合評価する能力を培い、新しい知識を体系化し、先導的な当該分野の新領域を創生できる能力を修得した者に博士（工学）の学位を授与する。

電子物理工学分野

博士前期課程

電子・数物系専攻電子物理工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に修士（工学）の学位を授与する。

- 1.自然現象や社会現象を数理的モデルによって解明し、その結果を工学的に応用するための高度な知識と研究開発能力を持つ。
- 2.物性物理・半導体物理に関する実験的・数理的解明を進め、新しいエレクトロニクス・デバイスを創製する能力を持つ。
- 3.電子物理工学分野の広範な専門知識の教授と研究指導を通して基本的研究能力を備え、これに基づく諸問題の解決ができる。
- 4.自ら知的資産を創造し、当該分野の新領域を開拓できる。
- 5.国際的な場で、指導的な役割を果たす能力を持つ。

博士後期課程

電子・数物系専攻電子物理工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に博士（工学）の学位を授与する。

- 1.電子物理工学分野に基礎を置き、自然現象や社会現象を数理的モデルによって解明し、その結果を工学的に応用するための高度な知識と研究開発能力を備える。
- 2.物性物理・半導体物理に関する実験的・数理的解明を進め、新しいエレクトロニクス・デバイスを創製する能力を備える。
- 3.高度情報化社会を支えることをその基本の理念に基づく電子物理工学分野の高度な専門知識の教授と研究指導を通して、自立して研究活動を行い、その成果を総合評価する能力を持つ。
- 4.新しい知識を体系化し、先導的な当該分野の新領域を創生できる能力を備える。"

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針

博士前期課程

- 1.工学研究科電子・数物系専攻の教育研究上の理念・目的を踏まえ、学類と大学院博士前期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された教育課程を編成する。
- 2.授業科目は特論等の講義、電子・数物系特別演習、電子・数物系特別研究により編成する。特論等の講義により、専門分野に関する高度な専門知識を獲得させる。電子・数物系特別演習では、学生の専門および周辺分野についての調査・討論・実験等を通じて、幅広い専門知識を習得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力を高める。電子・数物系特別研究では、理論・実験などの研究指導のもとに修士論文を作成し、専門的な課題についての研究能力と問題解決能力を培う。
- 3.伝統的な学問分野の区分により教育研究を行う従来型の「標準履修課程」と、学生の所属分野に軸足を置きながらも、複数の専攻・分野にわたる横断的な学際領域を履修できる「オプション履修課程（応用物理学コース）」を設ける。
- 4.研究者・技術者に必要な英語の運用能力を修得させるため、英語で実施する講義科目を

開設する。

- 5.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。
- 6.留学生の教育環境の充実を図り、海外大学との学生交流や教育連携を強化するため、すべての講義を英語で実施する「英語コース標準履修課程」を設ける。
- 7.企業経営者等による講義を通して、産業界で活躍しうるイノベーション創出型研究者としての素養を修得できる講義科目を大学院共通教育科目として開設する。
- 8.講義と海外での環境活動の企画・実践を通して、グローバルな観点から環境問題を理解するとともに国際的な協調力を養成できる随意科目を大学院共通教育科目として開設する。

博士後期課程

- 1.工学研究科電子・数物系専攻の教育研究上の理念・目的を踏まえ、学類と大学院博士前期課程および後期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された教育課程を編成する。
- 2.自立した研究者として活躍できる創造的研究開発能力とともに高度な指導能力を養成するため、指導教員が学生の研究目的にあわせ、個別に履修指導を行うとともに、マンツーマンの研究指導を行なえる指導体制とする。
- 3.授業科目は、特別講義、電子・数物系特別演習、電子・数物系特別研究により編成する。特別講義により、専門分野に関するより高度かつ最新の研究動向に基づいた専門知識を獲得させる。電子・数物系特別演習では、学生の研究課題および周辺分野の最新の研究動向に関する調査、討論、実験等を通じて、特定分野の深い専門知識と周辺分野の幅広い知識を修得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力および知識の体系化能力を培う。電子・数物系特別研究では、理論・実験等の研究指導のもと博士論文を作成し、自立した研究者となるために必要な研究計画能力と総合評価能力を培う。
- 4.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。
- 5.企業経営者等による講義や企業でのインターンシップを通して、産業界で活躍する企業研究リーダーに求められる能力と素養を修得できる講義科目・演習科目を大学院共通教育科目として開設する。

電子物理工学分野

博士前期課程

- 1.電子・数物系専攻電子物理工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学域と大学院博士前期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された教育課程を編成する。
- 2.授業科目は特論等の講義、電子・数物系特別演習、電子・数物系特別研究により編成する。特論等の講義により、専門分野に関する高度な専門知識を獲得させる。電子・数物系特別演習では、学生の専門及び周辺分野についての調査・討論・実験等を通じて、幅広い専門知識を習得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力を高める。電子・数物系特別研究では、理論・実験などの研究指導のもとに修士論文を作成し、専門的な課題についての研究能力と問題解決能力を培う。
- 3.伝統的な学問分野の区分により教育研究を行う従来型の「標準履修課程」と、学生の所属分野に軸足を置きながらも、複数の専攻・分野にわたる横断的な学際領域を履修できる「オプション履修課程（応用物理学コース）」を設ける。
- 4.技術者および研究者として、豊かな教養と高い倫理観を培い、社会貢献と責任について考える能力を修得させるため、「研究公正 A」を大学院共通教育科目として開設する。
- 5.企業経営者等による講義を通して、産業界で活躍しうるイノベーション創出型研究者としての素養を修得できる講義科目を大学院共通教育科目として開設する。
- 6.研究者・技術者に必要な英語の運用能力を修得させるため、英語で実施する講義科目を開設する。留学生の教育環境の充実を図り、海外大学との学生交流や教育連携を強化するため、すべての講義を英語で実施する「英語コース標準履修課程」を設ける。
- 7.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

博士後期課程

- 1.電子・数物系専攻電子物理工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学域と大学院博士前期課程および後期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された教育課程を編成する。
- 2.授業科目は、特別講義、電子・数物系特別演習、電子・数物系特別研究により編成す

る。特別講義により、専門分野に関するより高度かつ最新の研究動向に基づいた専門知識を獲得させる。電子・数物系特別演習では、学生の研究課題及び周辺分野の最新の研究動向に関する調査、討論、実験等を通じて、特定分野の深い専門知識と周辺分野の幅広い知識を修得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力及び知識の体系化能力を培う。電子・数物系特別研究では、理論・実験等の研究指導のもと博士論文を作成し、自立した研究者となるために必要な研究計画能力と総合評価能力を培う。

3.自立した研究者として活躍できる創造的研究開発能力とともに高度な指導能力を養成するため、指導教員が学生の研究目的にあわせ、個別に履修指導を行うとともに、マンツーマンの研究指導を行なえる指導体制とする。

4.技術者および研究者として、高度で豊かな教養と厳格な倫理観を培い、社会貢献と責任について考える能力を修得させるため、「研究公正 B」を大学院共通教育科目として開設する。

5.企業経営者等による講義や企業でのインターンシップを通して、産業界で活躍する企業研究リーダーに求められる能力と素養を修得できる講義科目・演習科目を大学院共通教育科目として開設する。

6.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

電子・数物系専攻では、現代工学全般の根幹をなす数理工学および 21 世紀科学技術立国の基盤となる電子物理工学の基礎と応用に関する知識と展開力を十分に修得し、社会貢献への使命と工学倫理を身に付けた高度技術職、専門職、研究職への人材育成拠点たることを基本理念としている。

この基本理念のもとで、数理工学分野と電子物理工学分野の独自領域、境界領域、ナノサイエンスなど、新しく生まれた学問領域の研究をいち早く取り入れた教育を効果的に推進し、柔軟な発想力、正確な分析力、豊かな総合力を備えた人材を育成し、広く社会に貢献することを教育の理念としている。このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、工学研究科のアドミッション・ポリシーに加えて、電子・数物系専攻は次のような資質と能力、意欲を持った学生を求める。

- 1.数理工学分野と電子物理工学分野に基礎を置き、技術者、研究者として社会に貢献しようという意欲を持った人
- 2.数理工学分野と電子物理工学分野の技術が人・社会・自然に及ぼす影響について、深く考えようとする姿勢と強い責任感 を持った人
- 3.科学技術の著しい進歩に対して、主体的、積極的に数理工学分野や電子物理工学分野の知識を用いて新しい分野を切り拓こうとする姿 勢と熱意を持った人
- 4.数理工学分野や電子物理工学分野の高い基礎学力と豊かな専門分野の基礎知識を持ち、自ら未知の問題解決のために立ち向かおうとする意欲のある人

以上に基づき、次の 1～3 の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.大学における理系の基礎的な科目および数理工学分野または電子物理工学分野の科目を幅広く学び、基礎学力および数理工学分野または電子物理工学分野の基本的な知識を身に付けていること
- 2.数理工学分野または電子物理工学分野における英文を読んで理解し、書いて表現するための基本的な能力を身に付けていること
- 3.数理工学分野または電子物理工学分野における課題を見つけ、解決しようとする基本的な能力を身に付けていること

博士後期課程

電子・数物系専攻では、現代工学全般の根幹をなす数理工学および 21 世紀科学技術立国の基盤となる電子物理工学の基礎と応用に関する知識と展開力を十分に修得し、社会貢献への使命と工学倫理を身に付けた高度技術職、専門職、研究職への人材育成拠点たることを基本理念としている。

この基本理念のもとで、数理工学分野と電子物理工学分野の独自領域、境界領域、ナノサイエンスなど、新しく生まれた学問領域の研究をいち早く取り入れた教育を効果的に推進し、柔軟な発想力、正確な分析力、豊かな総合力を備えた人材を育成し、広く社会に貢献することを教育の理念としている。このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、工学研究科のアドミッション・ポリシーに加えて、電子・数物系専攻では次のような資質と

能力、意欲を持った学生を求める。

- 1.数理工学分野と電子物理工学分野に基礎を置き、技術者、研究者として社会に貢献しようという意欲を持った人
- 2.数理工学分野と電子物理工学分野の技術が人・社会・自然に及ぼす影響について、深く考えようとする姿勢と強い責任感を持った人
- 3.科学技術の著しい進歩に対して、主体的、積極的に数理工学分野や電子物理工学分野の知識を用いて新しい分野を切り拓こうとする姿勢と熱意を持った人
- 4.数理工学分野や電子物理工学分野の高い基礎学力と豊かな専門分野の基礎知識を持ち、自ら未知の問題解決のために立ち向かおうとする意欲のある人

以上に基づき、次の 1～3 の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.大学および大学院博士前期課程における理系の基礎的な科目および数理工学分野または電子物理工学分野の科目を幅広くかつ深く学び、高い基礎学力および各専門分野の豊かな知識を身に付けていること
- 2.数理工学分野または電子物理工学分野における英文を読んで正確に理解するとともに、自らの研究成果を英文で論理的に表現し、発表するための能力を身に付けていること
- 3.数理工学分野または電子物理工学分野における諸課題を見つけ、それらを体系的に整理するとともに、合理的に解決しようとする高度な能力を身に付けていること

電気・情報系専攻

○教育目的

博士前期課程

情報処理技術および情報通信技術の飛躍的な発展により、社会はグローバル化し、高度にネットワーク化された情報化社会へと革新的に移行し続けている。電気・情報系専攻では、革新的な社会構造の変化に柔軟に対応し、豊かな情報化社会を切り拓くために、電気工学、通信工学、情報工学、知能工学、システム工学、医療システム工学を基礎とした最先端の電気情報システム工学分野および知能情報工学分野の教育を行うことにより、高度なシステム設計能力と情報活用能力、幅広い視野と豊かな人間性と高い倫理観を持った国際的に活躍できる技術者および研究者の育成を行う。

工学研究科博士前期課程では、電気・情報系工学分野の広範な専門知識の教授と研究指導を通して、基本的な研究能力と問題解決能力を培い、自ら知的資産を創造し、新領域を開拓できる人材を育成することを目的とする。

博士後期課程

情報処理技術および情報通信技術の飛躍的な発展により、社会はグローバル化し、高度にネットワーク化された情報化社会へと革新的に移行し続けている。電気・情報系専攻では、革新的な社会構造の変化に柔軟に対応し、豊かな情報化社会を切り拓くために、電気工学、通信工学、情報工学、知能工学、システム工学、医療システム工学を基礎とした最先端の電気情報システム工学分野および知能情報工学分野の教育を行うことにより、高度なシステム設計能力と情報活用能力、幅広い視野と豊かな人間性と厳格な倫理観を持った国際的に活躍できる専門性の高い技術者および研究者の育成を行う。

工学研究科博士後期課程では、電気・情報系工学分野の高度な専門知識の教授と研究指導を通して、自立して研究活動を行い、その成果を総合評価する能力を培い、新しい知識を体系化し、先導的な工学領域を創世できる人材を育成することを目的とする。

○教育目標

博士前期課程

電気情報システム工学分野

1.技術者および研究者としての幅広い教養と高い倫理観

技術者および研究者として、豊かな教養と高い倫理観を培い、社会貢献と責任について考える能力を高める。

2.コミュニケーション能力と必要な語学力

技術者・研究者間でのコミュニケーションに必要なプレゼンテーション技術を習得し、論理的な思考力、読解力、記述力を養うことにより、国際社会において必要なコミュニケーション能力と必要な語学力を高める。

3.高度な専門的知識と問題解決能力

電気電子システム領域、または、システム／制御工学領域、または、情報通信システム工学領域とその周辺の研究領域に関する高度な専門的知識を習得し、実社会の問題を認識し、課題設定を行うとともに、問題を解決する能力を高める。

4.企画・探求能力および豊かな創造力

課題に関連する事項を自ら調査学習し、計画的に課題の解を追求することにより、基礎知識の応用能力、問題解決・探求能力・実践能力を高める。

知能情報工学分野

電気・情報系専攻の教育理念・目的の下、人間の持つ認識、理解、推論、学習などの知的な能力をコンピュータ上で実現し、また、人がさまざまな情報・知識をネットワーク上で安全かつ有効に活用するために必要な画像処理、ソフトウェア工学、情報ネットワーク、知能システム、メディア工学、文書情報メディア処理、知的信号処理、システム工学、知的情報処理、人間情報システム、ナレッジマネジメント、医療情報システム、医療工学などの教育研究を行う。

上記の専門領域において、次の目標に従って教育を実践する。

- 1.知能情報工学分野に関連した広範な専門知識を習得する。
- 2.課題を明確化し、習得した専門知識を用いて課題を分析することで問題解決を行う能力を養う。
- 3.豊かな教養と高い倫理観に基づいて社会貢献と技術者・研究者の責任について考える能力を養う。
- 4.英語の能力を含め、グローバル社会において必要となるトータルなコミュニケーション能力を養う。

博士後期課程

電気情報システム工学分野

1.技術者および研究者としての高度で幅広い教養と厳格な倫理観

技術者および研究者として、高度で豊かな教養と厳格な倫理観を培い、社会貢献と責任について考える能力を高める。

2.コミュニケーション能力と高い語学力および論文執筆能力

国際社会における技術者・研究者間でのコミュニケーションに必要な十分な語学力およびプレゼンテーション技術を習得し、論理的な思考力、読解力、記述力を養うことにより、必要なコミュニケーション能力を高める。また、国際学会等でプレゼンテーション行うために十分な語学力および論文執筆能力を高める。

3.高度専門的知識と研究実践能力

電気電子システム領域、または、システム／制御工学領域、または、情報通信システム工学領域とその周辺の研究領域に関する高度な専門的知識を習得し、実社会の問題を認識し解決する能力および社会的な要請による研究課題を開拓する研究実践能力を高める。

4.企画・探求能力および豊かな創造力

課題に関連する事項を自ら調査学習し、計画的に課題の解を追求することにより、基礎知識の応用能力、問題解決、探求能力を高めるとともに、他分野に応用できる思考能力も高める。

5.研究指導能力およびプロジェクト等をマネジメントする能力

電気情報システム工学分野の幅広い基礎知識と高度な専門知識を駆使した研究指導能力およびプロジェクト等をマネジメントする能力を高める。

知能情報工学分野

電気・情報系専攻の教育理念・目的の下、人間の持つ認識、理解、推論、学習などの知的な能力をコンピュータ上で実現し、また、人がさまざまな情報・知識をネットワーク上で安全かつ有効に活用するために必要な画像処理、ソフトウェア工学、情報ネットワーク、知能システム、メディア工学、文書情報メディア処理、知的信号処理、システム工学、知的情報処理、人間情報システム、ナレッジマネジメント、医療情報システム、医療工学などの教育研究を行う。

上記の専門領域において、次の目標に従って教育を実践する。

- 1.知能情報工学分野に関連した広範かつ高度な専門知識を深く習得する。
- 2.課題を明確化し、習得した専門知識を用いて課題を分析することで主体的に問題解決を行う能力、新しい知識体系を構築できる能力を養う。
- 3.豊かな教養と高い倫理観に基づいて社会貢献と技術者・研究者の責任について考え、実践する能力を養う。
- 4.英語の能力を含め、グローバル社会において必要となるトータルなコミュニケーション能力、指導力を養う。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

科学と技術の融合である工学の領域において、真理の探究と知の創造を重視し、自然環境と調和する科学技術の進展を図り、持続可能な社会の発展と文化の創造に貢献することをその基本の理念とする。この理念に基づく電気・情報工学分野の広範な専門知識の教授と研究指導を通して、下記に示すように、基本的な研究能力と問題解決能力を培い、自ら知的資産を創造し、高い倫理観を持ち、電気・情報工学分野の新領域を開拓できる能力を修得

した者に修士（工学）の学位を授与する。博士前期課程では、所定の年限在学し、研究科規程に定める所要の単位数以上を修得することに加えて、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。

- 1.技術者および研究者としての高い倫理観を有している。
- 2.研究課題を理解し探求できる幅広い基礎知識と基礎学力を有している。
- 3.専門分野に対する深い知識と関連分野の幅広い知識を有している。
- 4.専門分野および関連分野の知識の統合によるシステム設計能力を有している。
- 5.課題設定と課題解決能力を有している。
- 6.高度な実践能力と応用展開能力を有している。
- 7.研究遂行に必要な語学力を有している。

博士後期課程

科学と技術の融合である工学の領域において、真理の探究と知の創造を重視し、自然環境と調和する科学技術の進展を図り、持続可能な社会の発展と文化の創造に貢献することをその基本の理念とする。この理念に基づく電気・情報工学分野の広範な専門知識の教授と研究指導を通して、下記に示すように、基本的研究能力と問題解決能力を培い、自ら知的資産を創造し、高い倫理観を持ち、電気・情報工学分野の新領域を開拓できる能力を修得した者に修士（工学）の学位を授与する。博士前期課程では、所定の年限在学し、研究科規程に定める所要の単位数以上を修得することに加えて、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。

- 1.研究者あるいは技術者としての厳格な倫理観を有している。
- 2.社会的な要請による俯瞰的な視野に立った研究課題を開拓する研究実践能力を有している。
- 3.独自の発想による課題解決能力を有している。
- 4.他分野に応用できる思考能力を有している。

5.国際学会等で発表するのに十分な語学力および論文執筆能力を有している。

6.研究指導を行う能力を有している。

7.研究またはプロジェクト等をマネジメントする能力を有している。

電気情報システム工学分野

博士前期課程

電気・情報系専攻電気情報システム工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に修士（工学）の学位を授与する。

1.技術者および研究者として、豊かな教養と高い倫理観を培い、社会貢献と責任について考える能力を身に付けている。

2.技術者・研究者間でのコミュニケーションに必要なプレゼンテーション技術を習得し、論理的な思考力、読解力、記述力を獲得し、国際社会において必要なコミュニケーション能力と必要な語学力を身に付けている。

3.電気電子システム領域、または、システム／制御工学領域、または、情報通信システム工学領域とその周辺の研究領域に関する高度な専門的知識を習得し、実社会の問題を認識し、課題設定を行うことができ、問題を解決することができる。

4.課題に関連する事項を自ら調査学習し、計画的に課題の解を追求することにより、基礎知識の応用能力、問題解決・探求能力・実践能力を身に付けている。

博士後期課程

電気・情報系専攻電気情報システム工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に博士（工学）の学位を授与する。

1.技術者および研究者として、高度で豊かな教養と厳格な倫理観を培い、社会貢献と責任について考える能力を身に付けている。

2.国際社会における技術者・研究者間でのコミュニケーションに必要な十分な語学力およ

びプレゼンテーション技術を習得し、論理的な思考力、読解力、記述力を獲得し、必要なコミュニケーション能力を身に付けている。また、国際学会等でプレゼンテーションを行うために十分な語学力および論文執筆能力を有している。

3.電気電子システム領域、または、システム／制御工学領域、または、情報通信システム工学領域とその周辺の研究領域に関する高度な専門的知識を習得し、実社会の問題を認識し解決する能力および社会的な要請による研究課題を開拓する研究実践能力を身に付けている。

4.課題に関連する事項を自ら調査学習し、計画的に課題の解を追求することにより、基礎知識の応用能力、問題解決・探求能力および、他分野に応用できる思考能力も身に付けている。

5.電気情報システム工学分野の幅広い基礎知識と高度な専門知識を駆使した研究指導能力およびプロジェクト等をマネジメントする能力を身に付けている。

知能情報工学分野

博士前期課程

電気・情報系専攻知能情報工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に修士（工学）の学位を授与する。

1.技術者および研究者としての高い倫理観をもち、社会貢献と技術者・研究者の責任について考える能力を身に付けている。

2.豊かな教養と高い倫理観に基づいて社会貢献と技術者・研究者の責任について考える能力を身に付けている。

3.所定の単位を修得した上で、専門分野に対する深い知識と関連分野の幅広い知識を身に付けている。

4.研究指導を受け、専門分野および関連分野の知識の統合によるシステム設計能力を身に付けている。

5.課題設定と課題解決能力を身に付けている。

6.高度な実践能力と応用展開能力を身に付けている。

7.研究遂行に必要な語学力を含め、グローバル社会において必要となるトータルなコミュニケーション能力を身に付けている。

博士後期課程

電気・情報系専攻知能情報工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に博士（工学）の学位を授与する。

- 1.豊かな教養と高い倫理観に基づいて社会貢献と技術者・研究者の責任について考え、実践する能力を身に付けている。
- 2.所定の単位を修得した上で、専門分野に対する深い知識と関連分野の幅広い知識を身に付けている。
- 3.研究指導を受け、専門分野および関連分野の知識の統合によるシステム設計能力を身に付けている。
- 4.社会的な要請による俯瞰的な視野に立った研究課題を開拓する研究実践能力を有している。
- 5.独自の発想で主体的に問題解決を行う能力、新しい知識体系を構築できる能力を身に付けている。
- 6.他分野に応用できる思考能力を有している。
- 7.英語の能力を含め、グローバル社会において必要となるトータルなコミュニケーション能力を身に付けている。
- 8.研究指導を行う能力を身に付けている。
- 9.研究またはプロジェクト等をマネジメントする能力を身に付けている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

1.工学研究科および電気・情報系専攻の教育研究上の理念・目的を踏まえ、学域と大学院博士前期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至

る教育を行うことのできる体系化された電気・情報系教育課程を編成する。

2.授業科目は特論等の講義、特別演習、特別研究により編成する。特論等の講義により、電気・情報系の専門分野に関する高度な専門知識を獲得させる。特別演習では、学生の専門および周辺分野についての調査・討論・実験等を通じて、幅広い専門知識を習得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力を高める。特別研究では、理論・実験などの研究指導のもとに修士論文を作成し、専門的な課題についての研究能力と問題解決能力を培う。

3.伝統的な学問分野の区分により教育研究を行う従来型の「標準履修課程」と、学生の所属分野に軸足を置きながらも、本専攻の2つの分野にわたる横断的な学際領域を履修できる「経営情報工学コース」を設ける。

4.研究者・技術者に必要な英語の運用能力を修得させるため、英語で実施する講義科目を開設する。

5.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

6.留学生の教育環境の充実を図り、海外大学との学生交流や教育連携を強化するため、すべての講義を英語で実施する「電気・情報系専攻英語コース」を設ける。

7.企業経営者等による講義を通して、産業界で活躍しうるイノベーション創出型研究者としての素養を修得できる講義科目を大学院共通教育科目として開設する。

8.講義と海外での環境活動の企画・実践を通して、グローバルな観点から環境問題を理解するとともに国際的な協調力を養成できる随意科目を大学院共通教育科目として開設する。

博士後期課程

1.工学研究科および電気・情報系専攻の教育研究上の理念・目的を踏まえ、学域と大学院博士前期課程および後期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された電気・情報系教育課程を編成する。

2.自立した研究者として活躍できる創造的研究開発能力とともに高度な指導能力を養成するため、指導教員が学生の研究目的にあわせ、個別に履修指導を行うとともに、マンツーマンの研究指導を行なえる指導体制とする。

3.授業科目は、特別講義、特別演習、特別研究により編成する。特別講義により、電気・情報系の専門分野に関するより高度かつ最新の研究動向に基づいた専門知識を獲得させる。特別演習では、学生の研究課題および周辺分野の最新の研究動向に関する調査、討論、実験等を通じて、特定分野の深い専門知識と周辺分野の幅広い知識を修得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力および知識の体系化能力を培う。特別研究では、理論・実験等の研究指導のもと博士論文を作成し、自立した研究者となるために必要な研究計画能力と総合評価能力を培う。

4.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

5.企業経営者等による講義や企業でのインターンシップを通して、産業界で活躍する企業研究リーダーに求められる能力と素養を修得できる講義科目・演習科目を大学院共通教育科目として開設する。

電気情報システム工学分野

博士前期課程

1.電気・情報系専攻電気情報システム工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学域と大学院博士前期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された電気・情報系教育課程を編成する。

2.授業科目は特論等の講義、特別演習、特別研究により編成する。特論等の講義により、電気情報システム工学の専門分野に関する高度な専門知識を修得する。特別演習では、学会での口頭発表、ポスター発表形式をとり入れた学生相互の討論等、学生の専門及び周辺分野についての調査・討論・実験等を通じて、幅広い専門知識を習得するとともに、問題の分析・総合・評価能力を修得する。特別研究では、理論・実験などの研究指導のもとに修士論文を作成し、専門的な課題についての研究能力と問題解決能力を修得する。

3.伝統的な学問分野の区分により教育研究を行う従来型の「標準履修課程」と、学生の所属分野に軸足を置きながらも、本専攻の2つの分野にわたる横断的な学際領域を履修できる「経営情報工学コース」を設けることにより、学際領域の専門知識等を修得する。

4.必修授業科目の「研究公正A」により、技術者および研究者として、豊かな教養と高い倫理観を培い、社会貢献と責任について考える能力を修得する。

5.英語で実施する講義科目を開設し、研究者・技術者に必要な英語の運用能力等を修得す

る。

6.留学生の教育環境の充実を図り、海外大学との学生交流や教育連携を強化するため、すべての講義を英語で実施する「電気・情報系専攻英語コース」を設けることにより、国際的な協同を可能とする能力等を修得する。

7.企業経営者等による講義を通して、産業界で活躍しうるイノベーション創出型研究者としての素養を修得できる講義科目を大学院共通教育科目として開設し、産業界において必要な能力等を修得する。

8.講義と海外での環境活動の企画・実践を通して、グローバルな観点から環境問題を理解するとともに国際的な協調力を養成できる自由科目を大学院共通教育科目として開設することにより学際的な視野と教養、国際的な協同を可能とする能力を修得する。

9.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

博士後期課程

1.電気・情報系専攻電気情報システム工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学域と大学院博士前期課程および後期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された電気情報システム工学分野の教育課程を編成する。

2.指導教員が学生の研究目的にあわせ、個別に履修指導を行うとともに、マンツーマンの研究指導を行える指導体制とすることにより、自立した研究者として活躍できる創造的研究開発能力とともに高度な指導能力を修得する。

3.授業科目は、特別講義、特別演習、特別研究により編成する。特別講義により、電気情報システム工学の専門分野に関するより高度かつ最新の研究動向に基づいた専門知識を修得する。特別演習では、学生の研究課題及び周辺分野の最新の研究動向に関する調査、討論、実験等を通じて、特定分野の深い専門知識と周辺分野の幅広い知識を修得するとともに、問題の分析・総合・評価能力及び知識の体系化能力も修得する。特別研究では、理論・実験等の研究指導のもと博士論文を作成し、自立した研究者となるために必要な研究計画能力と総合評価能力を修得する。

4.必修授業科目の「研究公正 B」により、技術者および研究者として、高度で豊かな教養と厳格な倫理観を培い、社会貢献と責任について考える能力を修得する。

5.企業経営者等による講義や企業でのインターンシップを通して、産業界で活躍する企業

研究リーダーに求められる能力と素養を修得できる講義科目・演習科目を大学院共通教育科目として開設することにより、産業界に必要な知識・技能等を修得する。

6.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

知能情報工学分野

博士前期課程

1.電気・情報系専攻知能情報工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学域と大学院博士前期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された教育課程を編成する。

2.授業科目は特論等の講義、特別演習、特別研究により編成する。特論等の講義により、知能情報工学分野に関する高度な専門知識を獲得させる。特別演習では、学生の専門及び周辺分野についての調査・討論・実験等を通じて、幅広い専門知識を習得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力を高める。特別研究では、理論・実験などの研究指導のもとに修士論文を作成し、専門的な課題についての研究能力と問題解決能力を培う。

3.伝統的な学問分野の区分により教育研究を行う従来型の「標準履修課程」と、学生の所属分野に軸足を置きながらも、本専攻の2つの分野にわたる横断的な学際領域を履修できる「経営情報工学コース」を設ける。

4.技術者および研究者として、豊かな教養と高い倫理観を培い、社会貢献と責任について考える能力を修得させるため、「研究公正A」を大学院共通教育科目として開設する。

5.研究者・技術者に必要な英語の運用能力を修得させるため、英語で実施する講義科目を開設する。

6.留学生の教育環境の充実を図り、海外大学との学生交流や教育連携を強化するため、すべての講義を英語で実施する「電気・情報系専攻英語コース」を設ける。

7.企業経営者等による講義を通して、産業界で活躍しうるイノベーション創出型研究者としての素養を修得できる講義科目を大学院共通教育科目として開設する。

8.講義と海外での環境活動の企画・実践を通して、グローバルな観点から環境問題を理解するとともに国際的な協調力を養成できる自由科目を大学院共通教育科目として開設する。

9.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

博士後期課程

- 1.電気・情報系専攻知能情報工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学域と大学院博士前期課程および後期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された電気・情報系教育課程を編成する。
- 2.自立した研究者として活躍できる創造的研究開発能力とともに高度な指導能力を養成するため、指導教員が学生の研究目的にあわせ、個別に履修指導を行うとともに、マンツーマンの研究指導を行える指導体制とする。
- 3.授業科目は、特別講義、特別演習、特別研究により編成する。特別講義により、電気・情報系の専門分野に関するより高度かつ最新の研究動向に基づいた専門知識を獲得させる。特別演習では、学生の研究課題及び周辺分野の最新の研究動向に関する調査、討論、実験等を通じて、特定分野の深い専門知識と周辺分野の幅広い知識を修得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力及び知識の体系化能力を培う。特別研究では、理論・実験等の研究指導のもと博士論文を作成し、自立した研究者となるために必要な研究計画能力と総合評価能力を培う。
- 4.技術者および研究者として、高度で豊かな教養と厳格な倫理観を培い、社会貢献と責任について考える能力を修得させるため、「研究公正 B」を大学院共通教育科目として開設する。
- 5.企業経営者等による講義や企業でのインターンシップを通して、産業界で活躍する企業研究リーダーに求められる能力と素養を修得できる講義科目・演習科目を大学院共通教育科目として開設する。
- 6.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

報通信技術の飛躍的な発展により、社会はグローバル化し、高度にネットワーク化された情報化社会へと革新的に移行し続けている。

電気・情報系専攻では、革新的な社会構造の変化に柔軟に対応し、豊かな情報化社会を切り拓くために、電気工学、通信工学、情報工学、知能工学、システム工学、医療システム工学を基礎とした最先端の電気情報システム工学分野および知能情報工学分野の教育を行うことにより、高度なシステム設計能力と情報活用能力、幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観を持った国際的に活躍できる技術者・研究者の育成を教育研究の理念としている。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、電気・情報系専攻では次のような資質と能力、意欲を持った学生を求める。

- 1.技術者、研究者として社会に貢献しようという意欲を持った人
- 2.電気・情報系の技術が人・社会・自然に及ぼす影響について、深く考えようとする姿勢と強い責任感を持った人
- 3.科学技術の著しい進歩に対して、主体的、積極的に新しい分野を切り拓こうとする姿勢と熱意を持った人
- 4.基礎学力と豊かな専門分野の基礎知識を持ち、自ら未知の問題解決のために立ち向かおうとする意欲のある人
- 5.異なる文化を理解し、多彩で国際的なコミュニケーションを図ろうとする意欲を持った人

以上に基づき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.大学における理系の基礎的な科目および各専門分野の科目を幅広く学び、基礎学力および各専門分野の基本的な知識を身に付けていること
- 2.電気・情報工学の専門分野における英文を読んで理解し、書いて表現するための基本的な能力を身に付けていること
- 3.電気・情報工学における課題を見つけ、解決しようとする基本的な能力を身に付けていること

博士後期課程

情報処理技術および情報通信技術の飛躍的な発展により、社会はグローバル化し、高度にネットワーク化された情報化社会へと革新的に移行し続けている。

電気・情報系専攻では、革新的な社会構造の変化に柔軟に対応し、豊かな情報化社会を切り拓くために、電気工学、通信工学、情報工学、知能工学、システム工学、医療システム工学を基礎とした最先端の電気情報システム工学分野および知能情報工学分野の教育を行うことにより、高度なシステム設計能力と情報活用能力、幅広い視野と豊かな人間性、厳格な倫理観を持った国際的に活躍できる技術者・研究者の育成を教育研究の理念としている。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、電気・情報系専攻では次のような資質と能力、意欲を持った学生を求める。

1. 専門性の高い技術者、自立した研究者として社会に貢献しようという意欲を持った人
2. 電気・情報系の技術が人・社会・自然に及ぼす影響について、主体的に深く考えながら研究に取り組む姿勢と強い責任感を持った人
3. 科学技術の著しい進歩に対して、主体的、積極的に革新的な電気・情報工学分野を創造しようとする姿勢と熱意を持った人
4. 電気・情報工学の深い専門知識および幅広い周辺分野の基礎知識を持ち、問題の分析・総合・評価を行い、知識を体系化しようとする意欲のある人
5. 国際的に、研究成果を発信し、研究活動を行おうとする意欲を持った人

以上に基づき、次の 1~3 の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1. 大学および大学院博士前期課程における理系の基礎的な科目および電気・情報工学分野の科目を幅広くかつ深く学び、高い基礎学力および電気情報工学分野の豊かな知識を身に付けていること
2. 電気・情報工学分野における英文を読んで正確に理解するとともに、自らの研究成果を英文で論理的に表現し、発表するための能力を身に付けていること

3.電気・情報工学における諸課題を見つけ、それらを体系的に整理するとともに、合理的に解決しようとする高度な能力を身に付けていること"

物質・化学系専攻

○教育目的

博士前期課程

物質文明が新しい時代を迎え、資源・エネルギー・環境が地球的な規模で問題となる中にあって、人類社会の持続的発展には人と環境に優しい新素材の開発および有限資源の有効かつ循環的な活用が不可欠であり、それを可能とする新しい物質に関する科学と技術を創造し、地球環境と調和した豊かな社会の構築に貢献する、優れた高度専門職業人・研究者の育成をめざす。無機物質・有機物質・高分子・金属・セラミックスなどを対象とし、新物質、新素材、新材料の創成やその工業生産のための新技術、新概念の創出、さらに資源循環を総合的に含む生産プロセスの構築をめざした先導的な研究を推進するための高度な専門教育を行い、豊かな人間性と高い倫理観を備えた、社会の発展に貢献する人材の育成を目的とする。

博士後期課程

物質文明が新しい時代を迎え、資源・エネルギー・環境が地球的な規模で問題となる中にあって、人類社会の持続的発展には人と環境に優しい新素材の開発および有限資源の有効かつ循環的な活用が不可欠であり、それを可能とする新しい物質に関する科学と技術を創造し、地球環境と調和した豊かな社会の構築に貢献する、豊かな人間性と高い倫理観を備えた、優れた高度専門職業人・研究者の育成をめざす。無機物質・有機物質・高分子・金属・セラミックスなどを対象とし、新物質、新素材、新材料の創成やその工業生産のための新技術、新概念の創出、さらに資源循環を総合的に含む生産プロセスの構築をめざした先導的な研究を推進するための高度な専門教育を行い、社会の発展に貢献するとともに、物質に関する科学と技術に関連する未踏の工学領域を開拓できる人材の育成を目的とする。

○教育目標

博士前期課程

応用化学分野

- 1.化学に関する高度な専門知識・技術を広く学び、化学技術者として、研究課題を展開させる能力を養う。
- 2.物質の構造、反応、性質を原子・分子レベルで理解するために必要な化学の基礎知識と基礎能力を習得する。
- 3.化学技術者として必要な日本語能力および英語能力を養う。
- 4.自ら遂行した研究の成果を論文にまとめるとともに、化学関連の学会・研究会等で発表・討論する能力を養う。
- 5.化学が社会および自然に及ぼす影響について把握し、化学技術者として社会に貢献する使命感、高い倫理観のある判断力を養う。

化学工学分野

- 1.化学的、物理的、生物学的生産プロセスや、それらの複合プロセスの基礎となる各種素過程の平衡論的、速度論的な解析力と応用力を養う。
- 2.資源循環を考慮した物質やエネルギーの生産プロセスに対する最適化および設計手法を修得させる。
- 3.化学工学だけでなく、社会の変化と科学技術の急速な進歩に主体的に対応できる幅広い視野、広範囲な基礎学力および柔軟な思考力を養う。
- 4.修士研究等を通して、問題解決のための調査・研究の手法を修得させ、基礎的研究能力を養うとともに、化学工学の広範な問題に取り組み、解決することのできる能力を身に付けさせる。
- 5.日本語能力、英語能力の向上を図り、会話・読解能力、学術論文や技術資料の調査・分析能力を養うとともに、自ら遂行した研究の成果を論文としてまとめる能力、国内外の学会・研究会等で発表・討論する能力を養う。
- 6.科学技術が社会および自然環境に及ぼす影響・効果の大きさを認識させ、社会に対する責任感、技術者・研究者として社会に貢献する使命感、高い倫理観のある判断力などを養う。

マテリアル工学分野

- 1.理工学の基礎としての数学、物理学および化学を習得し、その知識にもとづいて専門の学理を理解し応用する能力を養う。

- 2.材料の物理的・化学的性質、微細構造、材料合成・加工法、評価方法を理解する能力を養う。
- 3.専門に関する学術・技術情報を収集する能力、および収集した情報を分析・解析する能力を養う。
- 4.科学技術・工学と社会との関係を理解し、科学者・工学技術者として守るべき倫理を身に付ける。
- 5.研究計画を立て、実験と理論を駆使して課題を解決する能力を養う。国内外さまざまな場における研究発表を通じて効果的なプレゼンテーションを行う能力を養う。
- 6.外国語の研究論文や技術資料の調査、および自らの研究成果を外国語で論文・ポスター・口頭発表等の方法で発信することを通じて、外国語での専門的コミュニケーション能力を養う。
- 7.科学技術が社会や自然に及ぼす影響、および技術者が社会・環境に対して負う責任を理解し、地球的観点から物事を多面的に考える能力を養う。
- 8.物質・材料に関する科学・工学の現状を理解し、将来のマテリアル工学のあり方を予測する能力を養う。さらに、豊かな人間性と広い視野を持って独創的方法でさまざまな課題に柔軟に対応できる能力を養う。

博士後期課程

応用化学分野

- 1.化学に関する高度な専門知識・技術を広く学び、化学技術者、研究者として、自立して研究課題を展開させ、自ら問題を設定し解決できる能力とともに、科学技術の発展と革新を担うことができる高い創造性と研究能力を養う。
- 2.物質の構造、反応、性質を原子・分子レベルで理解するために必要な化学の基礎知識と基礎能力を習得し、応用化学分野における研究・開発のための基礎的能力と柔軟な思考力を養う。
- 3.化学技術者、研究者として必要な日本語能力および英語能力の向上を図り、学術論文や技術資料の調査、分析能力、理解力などを養う。
- 4.自ら遂行した研究の成果を論文にまとめるとともに、化学関連の国内外の学会・研究会

等で発表・討論する能力を養う。

5.化学だけでなく広く科学技術が、社会および自然に及ぼす影響について把握し、化学技術者、研究者として社会に貢献する使命感、高い倫理観のある判断力を養う。

化学工学分野

1.化学に関する高度な専門知識・技術を広く学び、化学技術者、研究者として、自立して研究課題を展開させ、自ら問題を設定し解決できる能力とともに、科学技術の発展と革新を担うことができる高い創造性と研究能力を養う。

2.物質の構造、反応、性質を原子・分子レベルで理解するために必要な化学の基礎知識と基礎能力を習得し、応用化学分野における研究・開発のための基礎的能力と柔軟な思考力を養う。

3.化学技術者、研究者として必要な日本語能力および英語能力の向上を図り、学術論文や技術資料の調査、分析能力、理解力などを養う。

4.自ら遂行した研究の成果を論文にまとめるとともに、化学関連の国内外の学会・研究会等で発表・討論する能力を養う。

5.化学だけでなく広く科学技術が、社会および自然に及ぼす影響について把握し、化学技術者、研究者として社会に貢献する使命感、高い倫理観のある判断力を養う。

マテリアル工学分野

1.理工学の基礎としての数学、物理学および化学を習得し、その知識にもとづいて専門の学理を理解し応用する能力、および科学技術を進展させる能力を養う。

2.材料の物理的・化学的性質、微細構造、材料合成・加工法、評価方法を理解し、それらを応用する能力を養う。

3.専門に関する学術・技術情報を収集する能力、および収集した情報を詳細に分析・解析する能力を養う。

4.科学技術・工学と社会との関係、関連する規程等を理解し、科学者・工学技術者として守るべき倫理を身に付ける。

5.研究計画を立て、実験と理論を駆使してさまざまな課題を解決する能力を養う。国内外さまざまな場における研究発表を通じて効果的で高度なプレゼンテーションを行う能力を養う。

6.外国語の研究論文や技術資料の調査、および自らの研究成果を外国語で論文・ポスター・口頭発表等の方法で発信すること、海外の学会で活動することなどを通じて、外国語での高度な専門的コミュニケーション能力を養う。

7.科学技術が社会や自然に及ぼす影響、および技術者が社会・環境に対して負う責任を十分理解し、地球的観点から物事を多面的に考察し問題を解決する能力を養う。

8.物質・材料に関する科学・工学の現状を理解し、将来のマテリアル工学のあり方を的確に予測する能力を養う。さらに、豊かな人間性と広い視野を持って独創的方法でさまざまな課題に柔軟で適切に対応できる能力を養う。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

物質科学と化学技術の融合である物質・化学の領域において、真理の探究と知の創造を重視し、自然環境と調和する科学技術の進展を図り、持続可能な社会の発展と文化の創造に貢献することをその基本の理念とする。この理念に基づく物質・化学に関する工学分野の広範な専門知識の教授と研究指導を通して、基本的研究能力と問題解決能力を培い、自ら知的資産を創造し、応用化学、化学工学、マテリアル工学の三分野の何れかの新領域を開拓できる能力を修得した者に修士（工学）の学位を授与する。

博士前期課程では、所定の年限在学し、研究科規程に定める所要の単位数以上を修得することに加えて、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。

博士後期課程

物質科学と化学技術の融合である物質・化学の領域において、真理の探究と知の創造を重視し、自然環境と調和する科学技術の進展を図り、持続可能な社会の発展と文化の創造に貢献することをその基本の理念とする。この理念に基づく物質・化学に関する工学分野の高度な専門知識の教授と研究指導を通して、自立して研究活動を行い、その成果を総合評価する能力を培い、新しい知識を体系化し、応用化学、化学工学、マテリアル工学の三分野の何れかの先導的な領域を創生できる能力を修得した者に博士（工学）の学位を授与す

る。

博士後期課程では、所定の年限在籍し、研究科規程に定める所要の単位数以上を修得することに加えて、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。

応用化学分野

博士前期課程

物質・化学系専攻応用化学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に修士（工学）の学位を授与する。

- 1.化学に関する高度な専門知識・技術を広く学び、化学技術者として、研究課題を展開させる能力を身に付けている。
- 2.物質の構造、反応、性質を原子・分子レベルで理解するために必要な化学の基礎知識と基礎能力を習得している。
- 3.化学技術者として必要な日本語能力および英語能力を身に付けている。
- 4.自ら遂行した研究の成果を論文にまとめるとともに、化学関連の学会・研究会等で発表・討論できる。
- 5.化学が社会および自然におよぼす影響について把握でき、化学技術者として社会に貢献する使命感、高い倫理観のある判断力を身に付けている。

博士後期課程

物質・化学系専攻応用化学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に博士（工学）の学位を授与する。

- 1.化学に関する高度な専門知識・技術を広く学び、化学技術者、研究者として、自立して

研究課題を展開させ、自ら問題を設定し解決できる能力とともに、科学技術の発展と革新を担うことができる高い創造性と研究能力を身に付けている。

2.物質の構造、反応、性質を原子・分子レベルで理解するために必要な化学の基礎知識と基礎能力を習得し、応用化学分野における研究・開発のための基礎的能力と柔軟な思考力を身に付けている。

3.化学技術者、研究者として必要な日本語能力および英語能力を持ち、学術論文や技術資料の調査、分析、理解ができる。

4.自ら遂行した研究の成果を論文にまとめるとともに、化学関連の国内外の学会・研究会等で発表・討論することができる。

5.化学だけでなく広く科学技術が社会および自然におよぼす影響について把握でき、化学技術者、研究者として社会に貢献する使命感、高い倫理観にもとづく判断力を身に付けている。

化学工学分野

博士前期課程

物質・化学系専攻化学工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に修士（工学）の学位を授与する。

1.日本語および英語で、物質・化学、特に化学工学の専門に関する文章を読み、その内容を理解することができ、化学的、物理的、生物学的生産プロセスやその複合プロセスについて科学的・論理的な議論ができる。

2.物質・化学および化学工学に関する専門知識を利用することにより、リサイクル、資源の枯渇問題および環境への負荷などを考慮した生産プロセスの構築および評価をすることができる。

3.物質・化学および化学工学に関する専門知識を利用することにより、地球規模の環境問題を含む社会の様々な問題の解決を考慮した生産技術の創製および評価をすることができる。

4.新しい研究課題に対し、新しい実験方法の開発および実験結果の解析を、物理・化学、および化学工学の知見に基づき行うことができる。解決方法を明確に提案することができる。

5.文献検索システムやインターネットなどを用いて物質・化学および化学工学の専門に関する情報を収集・分析し、その価値を判断することができる。これらをまとめて日本語および英語の論理的な記述力、口頭発表力、討議などの国際的コミュニケーションができる

6.技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を自覚し、高い倫理観で判断できる。課題研究の公正な推進を行うことができる。

博士後期課程

物質・化学系専攻化学工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に博士（工学）の学位を授与する。

1.日本語および英語で、物質・化学、特に化学工学の専門に関する文章を読み、その内容を理解することができ、化学的、物理的、生物学的生産プロセスやその複合プロセスについて科学的・論理的な議論ができる。

2.物質・化学および化学工学に関する専門知識を利用することにより、リサイクル、資源の枯渇問題および環境への負荷などを考慮した生産プロセスの構築および評価をすることができる。

3.物質・化学および化学工学に関する専門知識を利用することにより、地球規模の環境問題を含む社会の様々な問題の解決を考慮した生産技術の創製および評価をすることができる。

4.新しい研究課題に対し、新しい実験方法の開発および実験結果の解析を、物理・化学、および化学工学の知見に基づき行うことができる。従来にはない新しい解決方法を独立して提案することができる。

5.文献検索システムやインターネットなどを用いて物質・化学および化学工学の専門に関する情報を収集・分析し、その価値を判断することができる。これらをまとめて日本語および英語の論理的な記述力、口頭発表力、討議などの国際的コミュニケーションができる。

6.技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を自覚し、高い倫理観で判断できる。課題研究の公正な推進を行うことができる。

マテリアル工学分野

博士前期課程

物質・化学系専攻マテリアル工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に修士（工学）の学位を授与する。

- 1.理工学の基礎としての数学、物理学および化学の知識に基づいて専門の学理を理解し応用することができる。
- 2.材料の物理的・化学的性質、微細構造、材料合成・加工法、評価方法を理解できる。
- 3.専門に関する学術・技術情報を収集し、分析・解析することができる。
- 4.科学技術・工学と社会との関係を理解し、科学者・工学技術者として守るべき倫理を身に付けることができる。
- 5.研究計画を立て、実験と理論を駆使して課題を解決し、国内外様々な場所における研究発表を通じて効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
- 6.外国語の研究論文や技術資料の調査、および自らの研究成果を外国語で発信することを通じて、外国語での専門的コミュニケーションを行うことができる
- 7.科学技術が社会や自然に及ぼす影響、および技術者が社会・環境に対して負う責任を理解し、地球的観点から物事を多面的に考えることができる。
- 8.物質・材料に関する科学・工学の現状を理解し、将来のマテリアル工学のあり方を予測するとともに、豊かな人間性と広い視野を持って独創的方法で様々な課題に柔軟に対応することができる。

博士後期課程

物質・化学系専攻マテリアル工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に博士（工学）の学位を授与する。

- 1.理工学の基礎としての数学、物理学および化学の知識に基づいて専門の学理を理解し応用すること、および科学技術を進展させることができる。
- 2.材料の物理的・化学的性質、微細構造、材料合成・加工法、評価方法を理解し、それらを応用することができる。
- 3.専門に関する学術・技術情報を収集し、詳細に分析・解析することができる。
- 4.科学技術・工学と社会との関係、関連する規程等を理解し、科学者・工学技術者として

守るべき倫理を身に付けることができる。

5.研究計画を立て、実験と理論を駆使して様々な課題を解決し、国内外様々な場所における研究発表を通じて効果的で高度なプレゼンテーションを行うことができる。

6.外国語の研究論文や技術資料の調査、および自らの研究成果を外国語で発信すること、海外の学会で活動することなどを通じて、外国語での高度な専門的コミュニケーションを行うことができる。

7.科学技術が社会や自然に及ぼす影響、および技術者が社会・環境に対して負う責任を十分理解し、地球的観点から物事を多面的に考察し問題を解決することができる。

8.物質・材料に関する科学・工学の現状を理解し、将来のマテリアル工学のあり方を的確に予測するとともに、豊かな人間性と広い視野を持って独創的方法で様々な課題に柔軟で適切に対応することができる。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

1.物質・化学系専攻の教育研究上の理念・目的を踏まえ、学域と大学院博士前期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された物質・化学系教育課程を編成する。

2.授業科目は特論等の講義、特別演習、特別研究により編成する。特論等の講義により、学生の所属分野（応用化学、化学工学、マテリアル工学）の専門に関する高度な専門知識を獲得させる。特別演習では、学生の専門および周辺分野についての調査・討論・実験等を通じて、幅広い専門知識を習得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力を高める。特別研究では、理論・実験などの研究指導のもとに修士論文を作成し、物質・化学系の専門的な課題についての研究能力と問題解決能力を培う。

3.伝統的な学問分野の区分により教育研究を行う従来型の「標準履修課程」と、学生の所属分野に軸足を置きながらも、複数の専攻・分野にわたる横断的な学際領域を履修できる「オプション履修課程」を設ける。

4.研究者・技術者に必要な英語の運用能力を修得させるため、英語で実施する講義科目を開設する。

- 5.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。
- 6.留学生の教育環境の充実を図り、海外大学との学生交流や教育連携を強化するため、すべての講義を英語で実施する「英語コース標準履修課程」を設ける。
- 7.企業経営者等による講義を通して、産業界で活躍しうるイノベーション創出型研究者としての素養を修得できる講義科目を大学院共通教育科目として開設する。
- 8.講義と海外での環境活動の企画・実践を通して、グローバルな観点から環境問題を理解するとともに国際的な協調力を養成できる随意科目を大学院共通教育科目として開設する。

博士後期課程

- 1.物質・化学系専攻の教育研究上の理念・目的を踏まえ、学域と大学院博士前期課程および後期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された物質・化学系教育課程を編成する。
- 2.自立した研究者として活躍できる創造的研究開発能力とともに高度な指導能力を養成するため、指導教員が学生の研究目的にあわせ、個別に履修指導を行うとともに、マンツーマンの研究指導を行なえる指導体制とする。
- 3.授業科目は、特別講義、特別演習、特別研究により編成する。特別講義により、学生の所属分野（応用化学、化学工学、マテリアル工学）の専門に関するより高度かつ最新の研究動向に基づいた専門知識を獲得させる。特別演習では、学生の研究課題および周辺分野の最新の研究動向に関する調査、討論、実験等を通じて、物質・化学系の特定分野の深い専門知識と周辺分野の幅広い知識を修得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力および知識の体系化能力を培う。特別研究では、理論・実験等の研究指導のもと博士論文を作成し、自立した研究者となるために必要な研究計画能力と総合評価能力を培う。
- 4.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。
- 5.企業経営者等による講義や企業でのインターンシップを通して、産業界で活躍する企業研究リーダーに求められる能力と素養を修得できる講義科目・演習科目を大学院共通教育科目として開設する。

応用化学分野

博士前期課程

物質・化学系専攻応用化学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、以下のカリキュラムを編成する。

- 1.化学に関する高度な専門知識・技術を広く学ばせるため、無機・物理化学系および有機・高分子化学系の特論科目を専門科目として配当する。これらの科目は講義形式で実施し、その知識を「物質・化学系特別研究第一・第二」における研究課題の解決に活かし、研究課題を展開する能力を身に付けさせる。
- 2.物質の構造、反応、性質を原子・分子レベルで理解させるため、無機・物理化学系および有機・高分子化学系の特論科目では、専門知識に加え、それぞれの科目に関連する化学の基礎知識と基礎能力を習得するための講義を実施する。
- 3.化学技術者として必要な日本語能力および英語能力は「物質・化学系特別演習第一・第二」における学生の専門及び周辺分野についての調査・討論・実験等を通じて身に付けさせる。また、すべて英語で実施する講義として「応用化学特論Ⅰ・Ⅲ」を配当し、英語能力の向上に活かすこととする。
- 4.自ら遂行した研究の成果を論文にまとめる能力を養わせるため、「物質・化学系特別研究第一・第二」を配当し、理論・実験などに関する研究指導を通して得られた研究成果に基づいて修士論文を執筆させ、添削指導をする。また、この過程を通して応用化学に関する専門的な課題についての研究能力と問題解決能力、化学関連の学会・研究会等で発表・討論できる能力を身に付けさせる。
- 5.化学だけでなく広く科学技術が社会および自然におよぼす影響について把握するため、「国際環境学特論」、「環境コミュニケーション特論」、「国際環境活動特別演習」、「イノベーション創出型研究者養成」を配当する。また、「研究公正A」を配当し、演習やプレゼンテーションの講義を通して、化学技術者として社会に貢献する使命感、高い倫理観に基づく判断力を身に付けさせる。
- 6.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

博士後期課程

物質・化学系専攻応用化学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、以下のカリキュラムを編成する。

- 1.応用化学分野の専門に関する高度かつ最新の研究に基づいて専門知識・技術を習得させるため、無機・物理化学系および有機・高分子化学系の特別講義科目を専門科目として配当する。これらの科目は個人指導形式で実施し、その知識を「物質・化学系特別研究第

三・第四」で実施する研究課題に展開し、自ら問題を設定し解決できる能力とともに、科学技術の発展と革新を担うことができる高い創造的能力と高度の指導能力を身に付けさせる。

2.物質の構造、反応、性質を原子・分子レベルで理解させるため、無機・物理化学系および有機・高分子化学系の特別講義科目では、より高度かつ最新の研究動向に基づいた専門知識を習得するための講義を実施する。この講義の受講を通して応用化学分野における研究・開発のための基礎的能力と柔軟な思考力を身に付けさせる。

3.問題の分析・評価能力および知識の体系化能力を養わせるため、「物質・化学系特別演習第三・第四」を配当し、研究課題および周辺分野の最新の研究動向に関する幅広い専門知識を習得させる。

4.自立した研究者となるために必要な研究計画能力と総合評価能力を養わせるため、「物質・化学系特別研究第三・第四」において、理論・実験などに関する研究指導を通して得られた研究成果に基づいて博士論文を執筆させ、添削指導をする。また、この過程を通して応用化学に関する専門的な課題についての研究能力と問題解決能力、化学関連の国内外の学会・研究会等で発表・討論できる能力を身に付けさせる。

5.化学だけでなく広く科学技術が社会および自然におよぼす影響について把握させるため、「イノベーション創出型研究者養成Ⅰ－Ⅳ」を配当する。また、「研究公正B」を配当し、演習やプレゼンテーションの講義を通して化学技術者、研究者として社会に貢献する使命感、高い倫理観に基づく判断力を身に付けさせる。

6.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

化学工学分野

博士前期課程

物質・化学系専攻化学工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、以下のカリキュラムを編成する。

1.日本語および英語で、物質・化学、特に化学工学の専門に関する文章を読み、その内容を理解することができ、化学的、物理的、生物学的生産プロセスやその複合プロセスについて科学的・論理的な議論ができるように、例えば、「粉体工学特論」、「反応工学特論」、「化学工学流体力学特論」、「プロセスシステム工学特論」、「分離工学特論」、「材料プロセス工学特論」などを配置する。

2.物質・化学および化学工学に関する専門知識を利用することにより、リサイクル、資源の枯渇問題および環境への負荷などを考慮した生産プロセスの構築および評価をすることができるように、例えば、「資源工学特論」、「物質循環科学・工学特論」などを科目として配置する。

3.物質・化学および化学工学に関する専門知識を利用することにより、地球規模の環境問題を含む社会の様々な問題の解決を考慮した生産技術の創製および評価をすることができるように、例えば、「化学工学特論」、「エネルギー循環科学・工学特論」などを配置する。

4.新しい研究課題に対し、新しい実験方法の開発および実験結果の解析を、物理・化学、および化学工学の知見に基づき行うことができる。解決方法を明確に提案することができるように、「物質・化学系特別研究第一、第二」を配置する。

5.文献検索システムやインターネットなどを用いて物質・化学および化学工学の専門に関する情報を収集・分析し、その価値を判断することができる。これらをまとめて日本語および英語の論理的な記述力、口頭発表力、討議などの国際的コミュニケーションができるように、「物質化学系特別演習第一、第二」、「物質・化学系特別研究第一、第二」を配置する。

6.技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を自覚し、高い倫理観で判断できる。課題研究の公正な推進を行うことができるように「研究公正 A」を配置する。

7.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

博士後期課程

物質・化学系専攻化学工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、以下のカリキュラムを編成する。

1.日本語および英語で、物質・化学、特に化学工学の専門に関する文章を読み、その内容を理解することができ、化学的、物理的、生物学的生産プロセスやその複合プロセスについて科学的・論理的な議論ができるように、例えば、「粉体工学特別講義」、「反応工学特別講義」、「分離工学特別講義」、「化学工学流体力学特別講義」などを配置する。

2.物質・化学および化学工学に関する専門知識を利用することにより、リサイクル、資源の枯渇問題および環境への負荷などを考慮した生産プロセスの構築および評価をすることができるように、例えば、「資源循環科学・工学特別講義」などを科目として配置する。

3.物質・化学および化学工学に関する専門知識を利用することにより、地球規模の環境問題を含む社会の様々な問題の解決を考慮した生産技術の創製および評価をすることができるよう、例えば、「材料プロセス特別講義」、「プロセスシステム工学特別講義」などを配置する。

4.新しい研究課題に対し、新しい実験方法の開発および実験結果の解析を、物理・化学、および化学工学の知見に基づき行うことができる。解決方法を明確に提案することができるように、「物質・化学系特別研究第三、第四」を配置する。

5.文献検索システムやインターネットなどを用いて物質・化学および化学工学の専門に関する情報を収集・分析し、その価値を判断することができる。これらをまとめて日本語および英語の論理的な記述力、口頭発表力、討議などの国際的コミュニケーションができるように、「物質化学系特別演習第三、第四」、「物質・化学系特別研究第三、第四」を配置する。

6.技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を自覚し、高い倫理観で判断できる。課題研究の公正な推進を行うことができるように「研究公正 B」を配置する。

7.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

マテリアル工学分野

博士前期課程

1.物質・化学系専攻マテリアル工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学域と大学院博士前期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育課程によって、学域から大学院に至る一連の体系化されたマテリアル工学分野の専門知識と技能を修得する。

2.授業科目は特論等の講義、特別演習、特別研究により編成される。特論等の講義により、マテリアル工学の専門に関する高度な専門知識を修得する。特別演習では、専門及び周辺分野に関する調査・討論・実験等を通じて、幅広い専門知識を修得するとともに、問題の高度な分析・総合・評価能力を修得する。特別研究では、理論・実験などの研究指導のもとで修士論文を作成し、マテリアル工学分野の専門的な課題についての研究能力と問題解決能力を身に付ける。

3.伝統的な学問分野の区分により教育研究を行う従来型の「標準履修課程」と、学生の所属分野に軸足を置きながらも、複数の分野にわたる横断的な学際領域を履修できる「マテリアル・環境材料コース」と「マテリアル・エネルギー材料コース」を選択できる。

- 4.大学院共通教育科目の「研究公正 A」を受講し、科学技術・工学と社会との関係を理解し、研究の公正性に責任を持つ倫理観を修得する。
- 5.英語で実施する講義科目「結晶物理学特論」及び「プロセス反応学特論」の受講により、研究者・技術者に必要な英語の運用能力を修得する。
- 6.すべての講義を英語で実施する「英語コース標準履修課程」の選択により、留学生の教育環境の充実を図り、海外大学との学生交流や教育連携を強化することができる。当該分野の国際化を目的とした分野教員によるオムニバス形式の留学生限定科目「マテリアル工学特論」も選択可能である。
- 7.大学院共通教育科目の企業経営者等による講義を通して、産業界で活躍しうるイノベーション創出型研究者としての素養を修得する。
- 8.大学院共通教育科目としての国際環境に関する講義と海外での環境活動の企画・実践を行う特別演習を通して、グローバルな観点で環境問題を理解する能力と国際的な協調力を修得する。
- 9.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

博士後期課程

- 1.物質・化学系専攻マテリアル工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学域と大学院博士前期課程および後期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育課程によって、学域から大学院に至る一連の体系化されたマテリアル工学分野のより深い専門知識と技能を修得する。
- 2.自立した研究者として活躍できる創造的研究開発能力とともに高度な指導能力を身に付けるために、学生が研究目的にあわせて個別に講義科目を履修するとともに、マンツーマンの研究指導を受ける。
- 3.授業科目は、特別講義、特別演習、特別研究により編成する。特別講義により、マテリアル工学分野の専門に関するより高度かつ最新の研究動向に基づいた専門知識を修得する。特別演習では、学生の研究課題及び周辺分野の最新の研究動向に関する調査、討論、実験等を通じて、マテリアル工学分野の深い専門知識と周辺分野の幅広い知識を修得するとともに、問題の分析・総合・評価能力及び知識の体系化能力を修得する。特別研究では、理論・実験等の研究指導のもとで博士論文を作成し、自立した研究者となるために必要な研究計画能力と総合評価能力を身に付ける。

4.大学院共通教育科目の「研究公正 B」を受講し、科学技術・工学と社会との関係を理解し、研究の公正性に責任を持つ倫理観を修得する。

5.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

6.大学院共通教育科目の企業経営者等による講義や企業でのインターンシップのような演習を通して、産業界で活躍する企業研究リーダーに求められる能力と素養を修得する。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

物質・化学系専攻では、人と社会と自然に対する広い視野と深い知識を持ち、豊かな人間性、高い倫理観、高度の専門能力を兼ね備え、応用化学、化学工学、マテリアル工学の三分野のうち何れかの分野における重要な課題を主体的に認識して問題の解決に努め、社会の発展、福祉の向上、および文化の創造に貢献できる技術者、研究者を育成することを理念とし、物質・化学に関する教育研究を行っている。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、物質・化学系専攻は次のような資質と能力、意欲を持った学生を求める。

- 1.物質・化学に関する技術者、研究者として社会に貢献しようという意欲を持った方
- 2.物質・化学に関する技術が人・社会・自然に及ぼす影響について、深く考えようとする姿勢と強い責任感を持った方
- 3.科学技術の著しい進歩に対して、主体的、積極的に新しい分野を切り拓こうとする姿勢と熱意を持った方
- 4.高い基礎学力と豊かな専門分野の基礎知識を持ち、自ら未知の問題解決のために立ち向かおうとする意欲のある方
- 5.異なる文化を理解し、多彩で国際的なコミュニケーションを図ろうとする意欲を持った方

以上に基つき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.大学における理系の基礎的な科目および各専門分野の科目を幅広く学び、基礎学力および各専門分野の基本的な知識を身に付けていること
- 2.物質・化学に関する専門分野における英文を読んで理解し、書いて表現するための基本的な能力を身に付けていること
- 3.物質・化学に関する課題を見つけ、解決しようとする基本的な能力を身に付けていること

博士後期課程

物質・化学系専攻では、人と社会と自然に対する広い視野と深い知識を持ち、豊かな人間性、高い倫理観、高度の専門能力を兼ね備え、応用化学、化学工学、マテリアル工学の三分野のうち何れかの分野における重要な課題を主体的に認識して問題の解決に努め、社会の発展、福祉の向上、および文化の創造に貢献できる技術者、研究者を育成することを理念とし、物質・化学に関する教育研究を行っている。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、物質・化学系専攻は次のような資質と能力、意欲を持った学生を求める。

- 1.物質・化学に関する専門性の高い技術者、自立した研究者として社会に貢献しようという意欲を持った方
- 2.科学技術が人・社会・自然に及ぼす影響について深く考えながら、物質・化学に関する研究に取り組む姿勢と強い責任感を持った方
- 3.科学技術の著しい進歩に対して、主体的、積極的に物質・化学に関する新しい分野を切り拓こうとする姿勢と熱意を持った方
- 4.物質・化学に関する深い専門知識と周辺分野の幅広い知識を持ち、問題の分析・総合・評価を行い、知識を体系化しようとする意欲のある方
- 5.国際的にも、研究成果を発信し、研究活動を行おうとする意欲を持った方

以上にに基づき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.大学および大学院博士前期課程における理系の基礎的な科目および物質・化学に関する工学分野の科目を幅広くかつ深く学び、高い基礎学力および物質・化学に関する豊かな知

識を身に付けていること

2.物質・化学に関する英文を読んで正確に理解するとともに、自らの研究成果を英文で論理的に表現し、発表するための能力を身に付けていること

3.物質・化学に関する諸課題を見つけ、それらを体系的に整理するとともに、合理的に解決しようとする高度な能力を身に付けていること

量子放射線系専攻

○教育目的

博士前期課程

量子放射線工学の広範な専門知識の教授と研究指導を通して、基本的研究能力と問題解決能力を培い、自ら知的資産を創造し、新領域を開拓できる人材を育成する。学際研究の遂行に必要な広い分野の知識を身に付け、各種装置の実践的な技術を習得すると共に、法律の順守や社会との関係についても配慮できる人材を育成する。

博士後期課程

量子放射線工学の高度な専門知識の教授と研究指導を通して、自立して研究活動を行い、その成果を総合評価する能力を培い、新しい知識を体系化し、先導的な工学領域を創生できる人材を育成する。学際研究の遂行に必要な高度な専門知識を身に付け、各種装置の高度な技術を習得すると共に、法律の順守や社会との関係についても配慮できる人材を育成する。

○教育目標

博士前期課程

- 1.量子放射線工学にかかわる高度な技術、原子力エネルギー開発への応用を通して、安全で自然環境と調和する持続可能な社会に貢献する使命感、科学技術が人・社会・自然に及ぼす影響について深く考える姿勢と責任感、高い倫理観に基づく判断力、行動力を培う。
- 2.量子放射線工学に必要な幅広い分野の基礎学力、発生装置機器とその取扱いや安全管理についての基礎的な知識と技術を身に付け、それらを統合して応用することにより、社会の変化と科学技術の進歩に対応できる技術と思考力を培う。
- 3.量子放射線工学の基礎学力と基礎技術およびその応用力を育成し、問題解決のために独自の発想で課題を探究して研究を遂行する能力、そして知的資産を創造する能力を培う。
- 4.国際社会で活動を行うための広い視野を養うと共に、日本語能力、英語能力の向上を図り、会話・読解能力、学術論文や技術資料の調査・分析能力ならびに学術報告・論文など

での発表能力を培う。

5.組織による研究推進のための協調性および指導力、社会とのコミュニケーション能力を培う。

博士後期課程

1.量子放射線工学における重要な課題を主体的に認識するとともに、普遍的価値のある問題を抽出し、分析・総合・評価することによって、新しい知識を体系化する能力を培う。

2.優れた学術論文をまとめるとともに、国内外の学会、会議において論文を発表し研究討論する能力を培う。

3.量子放射線工学の自らの専門領域を深く探求するばかりでなく、異なる分野にも広く目を向けて、独創的な視点で科学技術を開拓し、先導的に新たな工学領域と新規産業を切り拓く能力を培う。

4.異なる文化に対する理解とコミュニケーション能力の向上を図り、国際的に活躍できる能力を培う。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

工学研究科の理念に基づき、量子放射線工学分野においては量子放射線工学の広範な専門知識の教授と研究指導を通して、基本的研究能力と問題解決能力を培い、自ら知的資産を創造し、新領域を開拓できる人材を育成する。特に学際研究の遂行に必要な広い分野の知識を身に付け、各種装置の実践的な技術を習得すると共に、法律の順守や社会との関係についても配慮できる人材を育成する。この理念に基づく量子放射線工学分野の広範な専門知識の教授と研究指導を通して、基本的研究能力と問題解決能力を培い、自ら知的資産を創造し、量子放射線工学分野の新領域を開拓できる能力を修得した者に修士（工学）の学位を授与する。

博士前期課程では、研究科規程に定める所要の単位数以上を修得することに加えて、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。

博士後期課程

工学研究科の理念に基づき、量子放射線工学分野においては量子放射線工学の広範な専門知識の教授と研究指導を通して、基本的研究能力と問題解決能力を培い、自ら知的資産を創造し、新領域を開拓できる人材を育成する。特に学際研究の遂行に必要な広い分野の知識を身に付け、各種装置の実践的な技術を習得すると共に、法律の順守や社会との関係についても配慮できる人材を育成する。この理念に基づく量子放射線工学分野の高度な専門知識の教授と研究指導を通して、自立して研究活動を行い、その成果を総合評価する能力を培い、新しい知識を体系化し、先導的な工学領域を創生できる能力を修得した者に博士（工学）の学位を授与する。

博士後期課程では、研究科規程に定める所要の単位数以上を修得することに加えて、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。

量子放射線工学分野

博士前期課程

量子放射線系専攻量子放射線工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与の要件とし、これを満たした者に修士（工学）の学位を授与する。

- 1.量子放射線工学の広範な専門知識を身に付けている。
- 2.基本的研究能力と問題解決能力を身に付けている。
- 3.自ら知的資産を創造し、量子放射線工学分野の新領域を開拓できる。
- 4.学際研究の遂行に必要な広い分野の知識を身に付け、各種装置の実践的な技術を習得している。
- 5.法律の順守や社会との関係についても配慮できる。

博士後期課程

量子放射線系専攻量子放射線工学分野では、工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とし、これらの能力を修得した者に博士（工学）の学位を授与する。

- 1.量子放射線工学の広範な専門知識を身に付けている。
- 2.基本的研究能力と問題解決能力を身に付けている。
- 3.自ら知的資産を創造し、量子放射線工学分野の新領域を開拓できる。
- 4.学際研究の遂行に必要な広い分野の知識を身に付け、各種装置の実践的な技術を習得している。
- 5.法律の順守や社会との関係についても配慮できる。
- 6.自立して研究活動を行い、その成果を総合評価することができる。
- 7.新しい知識を体系化し、先導的な工学領域を創生できる能力を身に付けている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

- 1.量子放射線工学専攻の教育研究上の理念・目的を踏まえ、学士課程で学んだ学問分野における基礎および専門を基盤として、広く科学技術を学びながら、学際化・総合化の過程を経て、高度化・専門化を推し進める。この教育の流れの中で、大学院博士前期課程において完結性をもたせた教育を行う。
- 2.量子放射線工学に必要な、広い分野での基礎教育科目を配置し、無理なく放射線関連の専門教育も受けることができ、その知識が深められるような教育課程を編成する。
- 3.授業科目は、特別講義、特別演習、特別研究により編成する。特別講義により、量子放射線工学分野に関する高度な専門知識を獲得させる。特別演習では、専門分野に関する調査、討論、実験等を通じて、量子放射線工学の専門知識を習得させ、問題の分析・総合能力を高める。特別研究では、理論・実験の研究指導のもと修士論文を作成し、専門分野における研究能力を培う。
- 4.研究指導に関する科目に加え、量子科学およびわが国の法体系に基づく放射線安全管理学に関する授業科目を必修科目とする。
- 5.量子放射線工学の基礎から、応用分野までの幅広い選択科目を用意する。本学の量子放射線大規模施設と装置の特徴を活かして、基礎技術を身に付ける実践教育を行う。
- 6.量子放射線分野は基礎と応用が密接に関わっているため、各年次の前、後期に基礎科

目、応用科目をそれぞれの産業利用目的に応じて有機的に配置する。

7.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

8.就職後に技術者、研究者として活動できるように、法律に基づく放射線関連管理技術や社会とのかかわりに関する選択科目を開講する。これらは、放射線取扱主任者の資格試験にも対応している。

9.大学院共通教育の「国際環境活動プログラム」の科目を自由科目として提供する。

博士後期課程

1.量子放射線工学専攻の教育研究上の理念・目的を踏まえ、学士課程で学んだ学問分野における基礎および専門を基盤として、広く科学技術を学びながら、学際化・総合化の過程を経て、高度化・専門化を推し進める。この教育の流れの中で、大学院博士前期課程および大学院後期課程において完結性をもたせた教育を行う。

2.授業科目は、特別講義、特別演習、特別研究により編成する。特別講義により、量子放射線工学分野に関する最新に研究動向に基づいた専門知識を獲得させる。特別演習では、最新の研究動向に関する調査、討論、実験等を通じて、量子放射線工学の深い専門知識と関連分野の幅広い知識を習得させ、問題の分析・総合能力を培う。特別研究では、理論・実験の研究指導のもと博士論文を作成し、自立した研究者となるための能力を培う。

3.量子放射線工学における知識を深めると同時に、研究技術の習得に重点をおく。このため、研究指導に関する科目を必修とする。

4.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

5.当専攻の基盤的な教育資源である府立大学の大規模放射線施設を利用し、実践的な研究体験を積み重ね、自立した研究者を養成する。その際、研究に不可欠な創造的研究開発能力の向上をめざすとともに、将来の指導者、教育者として必要な高度な指導能力の養成にも重点をおく。

量子放射線工学分野

博士前期課程

量子放射線系専攻量子放射線工学のディプロマ・ポリシーを踏まえ、次の様な教育課程編成を行う。

1. 学士課程で学んだ学問分野における基礎および専門を基盤として、広く科学技術を学びながら、学際化・総合化の過程を経て、高度化・専門化を推し進める。この教育の流れの中で、大学院博士前期課程において完結性をもたせた教育を行う。
2. 量子放射線工学に必要な、広い分野での基礎教育科目を配置し、無理なく放射線関連の専門教育も受けることができ、その知識が深められるような教育課程を編成する。
3. 授業科目は、特論等の講義、特別演習、特別研究により編成する。特論等の講義により、量子放射線工学分野に関する高度な専門知識を獲得させる。特別演習では、専門分野に関する調査、討論、実験等を通じて、量子放射線工学の専門知識を習得させ、問題の分析・総合能力を高める。特別研究では、理論・実験の研究指導のもと修士論文を作成し、専門分野における研究能力を培う。
4. 研究指導に関する科目に加え、量子科学及びわが国の法体系に基づく放射線安全管理学に関する授業科目を必修科目とする。
5. 量子放射線工学の基礎から、応用分野までの幅広い選択科目を用意する。本学の量子放射線大規模施設と装置の特徴を活かして、基礎技術を身に付ける実践教育を行う。
6. 量子放射線分野は基礎と応用が密接に関わっているため、各年次の前、後期に基礎科目、応用科目をそれぞれの産業利用目的に応じて有機的に配置する。
7. 就職後に技術者、研究者として活動できるように、法律に基づく放射線関連管理技術や社会とのかかわりに関する選択科目を開講する。これらは、放射線取扱主任者の資格試験にも対応している。
8. 技術者および研究者として、豊かな教養と高い倫理観を培い、社会貢献と責任について考える能力を修得させるため、「研究公正 A」を大学院共通教育科目として提供する。
9. 大学院共通教育の「国際環境活動プログラム」の科目を自由科目として提供する。
10. 学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

博士後期課程

量子放射線系専攻量子放射線工学のディプロマ・ポリシーを踏まえ、次の様な教育課程編成を行う。

1. 学士課程で学んだ学問分野における基礎および専門を基盤として、広く科学技術を学びながら、学際化・総合化の過程を経て、高度化・専門化を推し進める。この教育の流れの

中で、大学院博士前期課程及び大学院後期課程において完結性をもたせた教育を行う。

2.授業科目は、特別講義、特別演習、特別研究により編成する。特別講義により、量子放射線工学分野に関する最新の研究動向に基づいた専門知識を獲得させる。特別演習では、最新の研究動向に関する調査、討論、実験等を通じて、量子放射線工学の深い専門知識と関連分野の幅広い知識を習得させ、問題の分析・総合能力を培う。特別研究では、理論・実験の研究指導のもと博士論文を作成し、自立した研究者となるための能力を培う。

3.量子放射線工学における知識を深めると同時に、研究技術の習得に重点をおく。このため、研究指導に関する科目を必修とする。

4.当専攻の基盤的な教育資源である本学の大規模放射線施設を利用し、実践的な研究体験を積み重ね、自立した研究者を養成する。その際、研究に不可欠な創造的研究開発能力の向上をめざすとともに、将来の指導者、教育者として必要な高度な指導能力の養成にも重点をおく。

5.技術者および研究者として、高度で豊かな教養と厳格な倫理観を培い、社会貢献と責任について考える能力を修得させるため、「研究公正 B」を大学院共通教育科目として提供する。

6.学修成果の評価の方針は工学研究科カリキュラム・ポリシーに記載のとおりとする。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

量子放射線系専攻のアドミッション・ポリシーは、現行の工学研究科で定めているポリシーに加え、次の理念をポリシーとする。

高度な科学と技術が融合し、原子力工学分野の基盤である量子放射線工学において、先端的な科学技術を牽引する真理の探求と知の創造を重視し、現代の産業、医療や原子力エネルギーを支える量子線、放射線の広い応用分野を視野に、環境調和型科学技術の特徴も活かして、持続可能な社会の発展と安全を基本とする文化の創造に貢献することをその基本の理念としている。

この理念のもとで高度学際領域である量子放射線工学において、量子放射線と物質との相互作用における素過程を解明し、特に関連施設や設備を利用した実地教育・研究を実践すると共に最先端技術に触れることで、広い分野に応用する高度の知識を深め総合的主体的研究開発能力を身に付ける。量子放射線工学は、広く社会とかかわる科学技術で、安全とその文化の構築が不可欠であり、人間性や高い倫理観を基に、社会に貢献できる技術者・研究者を育成する。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、量子放射線系専攻では次のような資質と能力、意欲を持った学生を求める。

- 1.物技術者、研究者として社会に貢献しようという意欲を持った人
- 2.技術が人・社会・自然に及ぼす影響について、深く考えようとする姿勢と強い責任感を持った人
- 3.科学技術の著しい進歩に対して、主体的、積極的に新しい分野を切り拓こうとする姿勢と熱意を持った人
- 4.高い基礎学力と豊かな専門分野の基礎知識を持ち、自ら未知の問題解決のために立ち向かおうとする意欲のある人
- 5.異なる文化を理解し、多彩で国際的なコミュニケーションを図ろうとする意欲を持った人

以上に基づき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.理、化学、生物、医学、さらには電子、材料、宇宙等の工学分野の学士課程に要求される基礎学力を満たすこと
- 2.技術者、研究者に不可欠な論理的思考を有すること
- 3.各国の文献を読み解く十分な英語力を有すること

博士後期課程

量子放射線系専攻のアドミッション・ポリシーは、現行の工学研究科で定めているポリシーに加え、次の理念をポリシーとする。

高度な科学と技術が融合し、原子力工学分野の基盤である量子放射線工学において、先端的な科学技術を牽引する真理の探求と知の創造を重視し、現代の産業、医療や原子力エネルギーを支える量子線、放射線の広い応用分野を視野に、環境調和型科学技術の特徴も活かして、持続可能な社会の発展と安全を基本とする文化の創造に貢献することをその基本の理念としている。

この理念のもとで高度学際領域である量子放射線工学において、量子放射線と物質との相互作用における素過程を解明し、特に関連施設や設備を利用した実地教育・研究を実践すると共に最先端技術に触れることで、広い分野に応用する高度の知識を深め総合的主体的研究開発能力を身に付ける。量子放射線工学は、広く社会とかかわる科学技術で、安全とその文化の構築が不可欠であり、人間性や高い倫理観を基に、社会に貢献できる技術者・研究者を育成する。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、量子放射線系専攻では次のような資質と能力、意欲を持った学生を求める。

1. 自立した研究者として社会に貢献しようという意欲を持った人
2. 研究成果が人・社会・自然に及ぼす影響について、深く考えながら研究に取り組む姿勢と強い責任感を持った人
3. 新しい科学技術の展開に向けて、主体的、積極的に先導的な工学領域を創生しようとする姿勢と熱意を持った人
4. 特定分野の深い専門知識と周辺分野の幅広い知識を持ち、問題の分析・総合・評価を行い、知識を体系化しようとする意欲のある人
5. 国際的に、研究成果を発信し、研究活動を行おうとする意欲を持った人

以上に基づき、次の1~3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1. 大学および大学院博士前期課程における理系の基礎的な科目および各専門分野の科目を幅広くかつ深く学び、高い基礎学力および各専門分野の豊かな知識を身に付けていること
2. 各専門分野における英文を読んで正確に理解するとともに、自らの研究成果を英文で論

理的に表現し、発表するための能力を身に付けていること

3.工学における諸課題を見つけ、それらを体系的に整理するとともに、合理的に解決しようとする高度な能力を身に付けていること

生命環境科学研究科

○教育目的

博士前期課程

研究科博士前期課程は、生命環境科学の広範な専門知識の教授と研究指導を通して応用生命科学あるいは緑地環境科学の専門領域についての知識と技術、高い倫理観を身に付け、社会の多方面で活躍できる人材を育成する。

博士後期課程

博士後期課程は、前期課程での教育を基礎として、より研究活動に重点をおいた教育を行い、専門領域における高度な知識や技術、高い倫理観を持ち、総合的な視野や深い洞察力、独創性や自立的な研究能力を身に付けた人材を育成する。

博士課程

獣医学博士課程は、応用動物科学を基に、高度獣医臨床、人獣共通感染症を含む環境リスク、食の安全性確保、動物バイオテクノロジーなどの現在社会の高度な要請に応えうる、高い倫理観を持つ人材を育成する。

○教育目標

生命環境科学研究科では、微生物、植物、動物といった生命体の多様な機能・性状や、生命体により創出される生態系を生命科学の視点から俯瞰的に探究する。さらに、得られた学術情報を持続可能な人類の発展と真に豊かな社会の構築に活用することで、永続的に繁栄できる基盤となる健全な生命環境を構築することをめざし、次を教育目標とする。

1.生物の正常や異常状態での生命現象の解明と、その利用をめざしたバイオサイエンス・バイオテクノロジー、そして生命体を取り巻く環境としての緑地環境の保全創成について、研究者倫理を含め、高度な教育研究を行う。

2.人類の知の資産としての科学の発展に寄与するために、生命環境分野における国際水準の研究を推進し、新しい産業や社会経済システムの創出につながる独創的な研究開発を展開することで、地域社会の発展に貢献する。

3.博士前期課程では、幅広い関連学問領域についての高度な専門知識と技術を身に付ける

ための教育を行い、社会の多方面で活躍できる高度専門職業人を養成する。

4.博士後期課程と博士課程では、研究活動により重点をおいた高度な専門教育を行い、専門性の高い卓越した学術研究を担う国際的なリーダーとなり得る研究者を養成する。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

生命環境科学研究科は、次の方針に従って学位を授与する。

1.所定の年限在学し、本研究科の教育研究の理念や目的に沿った教育課程を修了し、本研究科が定める修士論文の審査および最終試験に合格することを、博士前期課程を修了するための要件とする。

2.地域社会や企業などの多方面で「高度専門職業人」として活躍するために、専門学問領域について主体的に研究する能力を備え、幅広い関連学問領域についての専門知識と技術、高い倫理観を身に付けていることを、博士前期課程を修了するための要件とする。

博士後期課程

生命環境科学研究科は、次の方針に従って学位を授与する。

1.所定の年限在学し、本研究科の教育研究の理念や目的に沿った教育課程を修了し、本研究科が定める博士論文の審査および最終試験に合格することを、博士後期課程を修了するための要件とする。

2.21世紀の学問研究を担いうる広い視野と深い専門的学識を備えた研究者として活躍するために、独創的かつ柔軟性に優れ、自立的研究能力を備え、幅広い関連学問領域についての専門知識と技術、高い倫理観を身に付けていることを、博士後期課程を修了するための要件とする。

博士課程

生命環境科学研究科は、次の方針に従って学位を授与する。

1.所定の年限在学し、本研究科の教育研究の理念や目的に沿った教育課程を修了し、本研究科が定める博士論文の審査および最終試験に合格することを、博士課程を修了するための要件とする。

2.21 世紀の学問研究を担いうる広い視野と深い専門的学識を備えた研究者として活躍するために、独創的かつ柔軟性に優れ、自立的研究能力を備え、幅広い関連学問領域についての専門知識と技術、高い倫理観を身に付けていることを、博士課程を修了するための要件とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

生命環境科学研究科は、学位授与の方針を踏まえ、次の方針に従って教育課程を編成し教育を行う。

1. 学士課程教育との連携を保ちながら、幅広い関連学問領域についての専門知識と技術を習得させる。
2. 自立性と創造性を育て、主体的に考え表現する力を養成する。
3. 専門性だけでなく周辺学問領域についての理解と独創的な研究開発能力を備え、かつ豊かな学識や研究倫理を持った研究者や高度専門職業人を養成する。
4. 英語によるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付けさせることによって、国際的にも活躍できる人材を養成する。
5. 科学技術や学術研究の本質についての深い理解を追求し、真理を実証的に探究する精神を養成する。

成績評価の基準については、以下の通りとする。

1. 成績評価は、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の到達目標に対する達成度に応じて、生命環境科学研究科規程第 14 条に定めた基準に沿って、A+から D の評語で評価する。特に、単位修得（C 以上）の基準を到達度として明記する。
2. 学期ごとに全ての授業の成績分布を集計し、到達目標の達成度について組織的に検討し、改善を図る。
3. 成績評価は、達成度の絶対評価を基本として行うが、受講者数が少ない科目を除き、偏った評語の分布にならないように努力する。また、偏った分布になった場合はその原因を分析し、次期以降に改善を図る。

成績評価の方法については、以下の通りとする。

1.成績評価は、最終の定期試験のみに偏重することなく、レポート、プレゼンテーション、学修態度等の多様な要素を組みあわせて到達目標の達成度を評価する。なお、授業への出欠状況は成績評価には使わない。また、研究指導科目の成績評価は、研究課題への取り組み状況、研究結果に関するプレゼンテーション内容、教員や他の大学院生とのディスカッション能力などについて、研究指導教員を中心として総合的に評価する。

2.具体的な評価方法は、授業担当教員が決定し、評価の基準、評価に用いる項目の配分を含めて、シラバスを通じて学生に事前に提示する。

学位論文の審査については、学位審査基準にしたがって行う。

博士後期課程

1.博士後期課程においては前期課程での教育を基礎として、より研究活動に重点をおいた教育を行い、高度な学術研究を担う研究者を養成する。

2.独創的でかつ柔軟性に優れた、自立的研究能力を有する人材を養成する。

3.幅広い関連学問領域についての専門知識と技術を身に付け、豊かな学識や研究倫理を持ち、総合的な視野と深い専門的学識を備えた研究者を養成する。

4.英語によるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を持ち、自らの研究成果を世界に発信し、国際的に活躍しうる、高度な学術研究を担う研究者を養成する。

5.科学技術や学術研究の本質についての深い理解を追求し、真理を実証的に探究する精神を養成する。

成績評価の基準については、以下の通りとする。

1.成績評価は、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の到達目標に対する達成度に応じて、生命環境科学研究科規程第14条に定めた基準に沿って、A+からDの評語で評価する。特に、単位修得（C以上）の基準を到達度として明記する。

2.学期ごとに全ての授業の成績分布を集計し、到達目標の達成度について組織的に検討し、改善を図る。

3.成績評価は、達成度の絶対評価を基本として行うが、受講者数が少ない科目を除き、偏

った評語の分布にならないように努力する。また、偏った分布になった場合はその原因を分析し、次期以降に改善を図る。

成績評価の方法については、以下の通りとする。

1.成績評価は、研究課題への取り組み状況、研究結果に関するプレゼンテーション内容、教員や他の大学院生とのディスカッション能力などについて、研究指導教員を中心として総合的に評価する。

2.具体的な評価方法は、授業担当教員が決定し、評価の基準、評価に用いる項目の配分を含めて、シラバスを通じて学生に事前に提示する。

学位論文の審査については、学位審査基準にしたがって行う。

博士課程

1.博士課程においては学士課程での教育を基礎として、より研究活動に重点をおいた教育を行い、高度な学術研究を担う研究者を養成する。

2.独創的でかつ柔軟性に優れた、自立的研究能力を有する人材を養成する。

3.幅広い関連学問領域についての専門知識と技術を身に付け、豊かな学識や研究倫理を持ち、総合的な視野と深い専門的学識を備えた研究者を養成する。

4.英語によるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を持ち、自らの研究成果を世界に発信し、国際的に活躍しうる、高度な学術研究を担う研究者を養成する。

5.科学技術や学術研究の本質についての深い理解を追求し、真理を実証的に探究する精神を養成する。

成績評価の基準については、以下の通りとする。

1.成績評価は、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の到達目標に対する達成度に応じて、生命環境科学研究科規程第14条に定めた基準に沿って、A+からDの評語で評価する。特に、単位修得（C以上）の基準を到達度として明記する。

2.学期ごとに全ての授業の成績分布を集計し、到達目標の達成度について組織的に検討し、改善を図る。

3.成績評価は、達成度の絶対評価を基本として行うが、受講者数が少ない科目を除き、偏った評語の分布にならないように努力する。また、偏った分布になった場合はその原因を分析し、次期以降に改善を図る。

成績評価の方法については、以下の通りとする。

1.成績評価は、最終の定期試験のみに偏重することなく、レポート、プレゼンテーション、学修態度等の多様な要素を組みあわせて到達目標の達成度を評価する。なお、授業への出欠状況は成績評価には使わない。

2.具体的な評価方法は、授業担当教員が決定し、評価の基準、評価に用いる項目の配分を含めて、シラバスを通じて学生に事前に提示する。

学位論文の審査については、学位審査基準にしたがって行う。

各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストやプレゼンテーションの内容（レベル、スライドのわかりやすさ、発表の論理性「背景、目的、方法、結果、考察等」、質問に対する回答が適切かつ論理的に行なわれていたか）を総合的に評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

生命環境科学研究科は、生物の多彩な生命現象・機能の解明と利用をめざしたバイオサイエンス・バイオテクノロジー、持続的な生命環境の保全創成などについての高度な専門教育を行い、先進的な技術開発や研究、学術の発展に貢献できる人材、幅広い視野、高い倫理観と深い洞察力を持ち独創的な研究能力を備えた国際的リーダーとなりうる高度技術者・研究者の養成をめざす。

したがって、生命環境科学研究科では、次のような学生を求める。

- 1.生命現象、生命機能、生命環境について深い関心と理解がある人
- 2.論理的な思考力と自ら学ぶ探求心を備えている人
- 3.専攻する学問分野の基礎と英語についての十分な能力を身に付けている人

応用生命科学専攻

○教育目的

応用生命科学専攻は、地球生命系を構成する生物が持つ多彩な生命現象を解明するバイオサイエンスの発展と生物の多様な機能の応用技術としてのバイオテクノロジーの発展に寄与する人材の育成を目的とする。博士前期課程では、応用生命科学における知識と技術、研究倫理を身に付け、社会の多方面で活躍できる人材を育成する。博士後期課程では、応用生命科学における高度な知識や技術を持ち、総合的な視野や洞察力、研究倫理、独創性、自立的研究能力を身に付けた人材を育成する。

○教育目標

- 1.多様な研究バックグラウンドを持つ学内外の教員の講義を通して、動物、植物、微生物といった生命体が持つ多様な機能を分子、細胞、個体レベルで解析、理解するとともに、その性質を生物資源の効率的な利用や生産、有用性の向上あるいは環境保全・修復などへ応用する能力を養う
- 2.先端化、多様化している応用生命科学の研究領域に関して仮説を立て、その検証を実験的に行うことで技術者として必要な創造性、論理的思考、問題解決能力を養う。
- 3.応用生命科学の研究領域に関連する自然科学、人文・社会科学の知識を広く習得し、多面的に物事を考える能力を養う。
- 4.英語によるコミュニケーション、プレゼンテーションの機会を設けることで国際的に活躍できる能力を養う。
- 5.研究成果の適切な取り扱いや科学技術が社会および自然環境におよぼす影響について学ぶことで、科学者、技術者としての倫理観を養う。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

応用生命科学専攻博士前期課程は、本専攻の教育目的・教育目標に基づき、以下の能力を身に付けたものに修士（応用生命科学）の学位を授与する。

- 1.多様な研究バックグラウンドを持つ学内外の教員の講義を通して、動物、植物、微生物といった生命体が持つ多様な機能を分子、細胞、個体レベルで解析、理解するとともに、その性質を生物資源の効率的な利用や生産、有用性の向上あるいは環境保全・修復などへ応用する能力を身に付けている。
- 2.先端化、多様化している応用生命科学の研究領域に関して仮説を立て、その検証を実験的に行うことにより、技術者として必要な創造性、論理的思考、問題解決能力を身に付けている。
- 3.応用生命科学の研究領域に関連する自然科学、人文・社会科学の知識を広く修得し、多面的に物事を考える能力を身に付けている。
- 4.英語によるコミュニケーション、プレゼンテーションの機会を設けることにより、国際的に活躍できる能力を身に付けている。
- 5.研究成果の適切な取り扱いや科学技術が社会および自然環境におよぼす影響について学ぶことにより、科学者、技術者としての倫理観を身に付けている。

博士後期課程

応用生命科学専攻博士後期課程は、本専攻の教育目的・教育目標に基づき、次の能力を身に付けたものに博士（応用生命科学）の学位を授与する。

- 1.動物、植物、微生物といった生命体が持つ多様な機能を分子、細胞、個体レベルで解析、理解するとともに、その性質を生物資源の効率的な利用や生産、有用性の向上あるいは環境保全・修復などへ応用する高度な学術研究能力を身に付けている。
- 2.先端化、多様化している応用生命科学の研究領域に関して仮説を立て、その検証を実験的に行うことにより、独創的かつ柔軟性に優れた自立的研究能力を有する研究者として必要な創造性、論理的思考、問題解決能力を身に付けている。
- 3.応用生命科学の研究領域に関連する幅広い関連学問領域についての専門知識と技術を備え、総合的な視野と深い専門的学識を身に付けている。
- 4.英語によるコミュニケーション、プレゼンテーションの機会を設けることにより、国際的に活躍しうる、高度な学術研究能力を身に付けている。
- 5.研究成果の適切な取り扱いや科学技術が社会および自然環境におよぼす影響について学ぶことにより、科学者としての倫理観を身に付けている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

- 1.公正性の高い高度な研究を遂行する倫理観、国際的な研究協働を可能とする学際的な視野と深い教養、および社会の課題を的確にとらえ自らの研究成果を社会へ還元できる課題解決能力を修得するために、大学院共通教育科目を設ける。
- 2.応用生命科学の研究領域に係わる最先端の専門知識・技能を修得するための特論科目や特別講義の専門科目を開設する。
- 3.応用生命科学分野における英語での論文執筆や発表を行うための能力を修得するため、専門領域の異なる教員や学生に対して日本語および英語で行うプレゼンテーション科目を必修科目として開設する。
- 4.応用生命科学の研究領域に関する幅広い高度な知識を修得し、それを高度専門職業人として自身のキャリアに発展できる能力を修得するため、応用生命科学の領域に関する概論やキャリアデザインについての専門科目を必修科目として開設する。
- 5.指導教員の下で応用生命科学に係わる特定の研究課題について研究を行い、自分で研究を組み立て、遂行する能力を身に付けるため、必修科目としてゼミナールと研究実験の研究指導科目を開設する。
- 6.所定の年限在学した上で、上記の本専攻の教育研究の理念や目的に沿った教育課程を修了し、本研究科が定める修士論文の審査および最終試験に合格したものに学位を授与する。

成績評価の基準と方法については、生命環境科学研究科のカリキュラムポリシーで定める。

学位論文の審査については、学位審査基準にしたがって行う。

博士後期課程

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

- 1.公正性の高い高度な研究を遂行する倫理観、国際的な研究協働を可能とする学際的な視野と深い教養、および社会の課題を的確にとらえ自らの研究成果を社会へ還元できる課題

解決能力を修得するために、大学院共通教育科目を設ける。

2.先端化、多様化している応用生命科学の研究領域に関して、幅広い関連学問領域についての専門知識と技術および総合的な視野と深い専門的学識を修得させるとともに、独創的かつ柔軟性に優れた自立的な研究能力を有する研究者として必要な創造性、論理的思考、問題解決能力および科学者としての倫理観を養うため、必修科目として少人数による討議を含めた特別研究実験の研究指導科目を開設する。

3.所定の年限在学した上で、上記の本専攻の教育研究の理念や目的に沿った教育課程を修了し、本研究科が定める博士論文の審査および最終試験に合格したものに学位を授与する。

成績評価の基準と方法については、生命環境科学研究科のカリキュラムポリシーで定める。

学位論文の審査については、学位審査基準にしたがって行う。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

応用生命科学専攻では、地球生命系を構成する生物が持つ多彩な生命現象を解明するバイオサイエンスと生物の多様な機能を応用する技術としてのバイオテクノロジーに関する教育を行っている。

この教育を通して、応用生命科学における知識と技術、研究倫理を身に付け、人文社会科学的観点からも多面的に問題を考えることができ、社会の多方面で活躍できる人材の養成をめざす。

したがって、応用生命科学専攻では次のような学生を求める。

- 1.生物資源の効率的な利用や、有用性の向上あるいは環境保全・修復等のための問題解決を行う意欲を有する人
- 2.先端化、多様化している応用生命科学の研究領域に関して仮説を立て、その検証を実験的に行うことのできる人

3.研究倫理ならびに社会における研究成果の適切な取り扱いを身に付けられる人

以上に基づき、次の 1～3 の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1.動物、植物、微生物といった生命体が持つ多様な機能を分子、細胞、個体レベルで理解するための広範な基礎的学力ならびに専門的学力を有すること

2.自ら仮説を立てその検証を実験的に行うための創造力や論理的思考力を有すること

3.円滑なコミュニケーションを遂行する能力と、英語についての十分な能力を持つこと

博士後期課程

応用生命科学専攻では、地球生命系を構成する生物が持つ多彩な生命現象を解明するバイオサイエンスと生物の多様な機能を応用する技術としてのバイオテクノロジーに関する教育を行っている。

この教育を通して、応用生命科学における高度な知識や技術を持ち、総合的な視野や洞察力、研究倫理、独創性、そして自立的研究能力を身に付けた人材の養成をめざす。

したがって、応用生命科学専攻では次のような学生を求める。

1.生物資源の効率的な利用や、有用性の向上あるいは環境保全・修復等への応用を通じて、バイオサイエンスおよびバイオテクノロジーの発展に寄与する意欲を有する人

2.先端化、多様化している応用生命科学の研究領域に関して仮説を立て、柔軟性に優れた自立的研究能力によって、その検証を実験的に行うことのできる人

3.英語によるコミュニケーションや研究倫理を身に付けており、国際的に活躍することのできる人

以上に基づき、次の 1～3 の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1.生命体が持つ多様な機能を分子、細胞、個体レベルで理解するための高度な専門的学力を有すること

2.自ら仮説を立てその検証を実験的に行うための自立性と論理的思考力を有すること

3.円滑なコミュニケーションを遂行する能力と、英語についての十分な能力を持つこと

緑地環境科学専攻

○教育目的

緑地環境科学専攻は、人間活動も含めた生態系の中で環境や生物群における様々な現象や相互作用のプロセスを解明し、地域の抱える多様な環境問題に対処する技術を培う緑地環境科学の発展に寄与できる人材の育成を目的とする。博士前期課程では、緑地環境科学における知識と技術、研究倫理を身に付け、社会の多方面で活躍できる人材を育成する。博士後期課程では、緑地環境科学における高度な知識や技術を持ち、総合的な視野や深い洞察力、研究倫理、創造性や自立的な研究能力を身に付けた人材を育成する。

○教育目標

1. 緑地環境科学の幅広い対象領域を理解し、自然科学、人文・社会科学および情報技術に関する高度な知識と応用能力、高い倫理観を養成する。
2. 自然環境・生態系などのモニタリングや保全、創造、維持管理にかかわる原理やシステムに精通し、緑地環境科学の高度な専門的能力、技術開発やその実践にかかわる高度な専門技術や問題解決能力を養成する。
3. 緑地環境科学の研究を通して、創造性、課題発掘能力および問題解決能力を育成し、高度な科学プレゼンテーション能力を養成する。
4. 緑地環境科学の高度な専門技術者として論理的な記述力、図面等による表現能力、国際的に通用するコミュニケーション能力を養成する。
5. 緑地環境科学領域、さらには広領域にわたる研究やプロジェクトを自主的、計画的に推進する高度な能力を養成する。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

緑地環境科学専攻博士前期課程は、本専攻の教育目的・教育目標に基づき、次の能力を身に付けたものに修士（緑地環境科学）の学位を授与する。

- 1.緑地環境科学の幅広い対象領域を理解し、自然科学、人文・社会科学および情報科学に関する高度な知識と応用能力、高い倫理観を身に付けている。
- 2.自然環境・生態系などのモニタリングや保全、創造、維持管理に係わる原理やシステムに精通し、緑地環境科学の高度な専門的能力、技術開発やその実践に係わる高度な専門技術や問題解決能力を身に付けている。
- 3.緑地環境科学の研究を通して、創造性、課題発掘能力および問題解決能力を育成し、高度な科学プレゼンテーション能力を身に付けている。
- 4.緑地環境科学の高度な専門技術者として論理的な記述力、図面等による表現能力、国際的に通用するコミュニケーション能力を身に付けている。
- 5.緑地環境科学領域、さらには広領域にわたる研究やプロジェクトを自主的、計画的に推進する高度な能力を身に付けている。

博士後期課程

緑地環境科学専攻博士後期課程は、本専攻の教育目的・教育目標に基づき、次の能力を身に付けたものに博士（緑地環境科学）の学位を授与する。

- 1.緑地環境科学の幅広い対象領域を理解し、自然科学、人文・社会科学および情報科学に関する高度な知識と学術研究への応用能力、科学者・技術者としての高い倫理観を身に付けている。
- 2.自然環境・生態系などのモニタリングや保全、創造、維持管理に係わる原理やシステムに精通し、緑地環境科学の科学者・技術者としての高度な専門的能力、技術開発やその実践に係わる高度な専門技術や問題解決能力を身に付けている。
- 3.緑地環境科学の研究を通して、創造性、課題発掘能力および総合的な問題解決能力を修得し、高度な科学プレゼンテーション能力を身に付けている。
- 4.緑地環境科学の高度な専門技術者として論理的な記述力、図面等による表現能力、国際的に活躍しうるコミュニケーション能力を身に付けている。
- 5.緑地環境科学領域、さらには広領域にわたる研究やプロジェクトを自主的、計画的に推進する科学者・技術者としての高度な能力を身に付けている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

- 1.公正性の高い高度な研究を遂行する倫理観、国際的な研究協働を可能とする学際的な視野と深い教養、および社会の課題を的確にとらえ自らの研究成果を社会へ還元できる課題解決能力を修得するために、大学院共通教育科目を設ける。
- 2.緑地環境科学に係わる高度な専門的能力や専門技術および問題解決能力を修得させるために、研究分野ごとの専門特論科目を提供する。
- 3.緑地環境科学の幅広い対象領域を理解し、緑地環境科学の基本的な考え方を修得させるため、緑地環境科学の総括的な特論と入門的な特論を提供する。
- 4.緑地環境科学に係わる創造性、課題発掘能力および問題解決能力を育成し、高度な科学プレゼンテーション能力を修得させるために、研究実験科目を提供する。
- 5.緑地環境科学に係わる論理的な記述力、図面等による表現能力、国際的に通用するコミュニケーション能力、さらには研究やプロジェクトを自主的、計画的に推進する高度な能力を修得させるために、少人数でアクティブラーニングを取り入れながら実施するゼミナール科目と演習科目を提供する。
- 6.所定の年限在学した上で、上記の本専攻の教育研究の理念や目的に沿った教育課程を修了し、本研究科が定める修士論文の審査および最終試験に合格したものに学位を授与する。

成績評価の基準と方法については、生命環境科学研究科のカリキュラムポリシーで定める。

学位論文の審査については、学位審査基準にしたがって行う。

博士後期課程

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

- 1.公正性の高い高度な研究を遂行する倫理観、国際的な研究協働を可能とする学際的な視野と深い教養、および社会の課題を的確にとらえ自らの研究成果を社会へ還元できる課題解決能力を修得するために、大学院共通教育科目を設ける。

2.緑地環境科学に係わる高度な知識と応用能力および課題発掘能力および問題解決能力を育成し、高度な科学プレゼンテーション能力を修得させるとともに、緑地環境科学に係わる論理的な記述力や表現能力、国際的に通用するコミュニケーション能力を修得させるために、特別演習科目を提供する。

3.緑地環境科学に係わる研究やプロジェクトを自主的、計画的に推進する科学者・技術者としての高度な能力を修得させるために、少人数でアクティブラーニングを取り入れながら実施する特別研究科目を提供する。

4.所定の年限在学した上で、上記の本専攻の教育研究の理念や目的に沿った教育課程を修了し、本研究科が定める博士論文の審査および最終試験に合格したものに学位を授与する。

成績評価の基準と方法については、生命環境科学研究科のカリキュラムポリシーで定める。

学位論文の審査については、学位審査基準にしたがって行う。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

緑地環境科学専攻は、持続可能な生命環境の保全・創成についての高度な専門教育を行い、先進的な技術開発や研究、学術の発展に貢献できる人材、幅広い視野、高い倫理観と深い洞察力を持ち、独創的な研究能力を備えた国際的リーダーとなりうる高度技術者・研究者の養成をめざす。

したがって、緑地環境科学専攻では、次のような学生を求める。

- 1.持続可能な生命環境の保全と創成について深い関心と理解があり、社会の発展に貢献する意識のある人
- 2.豊かな発想を持ち、論理的な思考力・表現力、自ら学ぶ探求心、高い倫理性を備えている人
- 3.幅広い視野と専門分野を学ぶための十分な基礎学力を持つ人

以上に基つき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.緑地環境科学の専門分野を学ぶための基礎学力を有すること

2.英語についての十分な能力を持ち、日本語、外国語を問わず、コミュニケーション能力が高いこと

3.自ら研究課題を設定でき、その課題解決に向けて努力できること

博士後期課程

緑地環境科学専攻は、持続可能な生命環境の保全・創成についての高度な専門教育を行い、先進的な技術開発や研究、学術の発展に貢献できる人材、幅広い視野、高い倫理観と深い洞察力を持ち、独創的で高度な研究推進能力を備え、国際的リーダーとなりうる研究者・高度技術者の養成をめざす。

したがって、緑地環境科学専攻では、次のような学生を求める。

1.持続可能な生命環境の保全と創成について深い関心と理解があり、社会の発展に貢献する意識のある人

2.豊かな発想力を持ち、論理的な思考力・表現力、自ら学ぶ探求心、高い倫理性を備えている人

3.幅広い視野と専門分野を学ぶための十分な基礎学力を持つ人

以上に基づき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1.緑地環境科学の専門分野を学ぶための基礎学力を有すること

2.英語についての十分な能力を持ち、日本語、外国語を問わず、コミュニケーション能力が高いこと

3.独自の発想で研究課題を設定でき、その課題解決に向けて努力できること

獣医学専攻

○教育目的

獣医学専攻は、獣医学に関する学識・見識・技術を兼ね備えるとともに、応用動物科学領域で専門別に細分化された知識・技術を統合することにより、社会的要請が増加している動物バイオメディカル関連分野、食の安全および人獣共通感染症を含めた獣医公衆衛生および動物衛生分野、病態動物の診断・治療・予防などの臨床分野の各分野において、幅広い視野と深い洞察力、および高い倫理観を持ち、独創的指導能力を発揮できる国際的な専門家を育成する。

○教育目標

- 1.動物医療に加え、動物バイオや感染症対策を含めた公衆衛生領域にかかわる科学技術を修得し、生命科学に関する問題に柔軟に対応できる研究者としての能力に加え、獣医学を基盤にしたより高度な知識と技術を有する指導者としての能力を培う。
- 2.幅広い視野と高い倫理観を備え、独創的で問題解決能力に優れた研究者・技術者としての能力を培う。
- 3.コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付け、国際的に活躍できる能力を培う。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

獣医学専攻博士課程は、本専攻の教育目的・教育目標に基づき、次の能力を身に付けたものに博士（獣医学）の学位を授与する。

- 1.動物医療に加え、動物バイオや感染症対策を含めた公衆衛生領域に係わる科学技術を修得し、生命科学に関する問題に柔軟に対応できる研究者としての能力に加え、獣医学を基盤にしたより高度な知識と技術を有する指導者としての能力を身に付けている。
- 2.幅広い視野と高い倫理観を備え、独創的で問題解決能力に優れた研究者・技術者としての能力を身に付けている。
- 3.コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を備え、国際的に活躍できる能力を

身に付けている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

1.公正性の高い高度な研究を遂行する倫理観、国際的な研究協働を可能にする学際的な視野と深い教養、および社会の課題と的確にとらえ自らの研究成果を社会へ還元できる課題解決能力を修得するために、大学院共通教育科目を設ける。

2.獣医学に関する学識・見識・技術を兼ね備え、応用動物科学領域で専門別に細分化された知識・技術を修得するとともに、英語によるコミュニケーション、プレゼンテーションの機会を設け、国際的に活躍しうる人材を養成するために、特別講義を設ける。

3.動物バイオメディカル関連分野、食の安全および人獣共通感染症を含めた獣医公衆衛生および動物衛生分野、病態動物の診断・治療・予防などの臨床分野の各分野において、高度な知識と技術を有し、幅広い視野と深い洞察力、および高い倫理観を持ち、独創的指導能力を発揮できる国際的な専門家を育成するために、特別演習および特別研究を設ける。なお一部の特別演習や特別研究では少人数授業や受講生が主体的に参加する演習・研究を実施する。

4.所定の年限在学した上で、上記の本専攻の教育研究の理念や目的に沿った教育課程を修了し、本研究科が定める博士論文の審査および最終試験に合格したものに学位を授与する。

成績評価の基準と方法については、生命環境科学研究科のカリキュラムポリシーで定める。

学位論文の審査については、学位審査基準にしたがって行う。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

獣医学専攻は、獣医学および応用動物科学領域に関する学識・見識・技術を兼ね備え、社会的要請が増加している動物バイオメディカル関連分野、家畜衛生や食の安全および人獣共通感染症を含めた公衆衛生分野、病態動物の診断・治療・予防などの臨床分野の各分野において、幅広い視野と深い洞察力、および高い倫理観を持ち、独創的指導能力を発揮し

国際的に活躍できる専門家の養成をめざす。

したがって、獣医学専攻では次のような学生を求める。

- 1.生命現象、生命機能、生命環境、生命倫理について深い関心と理解がある人
- 2.論理的な思考力と自ら学ぶ探求心を備えている人
- 3.関連する学問分野の基礎および英語について十分な能力を身に付けている人

以上にに基づき、次の 1～4 の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.生命科学領域の英語論文を理解できる学力があること
- 2.生命科学領域の研究を計画・実行するための基礎となる学力と技術を有すること
- 3.生命科学領域の幅広い知識を持ち、自身の研究を論理的に説明できる能力を有すること
- 4.生命倫理に関する高い倫理観を備えていること

理学系研究科

○教育目的

博士前期課程

研究科博士前期課程は、先端技術の発展の基盤となる基礎科学分野の広範な専門知識の教授と研究指導を通して、主体的な探求心を育み、高い学識と創造力、倫理観を有し、社会の変化に柔軟に対応できる人材を育成する。

博士後期課程

博士後期課程は、基礎科学分野の高度な専門知識の教授と研究指導を通して、新たな研究計画の立案や評価を行うための能力、ディスカッション能力を身に付け、研究開発において主導的な役割を果たし、かつ高い倫理観を持った、社会の発展に寄与しうる自立した人材を育成する。

○教育目標

博士前期課程

主体的な探究心を育み基礎科学分野の専門的知識を修得させるとともに、豊かな教養と高い倫理観を有し、社会の変化に柔軟に対応できる高度専門職業人・研究者の育成をめざす。自然の法則や数学的手法に基づいて地球環境問題の解決や情報化社会の発展に貢献できる高度な教育研究を推進する。

博士後期課程

主体的な探究心を育み基礎科学分野の高度な専門的知識を修得させるとともに、豊かな教養と高い倫理観、創造力を有し、社会の変化に柔軟に対応し、世界で活躍できる高度専門職業人・研究者の育成をめざす。自然の法則や数学的手法に基づいて地球環境問題の解決や情報化社会の発展に貢献できる最先端の教育研究を推進する。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

基礎科学分野の広範で体系的な専門知識の教授と研究指導を通して、学生の主体的な探求心を育み、高い学識と創造力、倫理観を有し、先端科学技術の要求や社会の変化に柔軟に対応できる人材を育成する。この教育目的に照らして、次のような能力を身に付けたものに修士の学位を授与する。

- 1.主体的な探究心を持ち、基礎科学分野の高度な専門知識を身に付けている。
- 2.豊かな教養と高い倫理観、創造力を有している。
- 3.社会の変化に柔軟に対応できる高度専門性をもつ研究者技術者等としての能力を有している。
- 4.自然の法則や数学的手法の理解に基づいて高度な教育研究の一端を担うことができる。

博士後期課程

基礎科学分野の高度な専門知識の教授と研究指導を通して、新たな研究計画の立案や評価を行うための能力、ディスカッション能力を身に付け、研究開発において主導的な役割を果たし、かつ高い倫理観を持った、社会の発展に寄与しうる自立した人材を育成する。この教育目的に照らして、次のような能力を身に付けたものに博士の学位を授与する。

- 1.主体的な探究心を持ち、基礎科学分野の高度な専門的知識を身に付けている。
- 2.豊かな教養と高い倫理観、創造力を有している。
- 3.社会の変化に柔軟に対応し、世界で活躍できる高度専門性をもつ研究者技術者等としての能力を有している。
- 4.自然の法則や数学的手法の理解に基づいて高度な教育研究の一端を担うことができる。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

- 1.学域と大学院博士前期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された教育課程を編成する。

2.豊かな教養、公正性の高い研究を実施するための基本的ルールや倫理観、先取権や知的財産の理解など現代社会が研究者や技術者に求める多様な知識や能力を養成するために大学院共通教育科目を置く。

3.基礎科学分野の広範な専門知識と調査・研究方法を身に付けるため、最先端の研究を行う学内外の研究者による講義科目を編成する。

4.高度専門性をもつ研究者技術者等に必要な能力（ディスカッション能力、発表能力、問題解決能力、論理的思考力）を身に付けるための授業科目を置く。

5.科学分野における英語で成果を発信する能力、コミュニケーション能力を身に付けるための授業科目を置く。

6.社会の発展に貢献できる高度な研究遂行能力を身に付けるため研究・演習科目を置く。

7.成績評価の基準は以下の通りとする。

(1) 成績評価は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の到達目標に対する達成度に応じて、理学系研究科規程第14条に定めた基準に沿って、A+からDの評語で評価する。特に、単位修得（C以上）の基準を到達度として明記する。

(2) 学期ごとに全ての授業の成績分布を集計し、到達目標の達成度について組織的に検討し、改善を図る。

(3) 成績評価は、達成度の絶対評価を基本として行うが、受講者数が少ない科目を除き、偏った評語の分布にならないように努力する。また、偏った分布になった場合はその原因を分析し、次期以降に改善を図る。

8.成績評価の方法は以下の通りとする。

(1) 成績評価は、最終の定期試験のみに偏重することなく、レポート、プレゼンテーション、学修態度等の多様な要素を組みあわせて到達目標の達成度を評価する。なお、授業への出欠状況は成績評価には使わない。

(2) 具体的な評価方法は、授業担当教員が決定し、評価の基準、評価に用いる項目の配分を含めて、シラバスを通じて学生に事前に提示する。

9.学位論文の審査は学位審査基準にしたがって行う。

博士後期課程

1.博士前期課程、博士後期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うことのできる体系化された教育課程を編成する。

2.豊かな教養、公正性の高い研究を実施するための基本的ルールや倫理観、現代社会が研究者や技術者に求める多様な知識や能力を養成するために大学院共通教育科目を置く。

3.基礎科学分野の広範かつ高度な専門知識と調査・研究方法を身に付けるため、最先端の研究を行う学内外の研究者による講義科目を置く。

4.高度専門性をもつ研究者技術者等に必要な能力（ディスカッション能力、発表能力、問題解決能力、論理的思考力、創造力）を身に付けるための授業科目を置く。

5.国際的にも通用する英語での論文執筆能力、コミュニケーション能力を身に付けるための授業科目を置く。

6.社会の発展にも貢献できる高度で独創的な研究計画を企画・立案・評価する能力を身につけるための研究・演習科目を置く。

7.成績評価の基準は以下の通りとする。

(1) 成績評価は学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の到達目標に対する達成度に応じて、理学系研究科規程第14条に定めた基準に沿って、A+からDの評語で評価する。特に、単位修得（C以上）の基準を到達度として明記する。

(2) 学期ごとに全ての授業の成績分布を集計し、到達目標の達成度について組織的に検討し、改善を図る。

(3) 成績評価は、達成度の絶対評価を基本として行うが、受講者数が少ない科目を除き、偏った評語の分布にならないように努力する。また、偏った分布になった場合はその原因を分析し、次期以降に改善を図る。

8.成績評価の方法は以下の通りとする。

(1) 成績評価は、最終の定期試験のみに偏重することなく、レポート、プレゼンテーション、学修態度等の多様な要素を組みあわせて到達目標の達成度を評価する。なお、授業への出欠状況は成績評価には使わない。

(2) 具体的な評価方法は、授業担当教員が決定し、評価の基準、評価に用いる項目の配分を含めて、シラバスを通じて学生に事前に提示する。

9.学位論文の審査は学位審査基準にしたがって行う。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

本研究科では、主体的な探究心を育み基礎科学分野の高度な専門的知識を修得させるとともに、豊かな教養と創造力を有し、社会の変化に柔軟に対応できる研究者・技術者の育成をめざす。

少人数教育の特長を最大限に活用し、密度の濃い双方向型の教育を行う。事象や物質の本質を洞察し理解する論理的思考力とコミュニケーション能力を鍛錬するとともに、基礎科学の深い知識とその応用への視点も併せ持つ人材の育成を念頭に置き教育課程を編成している。

基礎科学分野の研究者・技術者をめざすためには、柔軟な発想と論理的思考にもとづく課題発見能力と問題解決能力が必要である。

このような能力を有する学生を受け入れるため、本研究科は入学者に次の3点を求める。

- 1.論理的思考力と自ら進んで学ぶ探求心を有している人
- 2.専攻する学問分野の基礎と英語論文の読解力を十分に修得している人
- 3.専門分野への強い関心と基礎的な研究能力を有している人

以上にに基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.各専攻の研究・教育に必要な基礎学力を備えていること
- 2.英文等で書かれた学術論文を読むための語学力を備えていること
- 3.研究に対する意欲と具体的な展望を持ち、研究のために必要な論理的思考力を有すること

4.教員や学生同士との議論をできるコミュニケーション能力を有すること

博士後期課程

本研究科では、主体的な探究心を育み基礎科学分野の高度な専門的知識を修得させるとともに、豊かな教養と創造力を有し、社会の変化に柔軟に対応できる研究者・技術者の育成をめざしている。

少人数教育の特長を最大限に活用し、密度の濃い双方向型の教育を行う。事象や物質の本質を洞察し理解する論理的思考力とコミュニケーション能力を鍛錬するとともに、基礎科学の深い知識とその応用への視点も併せ持つ人材の育成を念頭に置き教育課程を編成している。

基礎科学分野の研究者・技術者をめざすためには、柔軟な発想と論理的思考にもとづく課題発見能力と問題解決能力が必要である。

このような能力を有する学生を受け入れるため、本研究科は次の5点を求める。

- 1.大学院の博士前期課程修了程度以上の基礎学力と、英語論文の読解力を持つとともに、英語による表現能力を有している人
- 2.論理的思考力と知的好奇心を持つ人
- 3.自ら進んで専門科学分野を学ぶ探究心を持つ人
- 4.教員や学生同士との議論を通じて自然現象、とくに専門科学分野に関する現象を深く考察できる人
- 5.専門分野あるいは関連する分野について、博士前期課程修了程度以上の研究能力を持ち、自ら研究を立案・計画・遂行できる能力を持つ人

以上にに基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.大学院の博士前期課程修了程度以上の専門科学分野の基礎学力を備えていること

- 2.英語論文の読解力を持つとともに、英語による表現能力を有していること
- 3.教員や学生同士との議論を通じて自然現象、とくに専門科学分野に関する現象を深く考察できる論理的思考力とコミュニケーションの能力を備えていること
- 4.知的好奇心を持ち専門分野あるいは関連する分野について、博士前期課程修了程度以上の研究能力を持ち、自ら研究を立案・計画・遂行できる能力を備えていること

数理科学専攻

○教育目的

博士前期課程

博士前期課程では、数学の理論的理解、それに基づく正確な計算と洞察、論理的に精密な推論を行う能力を涵養すると同時に、現象の数理科学的構造を捉える教育を実施する。これらの教育を通じて、主体的な探究心を育み、幅広い視野と高度な専門的知識に支えられた科学的な判断力を身につけさせる。現代社会の要請に応じて、数理科学の発展に寄与し、情報化社会を先導する数理科学の専門家を育成する。

博士後期課程

博士後期課程では、専門分野の深い理解と多面的な考察によって、研究計画を自ら立案することができる自立した研究者としての基礎技術を修得させる。同時に、学問的社会的な観点から、何を知るべきか、自らの問題意識のレベルを高める訓練も行う。これらの教育を通じて、主体的な探究心を育み、幅広い視野と高度な専門的知識に支えられた科学的な判断力を身につけさせる。現代社会の要請に応じて、数理科学の発展に寄与し、情報化社会を先導する数理科学の専門家を育成する。

○教育目標

博士前期課程

- 1.数理科学の各分野における最新の研究論文を理解することができる専門知識と論理的思考能力を身につけ、諸現象の背後にある数理科学的な法則を察知する洞察力を備えている。
- 2.英文テキストや最新の英語論文を読む能力、研究成果を英語論文として発信する能力の鍛錬を通して、コミュニケーションツールとしての英語力を高め、国際的に活躍してゆくための能力を備えている。
- 3.最先端の数理科学研究に携わり、未解決の課題に対して、理論と計算の両面から取り組める能力を身に付けている。

4.他者との討論を通して研究の方法を修得するとともに、ディスカッション能力、発表能力、研究者倫理を養い、明快にコミュニケーションをとる能力を身に付けている。

博士後期課程

1.数理科学の各分野において研究課題を設定し、そのための研究計画を組み立て、独創的なアイデアでその研究課題を解決する能力を備えている。

2.科学の共通言語である英語について、英文テキストや最新の英語論文を自由に読みこなす能力、研究成果を英語論文として発信する能力、国際セミナーや会議などでコミュニケーションできる能力を身に付けている。

3.研究成果を、学会あるいは論文など様々な形で発表する能力を身につけている。

4.他者との討論を通して研究の方法を修得するとともに、ディスカッション能力、発表能力、研究者倫理を養い、明快にコミュニケーションをとる能力を身に付けている。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

次の資質・能力を身に付けたものに対して修了を認定し、学位を授与する。

1.数理科学の各分野における最新の研究論文を理解することができる専門知識と論理的思考能力を身につけ、諸現象の背後にある数理科学的な法則を察知する洞察力を備えている。

2.コミュニケーションツールとしての英語力を高め、国際的に活躍してゆくための能力を備えている。

3.最先端の数理科学研究に携わり、未解決の課題に対して、理論と計算の両面から取り組める能力を身に付けている。

4.他者との討論を通して研究の方法を修得するとともに、ディスカッション能力、発表能力、研究者倫理を養い、明快にコミュニケーションをとる能力を身に付けている。

博士後期課程

次の資質・能力を身に付けたものに対して修了を認定し、学位を授与する。

1.数理科学の各分野において研究課題を設定し、そのための研究計画を組み立て、独創的

なアイデアでその研究課題を解決する能力を備えている。

2.科学の共通言語である英語について、英文テキストや最新の英語論文を自由に読みこなす能力、研究成果を英語論文として発信する能力、国際セミナーや会議などでコミュニケーションできる能力を身に付けている。

3.研究成果を、学会あるいは論文など様々な形で発表する能力を身に付けている。

4.他者との討論を通して研究の方法を修得するとともに、ディスカッション能力、発表能力、研究者倫理を養い、明快にコミュニケーションをとる能力を身に付けている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

数理科学を構成する各専門分野における基本体系の理解に重点をおき、その上で洞察力、論理的思考能力、コミュニケーション能力、研究者倫理などの修得をめざす教育課程を編成する。

1.豊かな教養、公正性の高い研究を実施するための倫理観や、現代社会が求める多様な能力を養成するために大学院共通教育科目を置く。

2.ディスカッション能力、発表能力、明快にコミュニケーションをとる能力を養うために、研究指導科目を置く。

3.数理科学の各分野における最新の研究論文を理解することができる知識と論理的思考能力を身につけ、諸現象の背後にある数理科学的な法則を察知する洞察力を鍛錬するために、数理科学特別研究を置く。さらに、数理科学特別研究において、英文テキストや最新の英語論文を読む能力、研究成果を英語論文として発信する能力を鍛錬する。

4.数理科学諸分野の大学院レベルにおける基礎的知識を修得させるための講義を置く。

5.世界レベルの最先端研究を理解することを通して、諸現象の背後にある数理科学的な法則を理解する能力と洞察力を身につけさせるために、学外講師による特別講義を置く。

6.成績評価の基準と方法および学位論文の審査については、理学系研究科のカリキュラムポリシーで定める。

博士後期課程

数理科学のより高度で専門的な知識およびアイデアを有する研究者を養成するための教育課程を編成する。

1.豊かな教養、公正性の高い研究を実施するための倫理観、現代社会が求める多様な能力を養成するために大学院共通教育科目を置く。

2.研究遂行能力に加え、独創的な研究テーマの設定が極めて重要な課題である。新たな研究計画の立案と評価を行うための能力とディスカッション能力を養うために、研究指導科目を置く。

3.研究指導および博士論文執筆指導を行うため、数理科学特別研究を置く。また、ここにおいて日本語および英語によるプレゼンテーション能力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力を涵養する。

4.世界レベルの最先端研究を理解することを通して、諸現象の背後にある数理科学的な法則を理解する能力と洞察力を身につけさせるために、学外講師による特別講義を置く。

5.成績評価の基準と方法および学位論文の審査については、理学系研究科のカリキュラムポリシーで定める。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

本専攻では、学士課程レベルの基盤の上に数理科学のより深い専門知識の修得と、それに基づいた洞察力・論理的思考能力を涵養することを目的として教育を行う。これにより、現象の数理的構造を捉え解析するための基礎力を養成する。世界レベルの数理科学の研究に携わることを通して、洞察力・論理的思考能力、コミュニケーション能力を鍛錬し、問題解決能力を備えた高度専門職業人・研究者を養成する。

したがって、数理科学専攻では、次のような学生を求める。

- 1.大学の学士課程修了程度以上の数理科学の基礎学力（微積分学、線形代数学、代数学、幾何学、解析学、確率統計学、応用数学など）と、英語論文の読解力を持つ人
- 2.論理的思考力と知的好奇心を持つ人
- 3.自ら進んで数理科学を学ぶ探究心を持つ人

4.教員や学生同士との議論を通じて数理科学に関する現象を深く考察できる人

以上に基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.数理科学の基礎学力を備えていること
- 2.英文等で書かれた学術論文を読むための語学力を備えていること
- 3.研究に対する意欲と具体的な展望を持ち、研究のために必要な論理的思考力を有すること
- 4.教員や学生同士との議論をできるコミュニケーション能力を有すること

博士後期課程

本専攻では、教員の個人指導のもと、各自が個別のテーマを設定して最先端の数理科学研究を遂行することを通して、物事の本質を理解する能力と洞察力、英語によるコミュニケーション能力を重点的に鍛錬する。

研究の遂行能力に加え、新たな研究計画の立案と評価を行うための能力とディスカッション能力を鍛錬し、自立した研究者・高度専門職業人として社会に貢献できる人材を育成する。

したがって、数理科学専攻では、次のような学生を求める。

- 1.大学院の博士前期課程修了程度以上の数理科学の基礎学力と、英語論文の読解力を持つとともに、英語による表現能力を有している人
- 2.論理的思考力と知的好奇心を持つ人
- 3.自ら進んで数理科学を学ぶ探究心を持つ人
- 4.教員や学生同士との議論を通じて数理科学に関する現象を深く考察できる人
- 5.専門分野あるいは関連する分野について、博士前期課程修了程度以上の研究能力を持ち、自ら研究を立案・計画・遂行できる能力を持つ人

以上に基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.大学院の博士前期課程修了程度以上の数理科学の基礎学力を備えていること
- 2.英語論文の読解力を持つとともに、英語による表現能力を有していること
- 3.教員や学生同士との議論を通じて数理科学に関する現象を深く考察できる論理的思考力とコミュニケーションの能力を備えていること
- 4.知的好奇心を持ち専門分野あるいは関連する分野について、博士前期課程修了程度以上の研究能力を持ち、自ら研究を立案・計画・遂行できる能力を備えていること

物理科学専攻

○教育目的

博士前期課程

博士前期課程では、学士課程レベルの基盤の上に物理科学のより深い専門知識の修得と、緻密な論理的思考力を養うことを目標として教育を行う。これにより、ミクロな原子レベルからマクロな宇宙・地球科学まで幅広い視点を持ち、人類の直面する地球環境・エネルギー問題などの学際的課題にも積極的に取り組むことのできる確固とした基礎力を育成する。世界レベルの最先端物理科学研究に携わることを通して、物質や事象の本質を理解する能力と洞察力、英語によるコミュニケーション能力を重点的に鍛錬し、問題解決能力を備えた高度専門職業人・研究者を育成する。

博士後期課程

博士後期課程では、教員の個人指導のもと、各自が個別のテーマを設定して最先端の物理科学研究を遂行することを通して、物質や事象の本質を理解する能力と洞察力、英語によるコミュニケーション能力を重点的に鍛錬する。研究の遂行能力に加え、新たな研究計画の立案と評価を行うための能力とディスカッション能力を鍛錬し、自立した研究者・高度専門職業人として社会に貢献できる人材を育成する。

○教育目標

博士前期課程

目的を実現するために具体的な教育目標を次のように設定する。

- 1.物質の示す多様な物理的性質を結晶構造、電子構造と関連付け、外場の影響下で生ずる多彩な物理現象の理論的・実験的解明をめざす物性物理学に関する先端知識と実験手法を修得する。
- 2.原子や分子の凝縮した系において、電子相関や多体効果によって生ずる興味ある性質を研究し、普遍的な物理的性質を深く理解する物性理論に関する解析的および計算的な研究手法を修得する。

3.星の形成過程を探ることで星と銀河の起源と進化を解明し、さらに宇宙と生命の起源を探ることをめざす宇宙科学に関する先端知識と実験手法を修得する。

4.現在および過去の地球の動きや地球の歴史を調べ、地殻・マントル物質の変形や長期反応の解明をめざす地球科学に関する先端知識と実験手法を修得する。

5.英文テキストや最新の英語論文を読む能力、研究成果を英語論文として発信する能力の鍛錬を通して、コミュニケーションツールとしての英語力を高め、国際的に活躍してゆくための能力を養成する。

6.最先端の物理科学研究に携わり、解答未知の課題に対して、理論と実験の両面から取り組める能力を養成する。ディスカッションにより問題点を明確にしつつとりくむことを通して、調査・研究の方法を修得するとともに、ディスカッション能力、発表能力、問題解決能力、研究者倫理を養い、論理的な思考力、明快にコミュニケーションをとる能力を鍛錬する。

博士後期課程

目的を実現するために、具体的な教育目標を次のように設定する。

1.物質の示す多様な物理的性質を結晶構造、電子構造と関連付け、外場の影響下で生ずる多彩な物理現象の理論的・実験的解明をめざす物性物理学に関する先端知識と実験手法を修得する。

2.原子や分子の凝縮した系において、電子相関や多体効果によって生ずる興味ある性質を研究し、普遍的な物理的性質を深く理解する物性理論に関する解析的および計算的な研究手法を修得する。

3.星の形成過程を探ることで星と銀河の起源と進化を解明し、さらに宇宙と生命の起源を探ることをめざす宇宙科学に関する先端知識と実験手法を修得する。

4.現在および過去の地球の動きや地球の歴史を調べ、地殻・マントル物質の変形や長期反応の解明をめざす地球科学に関する先端知識と実験手法を修得する。

5.英文テキストや最新の英語論文を読む能力、研究成果を英語論文として発信する能力の鍛錬を通して、コミュニケーションツールとしての英語力を高め、国際的に活躍してゆくための能力を養成する。

6.最先端の物理科学研究に携わり、解答未知の課題に対して、理論と実験の両面から取り組める能力を養成する。ディスカッションにより問題点を明確にしつつ取り組むことを通

して、調査・研究の方法を修得するとともに、ディスカッション能力、発表能力、問題解決能力、研究者倫理を養い、論理的な思考力、明快にコミュニケーションをとる能力を鍛錬する。

7.新たな研究計画を企画・提案して互いに評価しあうことを通して研究の立案能力と評価能力を鍛錬する。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

以下の資質・能力を身に付けたものに対して修了を認定し、学位を授与する。

- 1.物理科学の各分野における専門的知識を有し、最新の研究論文を理解する能力を身に付けている。
- 2.学術的価値を有し研究分野の発展に資する内容の学位論文を作成する能力を備えている。
- 3.コミュニケーションツールとしての英語力を高め、国際的に活躍してゆくための能力を備えている。
- 4.最先端の物理科学研究に携わり、解答未知の課題に対して、理論と実験の両面から取り組める能力を身に付けている。
- 5.ディスカッションにより問題点を明確にしつつ取り組むことを通して、調査・研究の方法を修得するとともに、ディスカッション能力、発表能力、問題解決能力、研究者倫理を養い、論理的な思考力、明快にコミュニケーションをとる能力を身に付けている。

博士後期課程

以下の資質・能力を身に付けたものに対して修了を認定し、学位を授与する。

- 1.物理科学の各分野における高度で専門性の高い知識を有し、物質や事象の本質を理解し、それらを明解に説明する能力を身に付けている。
- 2.国際的に高度な学術的価値を有し研究分野の発展に資する内容の学位論文を作成する能力を備えている。
- 3.コミュニケーションツールとしての英語力を高め、国際的に活躍できる能力を身に付け

ている。

4.最先端の物理科学研究に携わり、解答未知の課題に対して、理論と実験の両面から取り組める能力を身に付けている。

5.調査・研究の方法を修得するとともに、ディスカッション能力、発表能力、問題解決能力、研究者倫理を養い、論理的な思考力、明快にコミュニケーションをとる能力を身に付けている。

6.研究の立案能力と評価能力を身に付けている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

学士課程における基礎的な教育研究に引き続き、最先端で高度な物理科学の知識、実験研究手法、理論と実験の両面から取り組める能力、緻密な論理的思考力の養成をめざし、物性物理学、宇宙・地球科学に重点を置いた教育課程を編成する。

1.物理科学の各分野における専門的知識の修得のために専門授業科目を置く。

2.豊かな教養、公正性の高い研究を実施するための倫理観や、現代社会が求める多様な能力を養成するために大学院共通教育科目を置く。

3.科学分野における英語での論文執筆能力、国際的に活躍してゆくための能力を身に付けるため、「サイエンスコミュニケーション」科目を置く。

4.世界レベルの最先端研究に携わることを通して、物質や事象の本質を理解する能力と洞察力、英語によるコミュニケーション能力を身に付けるために、学外講師による特別講義を置く。

5.ディスカッション能力、発表能力、問題解決能力、論理的な思考力、明快にコミュニケーションをとる能力を養うために、研究指導科目を置く。

6.成績評価の基準と方法および学位論文の審査については、理学系研究科のカリキュラムポリシーで定める。

博士後期課程

物理科学の各専門分野で、新しい現象の発見、その理論的解明を行う研究に積極的に携わ

り、先端知識と実験手法、研究手法を修得できる教育課程を編成する。

- 1.豊かな教養、公正性の高い研究を実施するための倫理観、現代社会が求める多様な能力を養成するために大学院共通教育科目を置く。
- 2.研究遂行能力に加え、独創的な研究テーマの設定が極めて重要な課題である。新たな研究計画の立案と評価を行うための能力とディスカッション能力を養うために、研究企画ゼミナールを置く。
- 3.世界レベルの最先端研究に携わることを通して、物質や事象の本質を理解する能力と洞察力、英語によるコミュニケーション能力を身に付けるために、学外講師による特別講義を置く。
- 4.博士論文の作成を円滑に行える体制を整え、自立した研究者として必要な研究計画能力と評価能力を養うために、研究指導科目を置く。
- 5.成績評価の基準と方法および学位論文の審査については、理学系研究科のカリキュラムポリシーで定める。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

本専攻では、学士課程レベルの基盤の上に物理科学のより深い専門知識の修得と、緻密な論理的思考力を養うことを目標として教育を行う。これにより、ミクロな原子レベルからマクロな宇宙・地球科学まで幅広い視点を持ち、人類の直面する地球環境・エネルギー問題などの学際的課題にも積極的に取り組むことのできる確固とした基礎力を養成する。世界レベルの最先端物理科学研究に携わることを通して、物質や事象の本質を理解する能力と洞察力、英語によるコミュニケーション能力を重点的に鍛錬し、問題解決能力を備えた高度専門職業人・研究者を育成する。

したがって、物理科学専攻では、次のような学生を求める。

- 1.大学の学士課程修了程度以上の物理科学の基礎学力（力学、電磁気学、量子力学、統計物理学など）と、英語論文の読解力を持つ人
- 2.論理的思考力と知的好奇心を持つ人

- 3.自ら進んで物理科学を学ぶ探究心を持つ人
- 4.教員や学生同士との議論を通じて自然現象、とくに物理科学に関する現象を深く考察できる人
- 5.専門分野に関する基礎的な研究能力を有する人

以上に基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.物理科学の基礎学力を備えていること
- 2.英文等で書かれた学術論文を読むための語学力を備えていること
- 3.研究に対する意欲と具体的な展望を持ち、研究のために必要な論理的思考力を有すること
- 4.教員や学生同士との議論をできるコミュニケーション能力を有すること

博士後期課程

本専攻では、教員の個人指導のもと、各自が個別のテーマを設定して最先端の物理科学研究を遂行することを通して、物質や事象の本質を理解する能力と洞察力、英語によるコミュニケーション能力を重点的に鍛錬する。

研究の遂行能力に加え、新たな研究計画の立案と評価を行うための能力とディスカッション能力を鍛錬し、自立した研究者・高度専門職業人として社会に貢献できる人材を育成する。

したがって、物理科学専攻では、次のような学生を求める。

- 1.大学院の博士前期課程修了程度以上の物理科学の基礎学力と、英語論文の読解力を持つとともに、英語による表現能力を有している人
- 2.論理的思考力と知的好奇心を持つ人
- 3.自ら進んで物理科学を学ぶ探究心を持つ人
- 4.教員や学生同士との議論を通じて自然現象、とくに物理科学に関する現象を深く考察できる人

5.専門分野あるいは関連する分野について、博士前期課程修了程度以上の研究能力を持ち、自ら研究を立案・計画・遂行できる能力を持つ人

以上に基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1.大学院の博士前期課程修了程度以上の物理科学の基礎学力を備えていること

2.英語論文の読解力を持つとともに、英語による表現能力を有していること

3.教員や学生同士との議論を通じて自然現象、とくに物理科学に関する現象を深く考察できる論理的思考力とコミュニケーションの能力を備えていること

4.知的好奇心を持ち専門分野あるいは関連する分野について、博士前期課程修了程度以上の研究能力を持ち、自ら研究を立案・計画・遂行できる能力を備えていること

分子科学専攻

○教育目的

博士前期課程

博士前期課程では、学士課程レベルの基盤の上に分子科学のより深い専門知識を修得し、分子・物質に関連する真理探究を可能とするとともに、新分野や学際領域にも踏み込んでいくことのできる確固とした基礎力を育成する。世界レベルの最先端分子科学研究に携わることを通して、物質や事象の本質を理解する能力と洞察力、英語によるコミュニケーション能力を重点的に鍛錬し、問題解決能力を備えた人材を育成する。

博士後期課程

博士後期課程では、教員の個人指導のもと、各自が個別のテーマを設定して最先端の分子科学研究を遂行することを通して、物質や事象の本質を理解する能力と洞察力、英語によるコミュニケーション能力を重点的に鍛錬する。研究の遂行能力に加え、新たな研究計画の立案と評価を行うための能力とディスカッション能力を鍛錬し、自立した研究者・高度専門職業人として社会に貢献できる人材を育成する。

○教育目標

博士前期課程

目的を実現するために具体的な教育目標を次のように設定する。

- 1.分子と外場との相互作用現象や化学反応機構の、実験と理論の両面からの解析に関する先端知識と実験手法を修得する。
- 2.機能性物質や高度生理活性分子を構築する基盤となる新しい精密有機化学反応、不斉合成反応、環境低負荷型化学反応、生体関連分子の機能に関する先端知識と実験手法を修得する。
- 3.典型元素と遷移元素とを自在に活用した、高活性・高選択的な触媒能を有する遷移金属錯体や導電性有機分子などの新しい機能性分子およびその集積体の設計・合成に関する先端知識と実験手法を修得する。

4.英文テキストや最新の英語論文を読む能力、研究成果を英語論文として発信する能力の鍛錬を通して、コミュニケーションツールとしての英語力とその土台となる国語力とを養成する。

5.最先端の分子科学研究に携わり、解答未知の課題に対して、理論と実験の両面から個人レベル／グループレベルでのディスカッションにより問題点を明確にしつつとりくむことを通して、調査・研究の方法を修得するとともに、ディスカッション能力、発表能力、問題解決能力、研究者倫理を養い、論理的な思考力、明快にコミュニケーションをとる能力を鍛錬する。

博士後期課程

目的を実現するために、具体的な教育目標を次のように設定する。

1.分子と外場との相互作用現象や化学反応機構の、実験と理論の両面からの解析に関する先端知識と実験手法を修得する。

2.機能性物質や高度生理活性分子を構築する基盤となる新しい精密有機化学反応、不斉合成反応、環境低負荷型化学反応、生体関連分子の機能に関する先端知識と実験手法を修得する。

3.典型元素と遷移元素とを自在に活用した、高活性・高選択的な触媒能を有する遷移金属錯体や導電性有機分子などの新しい機能性分子およびその集積体の設計・合成に関する先端知識と実験手法を修得する。

4.英文テキストや最新の英語論文を読む能力、研究成果を英語論文として発信する能力の鍛錬を通して、コミュニケーションツールとしての英語力を養成する。

5.最先端の分子科学研究に携わり、解答未知の課題に対して、理論と実験の両面から個人レベル／グループレベルでのディスカッションにより問題点を明確にしつつ取り組むことを通して、調査・研究を遂行する方法を修得するとともに、ディスカッション能力、発表能力、問題解決能力、研究者倫理を養い、論理的な思考力、明快にコミュニケーションをとる能力を鍛錬する。

6.新たな研究計画を企画・提案して互いに評価しあうことを通して研究の立案能力と評価能力を鍛錬する。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

以下の資質・能力を身に付けたものに対して修了を認定し、学位を授与する。

- 1.分子と外場との相互作用現象や化学反応機構の、実験と理論の両面からの解析に関する先端知識と実験手法を修得している。
- 2.専門分野および関連する分野の諸問題を主体的に対処でき、科学・技術の発展を推進できる研究能力を持つ。
- 3.典型元素と遷移元素とを自在に活用した、高活性・高選択的な触媒能を有する遷移金属錯体や導電性有機分子などの新しい機能性分子およびその集積体の設計・合成などに関する先端知識と理論的アプローチまたは実験手法の基盤を修得している。
- 4.コミュニケーションツールとしての英語力とその土台となる国語力とを身に付けている。
- 5.最先端の調査・研究の方法を修得するとともに、ディスカッション能力、発表能力、問題解決能力、研究者倫理を養い、論理的な思考力、明快にコミュニケーションをとる能力を身に付けている。

博士後期課程

以下の資質・能力を身に付けたものに対して修了を認定し、学位を授与する。

- 1.分子と外場との相互作用現象や化学反応機構の、実験と理論の両面からの解析に関する先端知識と実験手法を修得している。
- 2.機能性物質や高度生理活性分子を構築する基盤となる新しい精密有機化学反応、不斉合成反応、環境低負荷型化学反応、生体関連分子の機能などに関する先端知識と理論的アプローチまたは実験手法の基盤を修得している。
- 3.典型元素と遷移元素とを自在に活用した、高活性・高選択的な触媒能を有する遷移金属錯体や導電性有機分子などの新しい機能性分子およびその集積体の設計・合成などに関する先端知識と理論的アプローチまたは実験手法の基盤を修得している。
- 4.コミュニケーションツールとしての英語力を身に付けている。
- 5.最先端の調査・研究を遂行する方法を修得するとともに、ディスカッション能力、発表能力、問題解決能力、研究者倫理を養い、論理的な思考力、明快にコミュニケーションを

とる能力を身に付けている。

6.研究の立案能力と評価能力を身に付けている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

分子科学を構成する個別専門分野における基本体系の理解に重点をおき、その上で専門的な知識・技術、研究者倫理修得をめざす教育課程を編成する。

1.高度な専門知識と実験手法に加えて社会貢献へのモチベーションを養うために、有機合成化学、有機反応化学、錯体化学、理論化学、分子構造化学、励起分子科学、有機生物化学など分子科学分野で基本となる専門授業に加え、機能物質科学など社会の物質生産に結びつく応用的な専門授業を教育技法に留意しながら実施する。

2.最先端の分子科学研究に参加させ高度にして実践的な研究鍛錬をし、ディスカッション能力、発表能力、問題解決能力、論理的な思考力、コミュニケーションを明快にとる能力を養うために、分子科学特別研究を置く。

3.世界の分子科学の最新研究動向に習熟できるようにするとともにディスカッションと研究発表能力を養うために、分子科学特別演習を置く。

4.研究立案能力を養成するために研究企画ゼミナール科目を置く。

5.コミュニケーションツールとしての英語力とその土台となる国語力とを養うために、学際的な研究、教育に資する分子科学特別講義、サイエンスコミュニケーションを配置する。

6.豊かな教養、公正性の高い研究を実施するための倫理観、現代社会が求める多様な能力を養成するために大学院共通教育科目を置く。

7.成績評価の基準と方法および学位論文の審査については、理学系研究科のカリキュラムポリシーで定める。

博士後期課程

各専門研究分野で、新現象の発見や新理論の構築のための研究に携わるようにするため、インパクトファクターの高い学術誌にコンスタントに情報発信する分子科学分野の世界的な研究レベルの教員を揃え、世界的視野で研究に邁進できる教育課程を編成する。

- 1.高度な専門知識と実験手法に加えて社会貢献へのモチベーションを養うために、有機合成化学、有機反応化学、錯体化学、理論化学、分子構造化学、励起分子科学、有機生物化学など分子科学分野で基本となる専門授業に加え、機能物質科学など社会の物質生産に結びつく応用的な専門授業を教育技法に留意しながら実施する。
- 2.最先端且つ国際競争力のある高度な分子科学研究に参加させ高度にして実践的な研究鍛錬をし、優れた研究成果を高いモチベーションとともに達成させ、ディスカッション能力、発表能力、問題解決能力、論理的な思考力、明快にコミュニケーションをとる能力を養うために、分子科学特別研究を置く。
- 3.世界の分子科学の最新研究動向に習熟できるようにするとともにディスカッションと研究発表能力を養うために、分子科学特別演習を置く。
- 4.研究立案能力、評価能力を養成するために研究企画ゼミナール科目を置く。
- 5.コミュニケーションツールとしての英語力とその土台となる国語力とを養うために、学際的な研究、教育に資する分子科学特別講義、サイエンスコミュニケーションを配置する。
- 6.豊かな教養、公正性の高い研究を実施するための倫理観、現代社会が求める多様な能力を養成するために大学院共通教育科目を置く。
- 7.成績評価の基準と方法および学位論文の審査については、理学系研究科のカリキュラムポリシーで定める。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

本専攻では、学士課程レベルの基盤の上に物理科学のより深い専門知識の修得と、緻密な論理的思考力を養うことを目標として教育を行う。これにより、ミクロな原子レベルからマクロな宇宙・地球科学まで幅広い視点を持ち、人類の直面する地球環境・エネルギー問題などの学際的課題にも積極的に取り組むことのできる確固とした基礎力を養成する。世界レベルの最先端物理科学研究に携わることを通して、物質や事象の本質を理解する能力と洞察力、英語によるコミュニケーション能力を重点的に鍛錬し、問題解決能力を備えた高度専門職業人・研究者を育成する。

したがって、物理科学専攻では、次のような学生を求める。

- 1.大学の学士課程修了程度以上の分子科学の基礎学力（有機化学、無機化学、物理化学）と、英語論文の読解力を持つ人
- 2.論理的思考力と知的好奇心を持つ人
- 3.自ら進んで分子科学を学ぶ探究心を持つ人
- 4.教員や学生同士との議論を通じて自然現象、とくに分子科学に関する現象を深く考察できる人
- 5.専門分野に関する基礎的な研究能力を有する人

以上にに基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.分子科学の基礎学力（有機化学、無機化学、物理化学）を備えていること
- 2.英文等で書かれた学術論文を読むための語学力を備えていること
- 3.研究に対する意欲と具体的な展望を持ち、研究のために必要な論理的思考力を有すること
- 4.教員や学生同士との議論をできるコミュニケーション能力を有すること

博士後期課程

本専攻では、教員の個人指導のもと、各自が個別のテーマを設定して最先端の分子科学研究を遂行することを通して、物質や事象の本質を理解する能力と洞察力、英語によるコミュニケーション能力を重点的に鍛錬する。

研究の遂行能力に加え、新たな研究計画の立案と評価を行うための能力とディスカッション能力を鍛錬し、自立した研究者・高度専門職業人として社会に貢献できる人材を育成する。

したがって、分子科学専攻では、次のような学生を求める。

- 1.大学院の博士前期課程修了程度以上の分子科学の基礎学力と、英語論文の読解力を持つとともに、英語による表現能力を有している人

2.論理的思考力と知的好奇心を持つ人

3.自ら進んで分子科学を学ぶ探究心を持つ人

4.教員や学生同士との議論を通じて自然現象、とくに分子科学に関する現象を深く考察できる人

5.専門分野あるいは関連する分野について、博士前期課程修了程度以上の研究能力を持ち、自ら研究を立案・計画・遂行できる能力を持つ人

以上に基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1.大学院の博士前期課程修了程度以上の分子科学の基礎学力を備えていること

2.英語論文の読解力を持つとともに、英語による表現能力を有していること

3.教員や学生同士との議論を通じて自然現象、とくに分子科学に関する現象を深く考察できる論理的思考力とコミュニケーションの能力を備えていること

4.知的好奇心を持ち専門分野あるいは関連する分野について、博士前期課程修了程度以上の研究能力を持ち、自ら研究を立案・計画・遂行できる能力を備えていること

生物科学専攻

○教育目的

博士前期課程

博士前期課程では、分子から生態系までの階層構造をもつ生命現象を、普遍性と多様性の視点から総合的に理解することができる基礎力を育成し、その上に立って、高度な研究を行うために必要な手法と分析力を養うことを目標に教育研究を行う。世界レベルの最先端の生物科学の研究に携わることを通して、生物や生命現象の本質を捉えるために必要な能力と洞察力、英語によるコミュニケーション能力を重点的に鍛錬し、課題発見能力と問題解決能力を備えた人材を育成する。

博士後期課程

博士後期課程では、教員の指導のもとに、各自がそれぞれの分野における未解決の重要な課題を設定し、最先端の生物科学の研究を遂行することを通して、生物や生命現象の本質を捉えるために必要な能力と洞察力を養う。研究の遂行能力に加えて、新たな研究計画の立案と評価を行うための能力、英語によるコミュニケーション能力やディスカッション能力を鍛錬し、国際会議での研究発表や短期海外留学を積極的に行うことにより、世界に通じる自立した高度専門職業人・研究者を育成する。

○教育目標

博士前期課程

目的を実現するために具体的な教育目標を次のように設定する。

1.生物科学の階層性を認識し、以下3つに分けるマイクロからマクロにわたる各レベルの最先端の生物科学を学ぶ。

- (1) 遺伝子およびタンパク質の構造と機能について
- (2) 細胞の構造と機能および発生・分化のメカニズムについて
- (3) 環境・生態および進化について

2.上記生物科学をベースにして、その応用を視野に入れ、境界領域に研究を広げることの出来る学力を身に付ける。

3.科学の共通言語である英語について、英文テキストや最新の英語論文を読む能力、研究成果を英語論文として発信する能力、英語によるコミュニケーション能力を鍛錬する。

4.教員の指導の下で、生物科学の特定の研究課題について研究を行い、自分で研究を組み立て、遂行する能力を培う。その際に、研究者倫理を養いながら、研究課題の問題点を明確にし、文献探索、指導教員や研究グループ内でのディスカッションなどから、その問題解決をめざす実験計画を自ら導きだし、得られた結果の解析・評価を行う能力を鍛錬する。さらに、得られた結果をまとめて、明解な発表を行う能力を習得する。

博士後期課程

目的を実現するために、具体的な教育目標を次のように設定する。

1.教員の指導の下で、各自が生物科学の特定の研究課題を設定し、そのための研究計画を組み立て、遂行する能力を培う。その際に、研究者倫理を養いながら、研究課題の問題点を明確にし、文献探索、指導教員や研究グループ内でのディスカッションなどから、自らその問題点解決のための実験を構築・遂行し、得られた結果の解析・評価を行う能力を鍛錬する。

2.得られた研究成果を、学会あるいは論文など様々な形で発表する能力を習得する。

3.科学の共通言語である英語について、英文テキストや最新の英語論文を自由に読みこなす能力、研究成果を英語論文として発信する能力、国際セミナーや会議などでコミュニケーションを行う能力を培う。

4.最先端の研究を行っている研究者の研究成果に講義を通じて触れ、ディスカッション等を通じて研究能力を向上させる。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

以下の資質・能力を身に付けたものに対して修了を認定し、学位を授与する。

1.生物の階層性を認識し、以下マイクロからマクロにわたる各階層での最先端の生物科学を理解している。

(1) 遺伝子 DNA やタンパク質など生体分子の構造と機能について

(2) 細胞の構造と機能および発生・分化のメカニズムについて

(3) 環境・生態および進化について

2.上記生物科学をベースにして、その応用を視野に入れ、境界領域に研究を広げることのできる学力を備えている。

3.科学の共通言語である英語について、英文テキストや最新の英語論文を読む能力、研究成果を英語で発信する能力、英語によるコミュニケーション能力を身に付けている。

4.自分で実験や調査を組み立て、遂行する能力を身に付けている。

5.研究者倫理を養いつつ、問題解決をめざす実験計画を自ら導きだし、得られた結果の解析・評価を行う能力、ディスカッション能力、まとめて明解な発表を行う能力を身に付けている。

博士後期課程

以下の資質・能力を身に付けたものに対して修了を認定し、学位を授与する。

1.各自が生物科学の特定の研究課題を設定し、そのための研究計画を組み立て、遂行する能力を備えている。

2.研究者倫理を養いつつ、研究課題の問題点を明確にし、自らその問題点解決のための実験を構築・遂行し、得られた結果の解析・評価を行う能力を身に付けている。

3.得られた研究成果を、学会あるいは論文など様々な形で発表する能力を身に付けている。

4.科学の共通言語である英語について、英文テキストや最新の英語論文を自由に読みこなす能力、研究成果を英語論文として発信する能力、国際セミナーや会議などでコミュニケーションできる能力を身に付けている。

5.最先端の研究を行っている研究者の研究成果に触れ、理論と実験の両面から取り組める研究能力を身に付けている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

- 1.最先端の生物学を理解するため、生体分子科学分野および分子細胞生物学分野、生物機能・多様性科学領域に重点を置いた教育課程全体を編成し、境界領域に研究を広げることの出来る学力を養う。
- 2.生体分子科学領域では生体分子間の相互作用に着目し、タンパク質やペプチドなどの生体分子の構造と機能、光刺激に対する細胞応答の分子機構等について研究するために、生命化学特論、構造生物学特論、細胞機能制御化学特論を置く。
- 3.分子細胞生物学領域においては、神経やホルモンによる情報伝達系のしくみ、分子進化の機構、臓器や組織の形成機構、環境変異原物質や放射線のストレスに対する細胞応答、などの高次生命現象を研究するために、生物工学特論、環境ストレス生物学特論、細胞生物学特論を置く。
- 4.生物環境科学領域においては、植物の成長、植物の多様性と種の分化、昆虫の行動や生態、などを対象にした室内実験、野外調査（フィールドワーク）、理論的研究などをするために、生態学特論、遺伝子科学特論、生物機能科学特論、植物生理学特論を置く。
- 5.豊かな教養、公正性の高い研究を実施するための倫理観や、現代社会が求める多様な能力を養成するために大学院共通教育科目を置く。
- 6.科学分野における英語で発信する能力、英語によるコミュニケーション能力を身に付けるため、「サイエンスコミュニケーション」科目を置く。
- 7.世界レベルの最先端研究に触れることを通して、生物学のみならず、環境科学などの学際的科学にも対応できる感覚を身に付けるために、学外講師による特別講義を置く。
- 8.研究課題の問題点を明確にし、文献探索、指導教員や研究グループ内でのディスカッションなどから、その問題解決をめざす実験計画を自ら導きだし、得られた結果の解析・評価を行う能力を養うために、研究企画ゼミナール、特別演習を置く。
- 9.指導教員の下で、生物学の特定の研究課題について研究を行い、自分で研究を組み立て、遂行する能力を身に付けるため、特別研究科目を置く。
- 10.成績評価の基準と方法および学位論文の審査については、理学系研究科のカリキュラムポリシーで定める。

博士後期課程

- 1.生物学のより高度な専門的な知識および技術を有する研究者を養成するための教育課程を編成する。

2.豊かな教養、公正性の高い研究を実施するための倫理観、現代社会が求める多様な能力を養成するために大学院共通教育科目を置く。

3.研究計画の立案について指導し、さらに研究の遂行、研究結果の解釈、学位論文作成などに関する助言を与え、高度な専門知識と柔軟な思考力、研究遂行能力、発表する能力を合わせ持ち、自ら研究課題を発見し解決する能力を養うために、特別研究、特別演習、研究企画ゼミナールを置く。

4.研究の遂行、学位論文の作成を通じて、英語論文を読みこなす能力、英語論文を発信する能力、英語のコミュニケーション能力を修得するために、サイエンスコミュニケーション科目を置く。

5.他分野の最先端研究に触れ、ディスカッション等を通じて理論と実験の両面から取り組める研究能力を修得するために、学外講師による特別講義を置く。

6.成績評価の基準と方法および学位論文の審査については、理学系研究科のカリキュラムポリシーで定める。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

本専攻では、分子から生態系までの階層構造をもつ生命現象を、普遍性と多様性の視点から総合的に理解することができる基礎力を育成し、その上に立って、高度な研究を行うために必要な手法と分析力を養うことを目標に教育研究を行う。

世界レベルの最先端の生物科学の研究に携わることを通して、生物や生命現象の本質を捉えるために必要な能力と洞察力、英語によるコミュニケーション能力を重点的に鍛錬し、課題発見能力と問題解決能力を備えた人材を育成する。

したがって、生物科学専攻では、次のような学生を求める。

1.大学の理系学士課程において生化学、分子細胞生物学、有機化学、物理化学、生態学および進化系統学などを履修し、生物科学の専門家になるための基礎学力を有している人

2.研究活動に必要な科学英語の基礎学力を有している人

3.生物とその関連分野における専門的知識と技能を身に付け、それを背景にして将来社会に幅広く貢献したいと思っている人

4.知識を積み上げるだけでなく複雑な事実関係を統合する能力、論理的解釈・洞察能力を身に付ける意欲をもっている人

5.自らの考えを伝えるとともに、他者の意見を理解するコミュニケーション能力を身に付けようと考えている人

以上に基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1.生物科学および関連科学分野の基礎学力を備えていること

2.英文等で書かれた学術論文を読むための語学力を備えていること

3.研究に対する意欲と具体的な展望を持ち、研究のために必要な論理的思考力を有すること

4.教員や学生同士との議論をできるコミュニケーション能力を有すること

博士後期課程

本専攻では、教員の指導のもとに、各自がそれぞれの分野における未解決の重要な課題を設定し、最先端の生物科学の研究を遂行することを通して、生物や生命現象の本質を捉えるために必要な能力と洞察力を養う。

研究の遂行能力に加えて、新たな研究計画の立案と評価を行うための能力、英語によるコミュニケーション能力やディスカッション能力を鍛錬し、国際会議での研究発表や短期海外留学を積極的に行うことにより、世界に通じる自立した高度専門職業人・研究者を育成する。

したがって、生物科学専攻では、次のような学生を求める。

1.理系の大学院博士前期課程において生物科学、その関連分野での教育課程を修了しているか、もしくはそれと同等の能力を身に付けている人

2.自然科学研究に必須な分析力、思考力、論理構築力を持ち、自ら研究を立案計画し実施することができる人

- 3.英語の論文や報告書を読み、英語で研究成果を発表するための能力がある人
- 4.研究成果を適切にまとめることができるとともに、他者の意見を理解し、議論できるコミュニケーション能力を身に付けている人
- 5.生物科学とその関連分野における高度な専門的知識と技能を身に付け、それを背景にして将来社会に幅広く貢献することをめざしている人
- 6.共同研究などで相互の役割を理解し、協力して研究推進、研究議論、研究成果の取り纏めができる能力を有している人

以上に基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.大学院の博士前期課程修了程度以上の生物科学および関連科学分野の基礎学力を備えていること
- 2.英語論文の読解力を持つとともに、英語による表現能力を有していること
- 3.教員や学生同士との議論を通じて自然現象、とくに生物科学に関する現象を深く考察できる論理的思考力とコミュニケーションの能力を備えていること
- 4.知的好奇心を持ち専門分野あるいは関連する分野について、博士前期課程修了程度以上の研究能力を持ち、自ら研究を立案・計画・遂行できる能力を備えていること

経済学研究科

○教育目的

経済学研究科は、学士課程教育または社会での経験を基礎として、広い視野に立って経済学、経営学、法学、観光学におけるより深い専門知識およびその応用を教授し、高い倫理観を持った研究者としてまた高度の専門的職業人として、社会の発展に貢献できる優れた人材を育成する。

博士前期課程

博士前期課程は、経済学、経営学、法学、観光学の高度な理論的・実証的な教育研究活動を通じ、グローバルな経済社会に貢献できる実践的・創造的能力を備えた社会の発展に貢献できる研究者および高度の専門的職業人を育成する。

博士後期課程

博士後期課程経済学専攻は、経済学、経営学、法学、観光学の諸分野における独創的な研究活動を通して、それぞれの専攻分野における学問の進歩に寄与し、併せて社会の発展に貢献できる、より高度な研究・分析能力と豊かな学識を有する高い倫理観を持った研究者および高度の専門的職業人を育成する。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

博士前期課程を修了するには、本研究科に原則2年以上在学し、必要最低単位数以上を修得することが必要である。

また定められた必修科目と単位数を修得し、専攻ごとに定められた能力を備えていることが修了の要件となる。

博士後期課程

博士後期課程経済学専攻では、所定の期間在学して本専攻が定める単位を取得し、次の能力を身に付け、博士論文公聴会で報告し、博士論文の審査ならびに最終試験に合格した学生に学位を授与する。

1.分析力

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における最先端の高度かつ独創的な研究に必要な分析能力を有している。その前提となる研究を行う上で必要な高い倫理観を養うための能力を有している。

2.最先端知識

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における最先端の研究についての知識を理解する能力を有している。

3.英語

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における英文テキストや最新の英語論文を読む能力を有している。研究成果を英語により高度に発信できる能力を有している。ただし、専門テーマに応じて他の外国語による代替の可能性はある。

4.コミュニケーション

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における最先端の研究に携わり、未解決な問題を明確にしつつ自分の研究課題に取り組むことにより、学術論文等の研究成果を外部に公表し、学会・会議等において発表・研究討論できる能力を有している。

5.指導力

学士課程および博士前期課程の学生に対する教育・研究指導を行うための能力を有している。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

I. 教育課程の編成方針

経済学研究科は、博士前期課程に経済学専攻、経営学専攻の2専攻を設置し、経済学専攻には、理論・計量経済学分野と応用経済学分野を、経営学専攻には経営学分野と法学分

野、観光・地域創造分野を置く。

また博士後期課程経済学専攻には、理論・計量経済学分野、応用経済学分野、経営学分野、法学分野および観光・地域創造分野を置く。

II. カリキュラムの編成・実施方針

1.博士前期課程

博士前期課程経済学専攻および経営学専攻の教育課程の実施方針については各専攻のカリキュラム・ポリシーに詳述のとおりである。

2.博士後期課程

博士後期課程経済学専攻では、経済学、経営学、法学、観光学の諸分野における独創的な研究活動を通して、それぞれの分野における学問の進歩に寄与し、併せて社会の発展に貢献できる、より高度な研究・分析能力と豊かな学識を有する高い倫理観を持った研究者および高度の専門的職業人を養成する。その過程で学生がディプロマ・ポリシーにおいて定めた能力を養うことができるように、次のカリキュラムを提供する。定めた能力を身に付け、博士論文公聴会で報告し、博士論文の審査ならびに博士後期課程最終試験に合格することが修了要件である。

1.分析力

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における最先端の高度かつ独創的な研究に必要な分析能力を身に付けるために、1年次に特別演習 IA を配置する。上記の分析能力の前提となる研究を行う上で必要な高い倫理観を養うための能力の獲得を促すために、1年次に研究公正 B を配置する。

2.最先端知識

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における最先端の研究についての知識を理解する能力の獲得を促すために、2年次に特別演習 IIA などの授業科目を配置する。

3.英語

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における英文テキストや最新の英語論文を読む能力を身に付けるために、1年次に特別演習 IB を配置する。ただし、専門テー

マに応じて他の外国語による代替の可能性はある。

4. コミュニケーション

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における最先端の研究に携わり、未解決な問題を明確にしつつ自分の研究課題に取り組むことにより、学術論文等の研究成果を外部に公表し、学会・会議等において発表・研究討論できる能力の獲得を促すために、1年次、2年次および3年次にそれぞれ論文演習 D I、論文演習 D II および論文演習 D III を配置する。

5. 指導力

学士課程および博士前期課程の学生に対する教育・研究指導を行うための能力の獲得を促すために、3年次に特別演習 IIIA などを配置する。

III. 成績評価の基準および方法

1. 成績評価の基準

1. 成績評価は、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の到達目標に対する達成度に応じて経済学研究科規程第 15 条に定めた基準に沿って A+ から D の評語で評価する。特に、単位修得(C 以上)の基準を到達度として明記する。

2. 学期ごとに全ての授業の成績分布を集計し、到達目標の達成度について組織的に検討し改善をはかる。

3. 成績評価は、達成度の絶対評価を基本として行うが、受講者数が少ない科目を除き、偏った評語の分布にならないように努力する。また、偏った分布になった場合はその原因を分析し、次期以降に改善をはかる。

2. 成績評価の方法

1. 成績評価は、最終の定期試験のみに偏重することなく、レポート、プレゼンテーション、学修態度等の多様な要素を組み合わせて到達目標の達成度を評価する。なお、授業への出欠状況は成績評価には使わない。

2. 具体的な評価方法は、授業担当教員が決定し、評価の基準・評価に用いる項目の配分を含めて、シラパスを通じて学生に事前に提示する。

IV. 学位論文の審査

学位論文の審査は学位審査基準にしたがって行う。

アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

経済学研究科は、学士課程教育または社会での経験を基礎として、広い視野に立って経済学・経営学・法学・観光学におけるより深い専門知識およびその応用を教授し、高い倫理観を持った研究者としてまた高度の専門的職業人として、社会の発展に貢献できる優れた人材を育成する。

博士後期課程

経済学研究科は、学士課程教育または社会での経験を基礎として、広い視野に立って経済学・経営学・法学・観光学におけるより深い専門知識およびその応用を教授し、高い倫理観を持った研究者としてまた高度の専門的職業人として、社会の発展に貢献できる優れた人材を育成する。

経済学専攻

○教育目的

博士前期課程

経済学専攻では、様々な経済問題を理論的・実証的に扱い、とるべき政策のあり方について教育研究し、グローバルな経済社会に貢献できる実践的・創造的能力を備えた社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った研究者および高度の専門的職業人を養成する。

博士後期課程

博士後期課程経済学専攻は、経済学、経営学、法学、観光学の諸分野における独創的な研究活動を通して、それぞれの専攻分野における学問の進歩に寄与し、併せて社会の発展に貢献できる、より高度な研究・分析能力と豊かな学識を有する高い倫理観を持った研究者および高度の専門的職業人を育成する。

○教育目標

博士前期課程

1.基礎

経済学の分野における最先端の研究に必要な不可欠な基礎理論および分析等に必要な計算能力や計算機操作を習得するとともに、研究者として持つべき高い倫理観を養成する。

2.最先端知識

経済学の分野における最先端の研究についての知識を深めるとともにその研究課題や解決方法を習得する。

3.英語

経済学の分野における英文テキストや最新の英語論文を読む能力、研究成果を英語により発信できる能力を養う。ただし、専門テーマに応じて他の外国語による代替の可能性がある。

4.コミュニケーション

経済学の分野における最先端の研究に携わり、未解決な問題を明確にしつつ自分の研究課題に取り組むことにより、調査研究手法を習得する。また、発表・ディスカッションにより論理的な思考能力、豊かな表現能力、十分な問題解決能力および高度なコミュニケーション能力を養う。

博士後期課程

1.分析力

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における最先端の高度かつ独創的な研究に必要な分析力と研究者として持つべき高い倫理観を養うとともに、その研究課題や解決方法をより高度に習得する。

2.最先端知識

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における最先端の研究についての知識をさらに深める。

3.英語

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における英文テキストや最新の英語論文を読む能力、研究成果を英語により高度に発信できる能力を養う。ただし、専門テーマに応じて他の外国語による代替の可能性はある。

4.コミュニケーション

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における最先端の研究に携わり、未解決な問題を明確にしつつ自分の研究課題に取り組むことにより、学術論文等の研究成果を外部に公表し、学会・会議等において発表・研究討論できる能力を養う。

5.指導力

学士課程および博士前期課程の学生に対する教育・研究指導力を養う。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

博士前期課程経済学専攻では、所定の期間在学して本専攻が定める単位を取得し、次の能力を身に付け、修士論文発表会で報告し、修士論文審査ならびに博士前期課程最終試験に

合格した学生に学位を授与する。

1.基礎

経済学の分野における最先端の研究に不可欠な基礎理論を理解することができる。理論に基づく実証分析に必要な知識を習得することができる。研究を行う上で必要な高い倫理観を養うことができる。

2.最先端知識

経済学の分野における最先端の研究に関する知識を理解する能力を有している。最先端の研究を踏まえて、経済社会の変化に適応できる応用力を有し、多面的な視点も意識して自ら研究課題を設定し、その課題の解決方法を習得する能力を有している。

3.英語

経済学の分野における英文テキストや最新の英語論文を読む能力を有している。研究成果を英語で発信できる能力を有している。ただし、専門テーマに応じて他の外国語による代替の可能性がある。

4.コミュニケーション

経済学の分野における最先端の研究に携わり、未解決な問題を明確にしつつ自分の研究課題に取り組む上で必要な発表・討論における論理的な思考ができるとともに、豊かな表現能力を有し、および高度なコミュニケーション能力を有している。

博士後期課程

博士後期課程経済学専攻では、所定の期間在学して本専攻が定める単位を取得し、次の能力を身に付け、博士論文公聴会で報告し、博士論文の審査ならびに最終試験に合格した学生に学位を授与する。

1.分析力

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における最先端の高度かつ独創的な研究に必要な分析能力を有している。その前提となる研究を行う上で必要な高い倫理観を養うための能力を有している。

2.最先端知識

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における最先端の研究についての知識を理解する能力を有している。

3.英語

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における英文テキストや最新の英語論文を読む能力を有している。研究成果を英語により高度に発信できる能力を有している。ただし、専門テーマに応じて他の外国語による代替の可能性はある。

4.コミュニケーション

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における最先端の研究に携わり、未解決な問題を明確にしつつ自分の研究課題に取り組むことにより、学術論文等の研究成果を外部に公表し、学会・会議等において発表・研究討論できる能力を有している。

5.指導力

学士課程および博士前期課程の学生に対する教育・研究指導を行うための能力を有している。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

I. カリキュラムの編成・実施方針

博士前期課程経済学専攻では、様々な経済問題を理論的・実証的に扱い、とるべき政策のあり方について教育研究する。そして、グローバルな経済社会に貢献できる実践的・創造的能力を備え、社会の発展に貢献できる、高い倫理観を持った研究者および高度の専門的職業人を養成する。その過程で学生がディプロマ・ポリシーにおいて定めた能力を養うことができるように、講義およびグループワークを実施する科目（「研究公正 A」他）、教員が単独またはオムニバスで提供する講義科目（各「基礎講義」「特論」）、指導教員が個別指導を行う演習科目（演習 IIA/B）他）、各学生の研究発表とディスカッションが中心となる科目（「論文演習 I/II」他）など、多様な授業形態の科目から構成されるカリキュラムを提供する。このカリキュラムに沿ってディプロマ・ポリシーに定めた能力を身に付け、修士論文発表会で報告し、修士論文の審査ならびに博士前期課程最終試験に合格することが修了要件である。

1.基礎

経済学の分野における最先端の研究に不可欠な基礎理論を理解する能力を涵養するために、1年次に演習 IA などの必修科目およびマイクロ経済学基礎講義 A などの選択科目を配置する。理論に基づく実証分析に必要な知識を習得するための能力を涵養するために、計量経済学基礎講義などの選択科目を配置する。研究を行う上で必要な高い倫理観を養うための能力の獲得を促すために1年次に必修科目の研究公正 A を配置する。

2.最先端知識

経済学の分野における最先端の研究に関する知識を理解する能力の獲得を促すために、マクロ経済学特論 1A などの選択科目を配置する。最先端の研究を踏まえて研究課題を設定し、その課題の解決方法を習得する能力の獲得を促すために、1年次に論文演習 MI などの選択科目を配置する。

3.英語

経済学の分野における英文テキストや最新の英語論文を読む能力を身に付けるために、外国文献研究 A などの選択科目を配置する。研究成果を英語で発信できる能力を身に付けるために、2年次に演習 II A などの必修科目を配置する。ただし、専門テーマに応じて他の外国語による代替の可能性がある。

4.コミュニケーション

経済学の分野における最先端の研究に携わり、未解決な問題を明確にしつつ自分の研究課題に取り組む上で必要な発表・討論における論理的な思考能力、豊かな表現能力および高度なコミュニケーション能力の獲得を促すために、2年次に演習 IIB などの必修科目および論文演習 MII などの選択科目を配置する。

II. 成績評価の基準および方法

1.成績評価の基準

1.成績評価は、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の到達目標に対する達成度に応じて経済学研究科規程第 15 条に定めた基準に沿って A+ から D の評語で評価する。特に、単位修得(C 以上)の基準を到達度として明記する。

2.学期ごとに全ての授業の成績分布を集計し、到達目標の達成度について組織的に検討し改善をはかる。

3.成績評価は、達成度の絶対評価を基本として行うが、受講者数が少ない科目を除き、偏った評語の分布にならないように努力する。また、偏った分布になった場合はその原因を分析し、次期以降に改善をはかる。

2.成績評価の方法

1.成績評価は、最終の定期試験のみに偏重することなく、レポート、プレゼンテーション、学修態度等の多様な要素を組みあわせて到達目標の達成度を評価する。なお、授業への出欠状況は成績評価には使わない。

2.具体的な評価方法は、授業担当教員が決定し、評価の基準・評価に用いる項目の配分を含めて、シラバスを通じて学生に事前に提示する。

III. 学位論文の審査

学位論文の審査は学位審査基準にしたがって行う。

博士後期課程

I. カリキュラムの編成・実施方針

博士後期課程経済学専攻では、経済学、経営学、法学、観光学の諸分野における独創的な研究活動を通して、それぞれの分野における学問の進歩に寄与し、併せて社会の発展に貢献できる、より高度な研究・分析能力と豊かな学識を有する高い倫理観を持った研究者および高度の専門的職業人を養成する。その過程で学生がディプロマ・ポリシーにおいて定めた能力を養うことができるように、講義およびグループワークを実施する科目（「研究公正 B」）、指導教員が個別指導を行う演習科目(特別演習 I/II/III)、各学生の研究発表とディスカッションが中心となる科目(「論文演習 DI/II/III」)など、多様な授業形態の科目から構成されるカリキュラムを提供する。定めた能力を身に付け、博士論文公聴会で報告し、博士論文の審査ならびに博士後期課程最終試験に合格することが修了要件である。

1.分析力

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における最先端の高度かつ独創的な研究に必要な分析能力を身に付けるために、1年次に特別演習 IA などを配置する。上記の分析能力の前提となる研究を行う上で必要な高い倫理観を養うための能力の獲得を促すために、1年次に研究公正 B を配置する。

2.最先端知識

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における最先端の研究についての知識を理解する能力の獲得を促すために、2年次に特別演習 IIA などの授業科目を配置する。

3.英語

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における英文テキストや最新の英語論文を読む能力を身に付けるために、1年次に特別演習 IB などを配置する。ただし、専門テーマに応じて他の外国語による代替の可能性はある。

4.コミュニケーション

博士前期課程などで得られた成果を基に、各分野における最先端の研究に携わり、未解決な問題を明確にしつつ自分の研究課題に取り組むことにより、学術論文等の研究成果を外部に公表し、学会・会議等において発表・研究討論できる能力の獲得を促すために、1年次、2年次および3年次にそれぞれ論文演習 DI、論文演習 DII および論文演習 DIII を配置する。

5.指導力

学士課程および博士前期課程の学生に対する教育・研究指導を行うための能力の獲得を促すために、3年次に特別演習 IIIA などを配置する。

II. 成績評価の基準および方法

1.成績評価の基準

1.成績評価は、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の到達目標に対する達成度に応じて経済学研究科規程第 15 条に定めた基準に沿って A+ から D の評語で評価する。特に、単位修得(C 以上)の基準を到達度として明記する。

2.学期ごとに全ての授業の成績分布を集計し、到達目標の達成度について組織的に検討し改善をはかる。

3.成績評価は、達成度の絶対評価を基本として行うが、受講者数が少ない科目を除き、偏った評語の分布にならないように努力する。また、偏った分布になった場合はその原因を分析し、次期以降に改善をはかる。

2.成績評価の方法

1.成績評価は、最終の定期試験のみに偏重することなく、レポート、プレゼンテーション、学修態度等の多様な要素を組みあわせて到達目標の達成度を評価する。なお、授業への出欠状況は成績評価には使わない。

2.具体的な評価方法は、授業担当教員が決定し、評価の基準・評価に用いる項目の配分を含めて、シラバスを通じて学生に事前に提示する。

III. 学位論文の審査

学位論文の審査は学位審査基準にしたがって行う。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程（一般選抜・外国人留学生特別選抜）

経済学専攻は、様々な経済問題を理論的・実証的に扱い、とるべき政策について教育・研究し、グローバルな経済社会に貢献できる実践的・創造的能力を備えた研究者および高度の専門的職業人を養成する。

したがって、経済学専攻一般選抜・外国人留学生特別選抜では、次のような学生を求める。

1.経済学についての基礎的な知識を備えた人

2.現代社会の諸問題に明確な関心と興味を持ち、それらを経済学的手法を用いて論理的に分析しようとする意欲を有する人

3.外国語能力に優れ、国際的な水準で学術的・実践的な貢献をしようとする意欲を有する

人

以上に基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.経済学の基礎的な知識を備えていること
- 2.研究に対する意欲と具体的な展望を持ち、円滑な研究・指導のために必要な論理的思考力を有すること
- 3.英文等で書かれた経済学の論文を読むための語学力とコミュニケーション能力を有すること

博士前期課程（社会人特別選抜）

経済学専攻は、様々な経済問題を理論的・実証的に扱い、とるべき政策について教育・研究し、グローバルな経済社会に貢献できる実践的・創造的能力を備えた研究者および高度の専門的職業人を養成する。

したがって、経済学専攻社会人特別選抜では、次のような学生を求める。

- 1.経済学についての基礎的な知識を備えた人
- 2.現代社会の諸問題に明確な関心と興味を持ち、それらを経済学的手法を用いて論理的に分析しようとする意欲を有する人

以上に基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.経済学の基礎的な知識を備えていること
- 2.研究に対する意欲と具体的な展望を持ち、円滑な研究・指導のために必要な論理的思考力を有すること

博士後期課程（一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜）

博士後期課程経済学専攻は、経済学・経営学・法学・観光学の諸分野における独創的な研究活動を通して、各分野における学問の進歩に寄与し、併せて社会の発展に貢献できる、より高度な研究・分析能力と豊かな学識を有し、高い倫理観を持った研究者および高度の専門的職業人を育成する。

したがって、博士後期課程経済学専攻一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜では、次のような学生を求める。

- 1.志望する分野において研究者として自立できる十分な知識と独創力を備えた人
- 2.外国語能力に優れ、国際的な研究の場で活躍できる人
- 3.論理的な思考能力をもち、分析力・洞察力のある人

以上にに基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.志望する分野に関連する研究内容や分析手法の理解度、修得度が、博士前期課程修了水準に達していること
- 2.提出された志望理由書、修士論文、研究計画書および口述試験において、研究テーマの学術的発展性を見抜く洞察力を示すとともに、それを論理的に説明、表現できていること
- 3.研究成果を海外へ発信するための外国語能力を有すること

博士後期課程（推薦入試）

博士後期課程経済学専攻推薦入試では、次のような学生を求める。

- 1.志望する分野において研究者として自立できる十分な知識と独創力を備えた人
- 2.外国語能力に優れ、国際的な研究の場で活躍できる人
- 3.論理的な思考能力をもち、分析力・洞察力のある人

以上にに基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.志望する分野に関連する研究内容や分析手法の理解度、修得度が、博士前期課程修了水準に達していること
- 2.提出された志望理由書、修士論文および口述試験において、研究テーマの学術的発展性を見抜く洞察力を示すとともに、それを論理的に説明、表現できていること
- 3.提出された修士論文や推薦書において、研究成果を社会へ発信するための言語能力、あるいは海外へ発信するための外国語能力を有すると確認できること

経営学専攻

○教育目的

博士前期課程

経営学専攻では、分野毎に教育目的を設定する。

経営学専攻経営学分野、法学分野では、複雑で変化の激しい企業活動を中心に、非営利組織も含めた組織の経営について、経営学・会計学・法学といった様々な角度から教育研究することを重視し、グローバルな経済社会に貢献できる実践的・創造的能力を備えた社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った研究者および高度の専門的職業人を養成する。

経営学専攻観光・地域創造分野では、ツーリズムに関連する経済科学、および人文社会諸科学について教育研究し、豊かな学術的識見と柔軟な実践的応用力・構想力・問題解決能力を兼ね備える地域文化プロデューサー、地域経済の再生、開拓発展に取り組む地域牽引型イノベーター等の高度な人材を養成する。

○教育目標

博士前期課程

経営学専攻 経営学分野、法学分野

1.基礎

経営学、会計学、法学の分野における最先端の研究に必要な基礎理論および分析等に必要となる計算能力や計算機操作を習得するとともに、研究者として持つべき高い倫理観を養う。

2.最先端知識

経営学、会計学、法学の分野における最先端の研究についての知識を深めるとともにその研究課題や解決方法を習得する。

3.英語

経営学、会計学、法学の分野における英文テキストや最新の英語論文を読む能力、研究成果を英語により発信できる能力を養う。ただし、専門テーマに応じて他の外国語による代替の可能性もある。

4.コミュニケーション

経営学、会計学、法学の分野における最先端の研究に携わり、未解決な問題を明確にしつつ自分の研究課題に取り組むことにより、調査研究手法を習得する。また、発表・ディスカッションにより論理的な思考能力、豊かな表現能力、十分な問題解決能力および高度なコミュニケーション能力を養う。

経営学専攻 観光・地域創造分野

1.論理的思考能力・分析能力

観光・地域創造に関する先端研究に必要な基礎理論を理解し、同時に研究・調査フィールドでの課題発見に必要な方法論や論理的思考能力とともに、研究者として持つべき高い倫理観を養う。

2.先端知識の応用力・構想力

観光・地域創造に関する最先端の研究についての知識を深めるとともに、独創的な分析枠組みを構築し、実践の現場で課題を解決できる能力を養う。

3.高度なコミュニケーション能力

発表・ディスカッションにより豊かな表現能力を備えたリーズニングスキルを養うと共に、異なる文化に対する理解と洗練されたコミュニケーション能力の向上を図り、国際的に活躍できる能力を養う。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

経営学専攻 経営学分野、法学分野

博士前期課程経営学専攻 経営学分野、法学分野では、所定の期間在学して本専攻が定める単位を取得し、次の能力を身に付け、修士論文発表会で報告し、修士論文審査ならびに博士前期課程最終試験に合格した学生に学位を授与する。

1.基礎

経営学、会計学、法学の分野における最先端の研究に不可欠な基礎理論を理解することができる。理論に基づく実証分析に必要な知識を習得することができる。研究を行う上で必要な高い倫理観を養うことができる。

2.最先端知識

経営学、会計学、法学の分野における最先端の研究に関する知識を理解する能力を有している。最先端の研究を踏まえて、アジアの日系企業においても活躍できる研究課題を設定し、その課題の解決方法を習得する能力を有している。

3.英語

経営学、会計学、法学の分野における英文テキストや最新の英語論文を読む能力を有している。研究成果を英語で発信できる能力を有している。ただし、専門テーマに応じて他の外国語による代替の可能性はある。

4.コミュニケーション

経営学、会計学、法学の分野における最先端の研究に携わり、未解決な問題を明確にしつつ自分の研究課題に取り組む上で必要な発表・討論における論理的な思考ができるとともに、豊かな表現能力を有し、高度なコミュニケーション能力を有している。

経営学専攻 観光・地域創造分野

博士前期課程経営学専攻 観光・地域創造分野では、所定の期間在学して本専攻が定める単位を取得し、次の能力を身に付け、修士論文発表会で報告し、修士論文審査ならびに博士前期課程最終試験に合格した学生に学位を授与する。

1.論理的思考能力・分析能力

観光・地域創造に関する先端研究に不可欠な基礎理論を理解する論理的思考能力を有している。研究・調査フィールドでの課題発見に必要な方法論を習得し、自らの課題を分析する能力を有している。そのために必要な高い倫理観を養うことができる。

2.先端知識の応用力・構想力

観光・地域創造に関する先端研究についての知識を理解する能力を有している。先端研究を踏まえて、独創的な分析枠組みを構築し、実践の現場で課題を解決できる能力を有している。

3.高度なコミュニケーション能力

観光・地域創造に関する自分の研究課題に取り組み、異なる文化を理解し、国際的に活躍する上で必要な発表・討論における論理的な思考ができるとともに、豊かな表現能力を有し、高度なコミュニケーション能力を有している。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

経営学専攻 経営学分野、法学分野

I. カリキュラムの編成・実施方針

博士前期課程経営学専攻 経営学分野、法学分野では、複雑で変化の激しい企業活動を中心に、非営利組織も含めた組織の経営について、経営学・会計学・法学といった様々な角度から教育研究する。そして、グローバルな経済社会に貢献できる実践的・創造的能力を備え、社会の発展に貢献できる、高い倫理観を持った研究者および高度の専門的職業人を養成する。その過程で学生がディプロマ・ポリシーにおいて定めた能力を養うことができるように、講義およびグループワークを実施する科目（「研究公正 A」他）、教員が単独またはオムニバスで提供する講義科目（各「基礎講義」「特論」）、指導教員が個別指導を行う演習科目（演習 IIA/B）他）、各学生の研究発表とディスカッションが中心となる科目（「論文演習 I/II」他）など、多様な授業形態の科目から構成されるカリキュラムを提供する。このカリキュラムに沿ってディプロマ・ポリシーに定めた能力を身に付け、修士論文発表会で報告し、修士論文の審査ならびに博士前期課程最終試験に合格することが修了要件である。

1.基礎

経営学、会計学、法学の分野における最先端の研究に不可欠な基礎理論を理解する能力を涵養するために、1年次に演習 IA などの必修科目、経営学基礎講義 A、会計学基礎講義 A、公法基礎講義 A などの選択科目を配置する。理論に基づく実証分析に必要な知識を習得するための能力を涵養するために、1年次に演習 IB などの必修科目を配置する。研究を行う上で必要な高い倫理観を養うための能力の獲得を促すために 1年次に必修科目の研究公正 A を配置する。

2.最先端知識

経営学、会計学、法学の分野における最先端の研究に関する知識を理解する能力の獲得を促すために、労務管理論特論 1A、財務会計論特論 1A、租税法特論 1A、などの選択科目を配置する。最先端の研究を踏まえて研究課題を設定し、その課題の解決方法を習得する能力の獲得を促すために、1 年次に論文演習 MI などの選択科目を配置する。

3.英語

経営学、会計学、法学の分野における英文テキストや最新の英語論文を読む能力を身に付けるために、外国語文献研究 A などの選択科目を配置する。研究成果を英語で発信できる能力を身に付けるために、2 年次に演習 IIA などの必修科目を配置する。ただし、専門テーマに応じて他の外国語による代替の可能性がある。

4.コミュニケーション

経営学、会計学、法学の分野における最先端の研究に携わり、未解決な問題を明確にしつつ自分の研究課題に取り組む上で必要な発表・討論における論理的な思考能力、豊かな表現能力および高度なコミュニケーション能力の獲得を促すために、2 年次に演習 IIB などの必修科目および論文演習 MII などの選択科目を配置する。

II. 成績評価の基準および方法

1.成績評価の基準

成績評価は、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の到達目標に対する達成度に応じて経済学研究科規程第 15 条に定めた基準に沿って A+ から D の評語で評価する。特に、単位修得(C 以上)の基準を到達度として明記する。

学期ごとに全ての授業の成績 分布を集計し、到達目標の達成度について組織的に検討し改善をはかる。

成績評価は、達成度の絶対評価を基本として行うが、受講者数が少ない科目を除き、偏った評語の分布にならないように努力する。また、偏った分布になった場合はその原因を分析し、次期以降に改善をはかる。

2.成績評価の方法

成績評価は、最終の定期試験のみに偏重することなく、レポート、プレゼンテーション、学修態度等の多様な要素を組みあわせて到達目標の達成度を評価する。なお、授業への出欠状況は成績評価には使わない。

具体的な評価方法は、授業担当教員が決定し、評価の基準・評価に用いる項目の配分を含めて、シラパスを通じて学生に事前に提示する。

III. 学位論文の審査

学位論文の審査は学位審査基準にしたがって行う。

経営学専攻 観光・地域創造分野

I. カリキュラムの編成・実施方針

博士前期課程経営学専攻 観光・地域創造分野では、観光と地域創造の担い手として、経済学・経営学を中心に、関連する人文社会諸科学を研究する。そして、豊かな学術的識見と柔軟な実践的応用力・構想力・問題解決能力を兼ね備え、観光と地域創造の各現場の特性を的確に把握し、その魅力とオリジナリティを活かした価値創造に結びつける地域文化プロデューサー、あるいは観光を基軸とする地域経済の開拓発展に取り組む地域牽引型イノベーター等の高度人材を養成する。その過程で学生がディプロマ・ポリシーにおいて定めた能力を養うことができるように、講義およびグループワークを実施する科目（「研究公正A」他）、教員が単独またはオムニバスで提供する講義科目（「概論」「特論」他）、指導教員が個別指導を行う演習科目（演習 IIA/B）他）、各学生の研究発表とディスカッションが中心となる科目（「演習 IA/B」他）など、多様な授業形態の科目から構成されるカリキュラムを提供する。このカリキュラムに沿ってディプロマ・ポリシーに定めた能力を身に付け、修士論文発表会で報告し、修士論文の審査ならびに博士前期課程最終試験に合格することが修了要件である。

1. 論理的思考能力・分析能力

観光・地域創造に関する先端研究に不可欠な基礎理論を理解する論理的思考能力を身に付けるために、1年次に演習 IA や観光文化プロデュース概論などの必修科目を配置する。研究・調査フィールドでの課題発見に必要な方法論を習得し、自らの課題を分析する能力の

獲得を促すために、2年次に観光マネジメント論などの必修科目を配置する。また、そのために必要な高い倫理観を養うための能力の獲得を促すため1年次に必修科目の研究公正Aを配置する。

2.先端知識の応用力・構想力

観光・地域創造に関する先端研究についての知識を理解する能力の獲得を促すために、国際観光事業特論、ホスピタリティー・マネジメント特論などの1年次に選択科目における特論科目を配置する。先端研究を踏まえて、独創的な分析枠組みを構築し、実践の現場で課題を解決できる能力の獲得を促すために、2年次に選択科目における演習科目の集客交流まちづくり演習、観光文化論演習を配置する。

3.高度なコミュニケーション能力

観光・地域創造に関する自分の研究課題に取り組み、異なる文化を理解し、国際的に活躍する上で必要な発表・討論における論理的な思考能力、豊かな表現能力および高度なコミュニケーション能力の獲得を促すために、1年次に選択科目の演習科目における地域価値創造演習や2年次に必修科目の演習IIA、演習IIBなどを配置する。

II. 成績評価の基準および方法

1.成績評価の基準

成績評価は、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の到達目標に対する達成度に応じて経済学研究科規程第15条に定めた基準に沿ってA+からDの評語で評価する。特に、単位修得(C以上)の基準を到達度として明記する。

学期ごとに全ての授業の成績分布を集計し、到達目標の達成度について組織的に検討し改善をはかる。

成績評価は、達成度の絶対評価を基本として行うが、受講者数が少ない科目を除き、偏った評語の分布にならないように努力する。また、偏った分布になった場合はその原因を分析し、次期以降に改善をはかる。

2.成績評価の方法

成績評価は、最終の定期試験のみに偏重することなく、レポート、プレゼンテーション、

学修態度等の多様な要素を組みあわせて到達目標の達成度を評価する。なお、授業への出欠状況は成績評価には使わない。

具体的な評価方法は、授業担当教員が決定し、評価の基準・評価に用いる項目の配分を含めて、シラパスを通じて学生に事前に提示する。

III. 学位論文の審査

学位論文の審査は学位審査基準にしたがって行う。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程（一般選抜・外国人留学生特別選抜）

経営学専攻は、非営利組織も含めた組織の経営および観光を軸とした地域創造について、経営学・法学・観光学といった様々な角度から教育・研究する。そのことを通じて、グローバルな経済社会に貢献できる、あるいは日本の都市圏をツーリズムによって再創造するビジョンを提示しうる実践的・創造的能力を備えた研究者および高度の専門的職業人を養成する。

したがって、経営学専攻一般選抜では、次のような学生を求める。

- 1.経営学・法学・観光学のそれぞれの専門分野について基礎知識を備えた人
- 2.外国語能力に優れ、グローバルな社会に貢献できる国際感覚が豊かな人
- 3.組織の経営や法律を取り巻く問題解決に役立つ論理的な思考能力をもち、分析力のある人
- 4.観光・地域創造分野に強い興味と関心を抱き、地域の経済や文化を牽引し、イノベーション創出に挑戦しようとする人

以上に基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.経営学・法学・観光学のそれぞれの専門分野の基礎的な知識を備えていること

2.十分なコミュニケーション能力を有すること

3.英語もしくは他言語の文献を読み、その内容を理解して表現しうる基本的な能力を身に付けていること

4.自らの研究テーマに対する研究意欲を持ち、具体的な研究に対する展望と、研究を進めるために必要な論理的思考力を有すること

また、経営学専攻外国人留学生特別選抜では、次のような学生を求める。

1.経営学・法学・観光学のそれぞれの専門分野について基礎知識を備えた人

2.日本語はもとより外国語能力に優れ、グローバルな社会に貢献できる国際感覚が豊かな人

3.組織の経営や法律を取り巻く問題解決に役立つ論理的な思考能力をもち、分析力のある人

4.観光・地域創造分野に強い興味と関心を抱き、地域の経済や文化を牽引し、イノベーション創出に挑戦しようとする人

以上に基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1.経営学・法学・観光学のそれぞれの専門分野の基礎的な知識を備えていること

2.日本語での十分なコミュニケーション能力を有すること

3.英語もしくは他言語の文献を読み、その内容を理解して表現しうる基本的な能力を身に付けていること

4.自らの研究テーマに対する研究意欲を持ち、具体的な研究に対する展望と、研究を進めるために必要な論理的思考力を有すること

博士前期課程（社会人特別選抜）

経営学専攻は、非営利組織も含めた組織の経営および観光を軸とした地域創造について、経営学・法学・観光学といった様々な角度から教育・研究する。そのことを通じて、グロ

ーバルな経済社会に貢献できる、あるいは日本の都市圏をツーリズムによって再創造するビジョンを提示しうる実践的・創造的能力を備えた研究者および高度の専門的職業人を養成する。

したがって、経営学専攻社会人特別選抜では、次のような学生を求める。

- 1.経営学・法学・観光学のそれぞれの専門分野について基礎知識を備えた人
- 2.組織の経営や法律を取り巻く問題解決に役立つ論理的な思考能力をもち、分析力のある人
- 3.観光・地域創造分野に強い興味と関心を抱き、地域の経済や文化を牽引し、イノベーション創出に挑戦しようとする人

以上に基づき、次の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.経営学・法学・観光学のそれぞれの専門分野の基礎的な知識を備えていること
- 2.自らの研究テーマに対する研究意欲を持ち、具体的な研究に対する展望と、研究を進めるために必要な論理的思考力を有すること

人間社会システム科学研究科

○教育目的

博士前期課程

専門的学術の基礎を培い、学識を拡大・深化させ、諸科学の知識を活かし、高い倫理観をもって多方面で社会に寄与できる人材を育成する。

博士後期課程

専門的学術の探究を進め、高い学識及び倫理観をもって人文社会諸科学の発展に寄与できる責任ある人材を養成する。

○教育目標

博士前期課程

1. 学士課程で身につけた基礎的な知識を踏まえ、自らの専門領域について高度な知識を修得するとともに、他の専門領域との関連について把握できるような幅広い知識を身につける。
2. 自らの専門領域における研究の方法論を修得するとともに、先行研究の知見を踏まえて論理的な分析、考察を行う能力を身につける。
3. 自らの研究成果を論理的に構成し、説得力のある形で表現する能力を身につける。
4. 研究公正に関する理解に基づき、高い倫理観をもって研究を遂行するための素養を身につける。

博士後期課程

1. 博士前期課程で身につけた専門的知識を踏まえ、自らの専門領域において新たな課題を発見し、探究を進める創造的な知性を身につける。
2. 自らの研究課題について、適切な研究方法を自ら選択し、自律的に研究を継続する能力を身につける。
3. 自らの研究成果について、高度な論理性と説得力をもって表現し、的確に発信する能力

を身につける。

4.研究公正に関する深い理解に基づき、高い倫理観をもって研究を継続し、研究成果を社会に還元することができる能力を身につける。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

各専攻のカリキュラム・ポリシーに定める授業科目の成績評価と学位論文の審査は、以下のとおり行う。

1.成績評価の基準

(1) 成績評価は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の到達目標に対する達成度に応じて、人間社会システム科学研究科規程第15条に定めた基準に沿って、A+からDの評語で評価する。特に、単位修得（C以上）の基準を到達度として明記する。

(2) 学期ごとに全ての授業の成績分布を集計し、到達目標の達成度について組織的に検討し、改善を図る。

(3) 成績評価は、達成度の絶対評価を基本として行うが、受講者数が少ない科目を除き、偏った評語の分布にならないように努力する。また、偏った分布になった場合はその原因を分析し、次期以降に改善を図る。

2.成績評価の方法

(1) 成績評価は、最終の定期試験のみに偏重することなく、レポート、プレゼンテーション、学修態度等の多様な要素を組み合わせて到達目標の達成度を評価する。なお、授業への出欠状況は成績評価には使わない。

(2) 具体的な評価方法は、授業担当教員が決定し、評価の基準、評価に用いる項目の配分を含めて、シラバスを通じて学生に事前に提示する。

3.学位論文の審査

学位論文の審査は、大阪府立大学学位規程のほか、人間社会システム科学研究科履修要項

の学位論文審査基準、学位論文審査実施要項に基づき審査を行う。

現代システム科学専攻

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

知識情報システム学分野（学位：情報学）

現代システム科学専攻博士前期課程は、自らの専門領域における高度な研究を遂行する能力と、他領域の研究を理解し協働する力を兼ね備え、実社会における問題に適切かつ効果的な解決策を提供することで持続可能な社会の実現に貢献する人材を育成することを目的とする。そのなかでも知識情報システム学分野（情報学）では、高度情報化社会の基礎となる情報に関する専門知識と技能、情報システムをデザインする能力を活用して、技術の進歩及び社会の変容にともなう課題を継続的に解決できる人材を育成する。そのために、次の項目を学位授与のために身につけるべき知識・能力とする。

1.使命感・責任感

持続可能な社会の実現に貢献する使命感、責任感、高い倫理観に基づく判断力や行動力。

2.高度なシステムの思考力と領域横断的応用力

現象を多様な要素の相互作用としてとらえ、分析し、理解する高度なシステムの思考力、および、領域横断的な発想に基づく高度な応用力。

3.高度なコミュニケーション能力

研究発表やディスカッションを通して、自らの研究成果を異なる領域の研究者にも適切に理解してもらえるような学際的コミュニケーション能力。

4.専門領域における先端的知識

情報システム等の情報工学系科目、マーケティング等の学際情報系科目を含む、情報学における高度な先端的知識。

環境システム学分野（学位：環境学）

現代システム科学専攻博士前期課程は、自らの専門領域における高度な研究を遂行する能力と、他領域の研究を理解し協働する力を兼ね備え、実社会における問題に適切かつ効果的な解決策を提供することで持続可能な社会の実現に貢献する人材の育成を目的とする。そのなかでも環境システム学分野（環境学）では、気候や生態系の変化に象徴される自然

環境の問題を、「ヒトと自然のつながり」の観点から課題解決に取り組むことができる人材を育成する。そのために、次の項目を学位授与のために身につけるべき知識・能力とする。

1.使命感・責任感

持続可能な社会の実現に貢献する使命感、責任感、高い倫理観に基づく判断力や行動力。

2.高度なシステムの思考力と領域横断的応用力

現象を多様な要素の相互作用としてとらえ、分析し、理解する高度なシステムの思考力、および、領域横断的な発想に基づく高度な応用力。

3.高度なコミュニケーション能力

研究発表やディスカッションを通して、自らの研究成果を異なる領域の研究者にも適切に理解してもらえるような学際的コミュニケーション能力。

4.専門領域における先端的知識

環境哲学等の人文科学分野、環境社会学等の社会科学分野、生態学・環境化学・都市環境学などの自然科学分野を含む、環境学における高度な先端的知識。

環境システム学分野（学位：学術）

現代システム科学専攻博士前期課程は、自らの専門領域における高度な研究を遂行する能力と、他領域の研究を理解し協働する力を兼ね備え、実社会における問題に適切かつ効果的な解決策を提供することで持続可能な社会の実現に貢献する人材の育成を目的とする。そのなかでも環境システム学分野（学術）では、集団や組織、種々の社会制度など、社会システムを構成する各要素内・要素間で生じる社会環境の問題および自然・社会環境の中で生きる人間の内面的な状態に起因する問題から構成される現代社会が抱える複合的な問題に対し、「ヒトとヒトとのつながり」および「ヒトの心と環境とのつながり」の観点から課題解決に取り組むことができる人材を育成する。そのために、次の項目を学位授与のために身につけるべき知識・能力とする。

1.使命感・責任感

持続可能な社会の実現に貢献する使命感、責任感、高い倫理観に基づく判断力や行動力。

2.高度なシステムの思考力と領域横断的応用力

現象を多様な要素の相互作用としてとらえ、分析し、理解する高度なシステムの思考力、

および、領域横断的な発想に基づく高度な応用力。

3.高度なコミュニケーション能力

研究発表やディスカッションを通して、自らの研究成果を異なる領域の研究者にも適切に理解してもらえるような学際的コミュニケーション能力。

4.専門領域における先端的知識

環境哲学や社会思想等の人文科学分野、地理学や社会学等の社会科学分野を含む社会システムに関する高度な先端的知識や、認知科学や学習科学、人間情報システム等の認知行動に関する高度な先端的知識。

臨床心理学分野（学位：学術）

現代システム科学専攻博士前期課程は、自らの専門領域における高度な研究を遂行する能力と、他領域の研究を理解し協働する力を兼ね備え、実社会における問題に適切かつ効果的な解決策を提供することで持続可能な社会の実現に貢献する人材の育成を目的とする。そのなかでも臨床心理学分野（学術）では、医療、教育、福祉、産業領域などの多様な心理臨床において高度の臨床心理技能を発揮できるとともに、人間の心と自然・社会環境との関係について従来の人文科学の枠組みを越えた領域横断的な発想ができる臨床心理士を育成する。そのために、次の項目を学位授与のために身につけるべき知識・能力とする。

1.使命感・責任感

持続可能な社会の実現に貢献する使命感、責任感、高い倫理観に基づく判断力や行動力。

2.高度なシステムの思考力と領域横断的応用力

現象を多様な要素の相互作用としてとらえ、分析し、理解する高度なシステムの思考力、および、領域横断的な発想に基づく高度な応用力。

3.高度なコミュニケーション能力

研究発表やディスカッション、および統計学の習得を通して、自らの研究成果を異なる領域の研究者にも論理的に理解してもらえるような学際的コミュニケーション能力。

4.専門領域における先端的知識

認知心理学や発達心理学等の認知科学分野、精神医学や心身医学などの医学分野、多様な心理臨床現場での臨床心理に関して基礎から応用までを網羅する臨床心理学分野に関する高度な先端的知識。

博士後期課程

知識情報システム学分野（学位：情報学）

現代システム科学専攻博士後期課程知識情報システム学分野（学位：情報学）では、自らの専門領域である情報学における教育研究を深化させるとともに、領域を横断し、隣接諸領域との学問的交流を促進することにより、従来の枠組みにとらわれない発想にもとづく教育研究を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する人材を育成する。そのために、次の項目を学位授与のために身につけるべき知識・技能・能力とする。

1.俯瞰的な大局観と視野の広い課題発掘能力

自然と社会の全体像をつかむことのできる俯瞰的な大局観と、それにもとづく視野の広い課題発掘能力。

2.専門領域における先端的知識と専門性の高い洞察力

自らの専門領域における先端的知識と、それにもとづき課題に対して専門性の高い洞察を行う能力。

3.高度な研究立案・遂行能力と他の研究領域との協働能力

専門領域において高度な研究を立案し遂行する能力と、研究の遂行に際して他領域の研究者と協働する能力。

4.システムデザイン能力とシステムマネジメント能力

研究成果を応用し、新たなシステムやサービスを設計できるシステムデザイン能力と、それらのシステムやサービスを活用することで現代社会が抱える諸問題を解決することができるシステムマネジメント能力。

5.使命感・責任感・倫理観

自らの研究の遂行および成果の発表と、それを通じた社会貢献について、使命感、責任感、高い倫理観に基づいて判断することのできる能力。

環境システム学分野（学位：環境学）

現代システム科学専攻博士後期課程環境システム学分野（学位：環境学）では、自らの専門領域である環境学における教育研究を深化させるとともに、領域を横断し、隣接諸領域との学問的交流を促進することにより、従来の枠組みにとらわれない発想にもとづく教育研究を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する人材を育成する。そのために、次の項目

を学位授与のために身につけるべき知識・技能・能力とする。

1.俯瞰的な大局観と視野の広い課題発掘能力

自然と社会の全体像をつかむことのできる俯瞰的な大局観と、それにもとづく視野の広い課題発掘能力。

2.専門領域における先端的知識と専門性の高い洞察力

自らの専門領域における先端的知識と、それにもとづき課題に対して専門性の高い洞察を行う能力。

3.高度な研究立案・遂行能力と他の研究領域との協働能力

専門領域において高度な研究を立案し遂行する能力と、研究の遂行に際して他領域の研究者と協働する能力。

4.コミュニティ・デザイン能力と社会的調整能力

研究成果を応用し、具体的な行動につなげることのできるコミュニティ・デザイン能力と、環境関連の調査・計画・政策を実行・策定する際に、地域住民との合意形成に関する領域にも貢献できる社会的調整能力。

5.使命感・責任感・倫理観

自らの研究の遂行および成果の発表と、それを通じた社会貢献について、使命感、責任感、高い倫理観に基づいて判断することのできる能力。

環境システム学分野（学位：学術）

現代システム科学専攻博士後期課程環境システム学分野（学位：学術）では、自らの専門領域における教育研究を深化させるとともに、領域を横断し、隣接諸領域との学問的交流を促進することにより、従来の枠組みにとらわれない発想にもとづく教育研究を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する人材を育成する。そのために、次の項目を学位授与のために身につけるべき知識・技能・能力とする。

1.俯瞰的な大局観と視野の広い課題発掘能力

自然と社会の全体像をつかむことのできる俯瞰的な大局観と、それにもとづく視野の広い課題発掘能力。

2.専門領域における先端的知識と専門性の高い洞察力

自らの専門領域における先端的知識と、それにもとづき課題に対して専門性の高い洞察を行う能力。

3.高度な研究立案・遂行能力と他の研究領域との協働能力

専門領域において高度な研究を立案し遂行する能力と、研究の遂行に際して他領域の研究者と協働する能力。

4.現代社会に対する高度な認識能力と社会的調整能力

研究成果を応用し、現代社会の問題群を的確に捉えることのできる高度な認識能力と、心理・社会環境関連の調査・計画を実行する際に、ヒトとヒトを取り巻く社会システムが調和的環境となるよう配慮できる社会的調整能力。

5.使命感・責任感・倫理観

自らの研究の遂行および成果の発表と、それを通じた社会貢献について、使命感、責任感、高い倫理観に基づいて判断することのできる能力。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

知識情報システム学分野（学位：情報学）

現代システム科学専攻知識情報システム学（情報学）博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーにおいて示した能力を持つ人材を育成するために、必修を含む31単位以上の科目を修得することと、研究指導を受けて修士論文を作成し、論文の審査および最終試験に合格することを、課程修了の必要要件として課している。本課程では、次のような科目編成により、学位取得に必要とされる専門知識・能力を修得させる。成績評価と学位論文審査に係る方針は、人間社会システム科学研究科が定めるカリキュラム・ポリシーによる。

・大学院共通教育科目では、「研究公正 A」を1年次の必修科目とし、講義およびグループワークを通じて、研究の遂行・発表において必要とされる高度な倫理観を修得させる。

・専攻演習科目では、「現代システム科学特別演習Ⅰ」「現代システム科学特別演習Ⅱ」を1年次の必修科目とし、指導教員の個人指導を通じて、研究課題における高度な先端的知識を修得させる。

・研究指導科目では、「知識情報システム学特別研究Ⅰ」「知識情報システム学特別研究Ⅱ」を2年次の必修科目とし、指導教員の個人指導を通じて、研究課題における高度な先端的知識を修得させると同時に、自らの研究の発表・ディスカッションを通じて、高度なコミュニケーション能力の養成を行う。

・専攻基幹科目では、「現代システム科学基礎論」「リサーチ・スキルズ」をそれぞれ1年次の必修科目とする。「現代システム科学基礎論」では、現代システム科学専攻の全領域をカバーするオムニバス講義方式により、高度なシステムの思考力と領域横断的応用力を養う。「リサーチ・スキルズ」では、英語によるプレゼンテーションの実習および学術論文の構成・執筆方法についての実習を通じて、高度なコミュニケーション能力を養う。また学術研究と倫理に関する講義を通じて、高い倫理観と責任感を養う。

・専門科目においては、情報工学系科目として「情報システム特論」「知識科学特論」「自然言語処理特論」「機械学習特論」等、学際情報系科目として「マーケティング特論」「ヘルスケア情報学特論」「生産科学特論」等の講義を行う。これらの講義を通じて、専門領域における先端的知識を修得させると同時に、システムの思考力と領域横断的応用力を養う。

環境システム学分野（学位：環境学）

現代システム科学専攻環境システム学（環境学）博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーにおいて示した能力を持つ人材を育成するために、必修を含む31単位以上の科目を修得することと、研究指導を受けて修士論文を作成し、論文の審査および最終試験に合格することを、課程修了の必要要件として課している。本課程では、次のような科目編成により、学位取得に必要とされる専門知識・能力を修得させる。成績評価と学位論文審査に係る方針は、人間社会システム科学研究科が定めるカリキュラム・ポリシーによる。

・大学院共通教育科目では、「研究公正A」を1年次の必修科目とし、講義およびグループワークを通じて、研究の遂行・発表において必要とされる高度な倫理観を修得させる。

・専攻演習科目では、「現代システム科学特別演習Ⅰ」「現代システム科学特別演習Ⅱ」を1年次の必修科目とし、指導教員の個人指導を通じて、研究課題における高度な先端的知識を修得させる。

・研究指導科目では、「環境システム学特別研究Ⅰ」「環境システム学特別研究Ⅱ」を2年次の必修科目とし、指導教員の個人指導を通じて、研究課題における高度な先端的知識を修得させると同時に、自らの研究の発表・ディスカッションを通じて、高度なコミュニケーション能力の養成を行う。

・専攻基幹科目では、「現代システム科学基礎論」「リサーチ・スキルズ」をそれぞれ1年次の必修科目とする。「現代システム科学基礎論」では、現代システム科学専攻の全領域をカバーするオムニバス講義方式により、高度なシステムの思考力と領域横断的応用力を養う。「リサーチ・スキルズ」では、英語によるプレゼンテーションの実習および学術論文の構成・執筆方法についての実習を通じて、高度なコミュニケーション能力を養う。また学術研究と倫理に関する講義を通じて、高い倫理観と責任感を養う。

・専門科目においては、人文科学分野では「環境哲学特論」「文化地理学特論」、社会科学分野では「環境人類学特論」「環境社会学特論」「環境政策学特論」「環境心理学特論」、自然科学分野では「環境化学特論」「環境生物学特論」「物質循環科学特論」「海洋環境学特論」「地域・都市環境学特論」「食品安全学特論」の講義を行う。これらの講義を通じて、専門領域における先端的知識を修得させると同時に、システムの思考力と領域横断的応用力を養う。

環境システム学分野（学位：学術）

現代システム科学専攻環境システム学（学術）博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーにおいて示した能力を持つ人材を育成するために、必修を含む31単位以上の科目を修得することと、研究指導を受けて修士論文を作成し、論文の審査および最終試験に合格することを、課程修了の必要要件として課している。本課程では、次のような科目編成により、学位取得に必要とされる専門知識・能力を修得させる。成績評価と学位論文審査に係る方針は、人間社会システム科学研究科が定めるカリキュラム・ポリシーによる。

・大学院共通教育科目では、「研究公正 A」を1年次の必修科目とし、講義およびグループワークを通じて、研究の遂行・発表において必要とされる高度な倫理観を修得させる。

・専攻演習科目では、「現代システム科学特別演習 I」「現代システム科学特別演習 II」を1年次の必修科目とし、指導教員の個人指導を通じて、研究課題における高度な先端的知識を修得させる。

・研究指導科目では、「環境システム学特別研究 I」「環境システム学特別研究 II」を2年次の必修科目とし、指導教員の個人指導を通じて、研究課題における高度な先端的知識を修得させると同時に、自らの研究の発表・ディスカッションを通じて、高度なコミュニケーション能力の養成を行う。

・専攻基幹科目では、「現代システム科学基礎論」「リサーチ・スキルズ」をそれぞれ1年次の必修科目とする。「現代システム科学基礎論」では、現代システム科学専攻の全領域をカバーするオムニバス講義方式により、高度なシステムの思考力と領域横断的応用力を養

う。「リサーチ・スキルズ」では、英語によるプレゼンテーションの実習および学術論文の構成・執筆方法についての実習を通じて、高度なコミュニケーション能力を養う。また学術研究と倫理に関する講義を通じて、高い倫理観と責任感を養う。

・専門科目においては、人文科学分野では「環境哲学特論」「社会思想特論」、社会科学分野では「経済地理学特論」「現代社会学特論」「文化社会学特論」「ジェンダー社会学特論」、認知科学分野では「認知科学特論」「学習科学特論」「人間情報システム特論」「知識科学特論」の講義を行う。これらの講義を通じて、専門領域における先端的知識を修得させると同時に、システムの思考力と領域横断的応用力を養う。

臨床心理学分野（学位：学術）

現代システム科学専攻臨床心理学（学術）博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーにおいて示した能力を持つ人材を育成するために、必修を含む47単位以上の科目を修得することと、研究指導を受けて修士論文を作成し、論文の審査および最終試験に合格することを、課程修了の必要要件として課している。本課程では、次のような科目編成により、学位取得に必要とされる専門知識・能力を修得させる。成績評価と学位論文審査に係る方針は、人間社会システム科学研究科が定めるカリキュラム・ポリシーによる。

・大学院共通教育科目では、「研究公正A」を1年次の必修科目とし、講義およびグループワークを通じて、研究の遂行・発表において必要とされる高度な倫理観を修得させる。

専攻演習科目では、「現代システム科学特別演習Ⅰ」「現代システム科学特別演習Ⅱ」を1年次の必修科目とし、指導教員の個人指導を通じて、研究課題における高度な先端的知識を修得させる。

・研究指導科目では、「臨床心理学特別研究Ⅰ」「臨床心理学特別研究Ⅱ」を2年次の必修科目とし、指導教員の個人指導を通じて、研究課題における高度な先端的知識を修得させると同時に、自らの研究の発表・ディスカッションを通じて、高度なコミュニケーション能力の養成を行う。

・専攻基幹科目では、「現代システム科学基礎論」「統計法特論」をそれぞれ1年次の必修科目とする。「現代システム科学基礎論」では、現代システム科学専攻の全領域をカバーするオムニバス講義方式により、高度なシステムの思考力と領域横断的応用力を養う。「統計法特論」では、人間行動や環境の研究における実験データ、調査データの検討で必要となる統計の手法およびその原理の習得を通じて、高度な論理的コミュニケーション能力を養う。また「リサーチ・スキルズ」では、学術研究と倫理に関する講義を通じて、高い倫理観と責任感を養う。

・専門科目においては、認知科学分野では「認知心理学特論」「発達心理学特論」、医学分野では「精神医学特論」「心身医学特論」、臨床心理学分野では「臨床心理学特論 A・B」「臨床心理面接特論 A・B」「学校臨床心理学特論」「グループ・アプローチ特論」の講義を行う。これらの講義に加え、「臨床心理査定演習 A・B」「臨床心理実習 A・B」といった演習、実習を通じて、専門領域における先端的知識を修得させると同時に、体系的思考力と領域横断的応用力を養う。

博士後期課程

知識情報システム学分野（学位：情報学）

ディプロマ・ポリシーにおいて示した能力を持つ人材を育成するために、必修を含む 17 単位以上の科目を修得し、必要な指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件として課している。本課程では、次のような科目編成により、学位取得に必要とされる専門知識・能力を習得させる。成績評価と学位論文審査に係る方針は、人間社会システム科学研究科が定めるカリキュラム・ポリシーによる。

・大学院共通教育科目では、「研究公正 B」を 1 年次の必修科目とし、講義およびグループワークを通じて、研究の遂行や応用において必要とされる使命感・責任感・高度な倫理観を修得させる。

・研究指導科目では、1 年次に「知識情報システム学特別研究Ⅲ・Ⅳ」、2 年次に「知識情報システム学特別研究Ⅴ・Ⅵ」、3 年次に「知識情報システム学特別研究Ⅶ・Ⅷ」を置く。これらの科目では、指導教員の個別の研究指導を通して、専門領域における先端的知識を習得させ、専門性の高い洞察力を養う。さらに高度な研究の立案・遂行能力と、立案した研究を他分野の研究者と協働して行う能力を修得させる。それと同時に、学位論文執筆に必要とされるデータ・資料の収集を行わせる。

・特別演習科目では、1 年次に「知識情報システム学特別演習 A・B」を置く。これらの科目を通して、俯瞰的な大局観と視野の広い課題発掘能力を修得させる。また研究成果を応用し、新たなシステムを設計できるシステムデザイン能力と、それを活用することで現代的諸問題を解決することができるシステムマネジメント能力を養う。

環境システム学分野（学位：環境学）

現代システム科学専攻博士後期課程環境システム学分野（学位：環境学）では、ディプロマ・ポリシーにおいて示した能力を持つ人材を育成するために、必修を含む 17 単位以上の科目を修得し、必要な指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格すること

を修了要件として課している。本課程では、次のような科目編成により、学位取得に必要とされる専門知識・能力を習得させる。成績評価と学位論文審査に係る方針は、人間社会システム科学研究科が定めるカリキュラム・ポリシーによる。

- ・大学院共通教育科目では、「研究公正 B」を1年次の必修科目とし、講義およびグループワークを通じて、研究の遂行や応用において必要とされる使命感・責任感・高度な倫理観を修得させる。

- ・研究指導科目では、1年次に「環境システム学特別研究Ⅲ・Ⅳ」、2年次に「環境システム学特別研究Ⅴ・Ⅵ」、3年次に「環境システム学特別研究Ⅶ・Ⅷ」を置く。これらの科目では、指導教員の個別の研究指導を通して、専門領域における先端的知識を習得させ、専門性の高い洞察力を養う。さらに高度な研究の立案・遂行能力と、立案した研究を他分野の研究者と協働して行う能力を修得させる。それと同時に、学位論文執筆に必要とされるデータ・資料の収集を行わせる。

- ・環境学コース特別演習科目では、1年次に「環境学特別演習 A・B」を置く。これらの科目を通して、俯瞰的な大局観と視野の広い課題発掘能力を修得させる。また研究成果を応用するためのコミュニティ・デザイン能力と、調査・計画・政策を実行する際の社会的調整能力を養う。

環境システム学分野（学位：学術）

現代システム科学専攻博士後期課程環境システム学分野（学位：学術）では、ディプロマ・ポリシーにおいて示した能力を持つ人材を育成するために、必修を含む17単位以上の科目を修得し、必要な指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件として課している。本課程では、次のような科目編成により、学位取得に必要とされる専門知識・能力を習得させる。成績評価と学位論文審査に係る方針は、人間社会システム科学研究科が定めるカリキュラム・ポリシーによる。

- ・大学院共通教育科目では、「研究公正 B」を1年次の必修科目とし、講義およびグループワークを通じて、研究の遂行や応用において必要とされる使命感・責任感・高度な倫理観を修得させる。

- ・研究指導科目では、1年次に「環境システム学特別研究Ⅲ・Ⅳ」、2年次に「環境システム学特別研究Ⅴ・Ⅵ」、3年次に「環境システム学特別研究Ⅶ・Ⅷ」を置く。これらの科目では、指導教員の個別の研究指導を通して、専門領域における先端的知識を習得させ、専門性の高い洞察力を養う。さらに高度な研究の立案・遂行能力と、立案した研究を他分野の研究者と協働して行う能力を修得させる。それと同時に、学位論文執筆に必要とされる

データ・資料の収集を行わせる。

・心理・社会環境コース特別演習科目では、1年次に「心理・社会環境特別演習 A・B」を置く。これらの科目を通して、俯瞰的な大局観と視野の広い課題発掘能力を修得させる。また研究成果を応用し、現代社会の問題群を的確に捉えることのできる高度な認識能力と、調査・計画を実行する際に調和的環境を創造する社会的調整能力を養う。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

現代システム科学専攻では、自らの専門領域における高度な研究を遂行する能力と、他領域の研究を理解し協働する力を兼ね備え、実社会における問題に適切かつ効果的な解決策を提供することで持続可能な社会の実現に貢献する人材を育成する。

したがって、本専攻では次のような学生を求める。

- 1.情報学、環境学、社会システム論、認知行動論、臨床心理学のいずれかにおける基礎的な研究能力を備え、異なる領域の研究成果への関心と理解力、および具体的な問題への応用力を有している人
- 2.論理的思考力を備え、公正で多角的な視点に立つ探究心を有している人
- 3.最新の知見から学ぶ意欲と向上心をもち、持続可能な社会の実現に積極的な姿勢を有している人

以上に基づき、本専攻にふさわしい学生を迎えるため、次の1～5の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.学士課程において幅広い科目を履修し、高い学力を有していること
- 2.情報学、環境学、社会システム論、認知行動論、臨床心理学のいずれかにおける専門的知識と基礎的な方法論を身に付けていること
- 3.英語による文献読解およびコミュニケーション能力を備えていること
- 4.研究に必要な論理的思考力および分析力を有していること

5.研究に強い意欲を持ち、持続可能な社会の実現に積極的な姿勢を有していること

博士後期課程

現代システム科学専攻では、自らの専門領域における高度な研究を立案し、自律的に研究を遂行する能力と他領域の研究者と協働する力を兼ね備え、現代社会への俯瞰的視点に基づく学術研究を通して持続可能な社会の実現に貢献する研究者・研究型専門職業人・教員等を育成する。

したがって、本専攻では次のような学生を求める。

1.情報学、環境学、社会システム論、認知行動論、臨床心理学のいずれかにおける研究能力を備え、異なる領域の研究成果を理解して学際的な研究に取り組むための素養を有している人

2.高度な論理的思考力と分析力を備え、公正で多角的な視点に立つ探究心を有している人

3.新たな専門的知見を切り拓く強い意欲を持ち、学術研究によって持続可能な社会の実現に寄与する意思を有している人

以上にに基づき、本専攻にふさわしい学生を迎えるため、次の1～5の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1.情報学、環境学、社会システム論、認知行動論、臨床心理学のいずれかにおける高度な専門的知識を有していること

2.自らの専門領域における学術研究の方法論を身に付けていること

3.英語を用いて専門領域の学術文献を理解し、他の研究者とコミュニケーションする能力を備えていること

4.学術研究を遂行するために必要な高度な論理的思考力および分析力を有していること

5.自ら問題を発見して研究を遂行することに強い意欲を持ち、持続可能な社会の実現に寄与することに積極的な姿勢を有していること

人間社会学専攻

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

言語文化学分野（学位：言語文化学）

人間社会学専攻博士前期課程言語文化学分野では、言語と文化に関する高度な専門性と研究企画力及び国際性を身に付け、現代社会が直面する諸問題の解決に、幅広い文化と隣接する科学に関する知見をもって、柔軟に取り組むことができる人材を育成する。そのために、次の項目を学位授与のために身につけるべき能力とする。

- 1.物語・小説・詩歌などといった国内外の文学や様々な文化的事象の研究、および個別言語学、対照言語学、社会言語学、応用言語学などの言語研究といった専門領域における先端的知識を修得し、研究に活かす能力。
- 2.隣接諸科学の知見と自らの専門の研究を関連づけ、批判的・建設的な考察を行う能力。
- 3.授業での発表や修士論文の作成を通して、学術的内容を論理的に構成する思考力、文章や、各種データを用いた効果的な表現能力。
- 4.授業における発表や議論を通して、多様なメディアを活用し、グローバルな視点から情報を収集することで自らの知識・認識を相対化し、これによって、個人の認識や文化、専門分野の違いを超えて目的を達成するコミュニケーション能力。
- 5.自らの研究の遂行および成果の発表と、それを通じた社会貢献について、使命感、責任感、高い倫理観に基づいて判断することのできる能力。

人間科学分野（学位：人間科学）

人間社会学専攻博士前期課程人間科学分野は、人間・社会・文化に関する多様な学問領域の高度に専門的な知識を横断的、複合的に身に付けて、知的分析力、構成力、情報発信能力を養い、現代が直面する諸問題の解決に向けて、具体的な展望を提示することができる人材の育成を目的とする。そのために、次の項目を学位授与のために身につけるべき能力とする。

- 1.人間・社会・文化に関する諸現象を分析し、その動態と機能・意味を通時的、共時的に考察し、現在における問題性を明確に指摘して、未来を展望するために必要な創造的で柔軟な取り組みができる能力。

- 2.社会の構造や実態についての量的把握ならびに質的把握のための調査・分析方法を身に付け、客観的、多面的に対象を理解する能力。
- 3.研究対象がもつ時空の限局性を越えて、グローバルな視点からも考察し、現出している諸問題の世界性、普遍性についての専門的知識をもって国際的に活躍できる能力。
- 4.自らの課題の追究にふさわしい方法を選択し、その方法で研究を遂行するための具体的なスキルを使いこなすことのできる能力。
- 5.自らの課題を追究するにあたり、関連する領域における先行研究を十分な範囲にわたって検討し、批判的な考察をすることのできる能力。
- 6.自らの研究成果を論理的に構成、展開し、表現して、説得的に示すことのできる能力。
- 7.自らの研究の遂行および成果の発表と、それを通じた社会貢献について、使命感、責任感、高い倫理観に基づいて判断することのできる能力。

社会福祉学分野（学位：社会福祉学）

人間社会学専攻博士前期課程社会福祉学分野は、人間や社会に関する多様な学問領域の高度に専門的な知識を横断的、複合的に身に付けて、知的分析力、構成力、情報発信能力を養い、社会福祉領域における諸問題の解決に向けて、具体的な展望を提示することができる人材の育成を目的とする。そのために、次の項目を学位授与のために身につけるべき技術・能力とする。

- 1.社会福祉に関する諸事象を的確に理解し、分析し、課題を整理できる能力。
- 2.把握した社会福祉に関する課題に対して、社会的諸条件を考慮しつつ、具体的、現実的、科学的な解決策を検討し、明示し、発信できる能力。
- 3.自らの研究課題に関する先行研究の精査を不足なく行い、当該課題の学術的到達点を考察できる能力。
- 4.これまでの学術的到達点をふまえて、論文で何を明らかにするのかという基本的な問いを適確に示すことのできる能力。
- 5.専門的な研究のためのさまざまな方法論を知り、歴史的研究、実証的研究等自らの課題の追究にふさわしい方法を選択し、その方法で研究を遂行する技術。
- 6.研究によって得られた結果を明確に示し、それをもとに批判的に考察や検討を行える能力。

7.論文によって示された知見が、社会福祉学において有意義なものであることを説得的に示すことができる能力。

8.自らの研究の遂行および成果の発表と、それを通じた社会貢献について、使命感、責任感、高い倫理観に基づいて判断することのできる能力。

博士後期課程

言語文化学分野（学位：言語文化学）

人間社会学専攻博士後期課程言語文化学分野では、言語と文化に関する極めて高度な学術的専門性と研究企画力及び幅広い国際性を身に付け、現代社会が直面しうる諸問題を発見し、それに対して独自の視点と高度な学術的知見をもって、柔軟な解決策を提案できる人材を育成する。そのために、次の項目を学位授与のために身につけるべき能力とする。

1.物語・小説・詩歌などといった国内外の文学や様々な文化的事象の研究、および個別言語学、対照言語学、社会言語学、応用言語学などの言語研究といった専門領域における極めて高度な先端的知識を修得し、研究に活かす能力。

2.博士論文作成に向けた研究の過程で、隣接諸科学の知見と自らの専門の研究を関連づけ、批判的・建設的な考察を行い、独創的に課題を設定し、解決を行う能力。

3.研究発表や博士論文の作成を通して、自らの研究成果を論理的に構成する思考力、文章や、各種データを用いた効果的な表現・立証能力

4.研究発表や議論を通して、多様なメディアを活用し、グローバルな視点から情報を収集することで自らの知識・認識を相対化し、これによって、個人の認識や文化、専門分野の違いを超えて目的を達成する高度なコミュニケーション能力。

5.自らの研究の遂行および成果の発表と、それを通じた社会貢献について、使命感、責任感、高い倫理観に基づいて判断することのできる能力。

人間科学分野（学位：人間科学）

人間社会学専攻博士後期課程人間科学分野は、人間・社会・文化に関する多様な学問領域のより高度な学術的探究を進め、専門的、科学的な展望を提示するに必要な、知的分析力、批判能力、論理的構成力、言語運用能力、情報発信能力を養い、現代が直面する諸問題の解決に向けて、取り組むことができる人材の育成を目的としている。そのために、次の項目を学位授与のために身につけるべき能力とする。

- 1.自らの研究に関して、自立的に科学的、合理的で明確なテーマ設定をすることができる能力。
- 2.専門的な研究のための方法論についての見識を有すると同時に、自らの課題の追究にふさわしい研究方法の設計をすることができる能力。またその方法で研究を遂行する高度なスキルを持つと同時に、その合理性を説明することができる能力。
- 3.自らの研究テーマを追究するにあたって、関連する領域における先行研究を十分な範囲にわたって検討したうえで、批判的に考察し、新たな知見を示すことのできる能力。
- 4.文献、データ、資料を収集し、検討する方法を修得したうえで、それらを自らの研究で言及する際に適切に扱うことのできる能力、さらにはその適正さと合理性について明示することのできる能力。
- 5.自らの研究成果を論理性と実証性をもって展開し、説得的に表現することができる能力。
- 6.自らの研究の遂行および成果の発表と、それを通じた社会貢献について、使命感、責任感、高い倫理観に基づいて判断することのできる能力。

社会福祉学分野（学位：社会福祉学）

人間社会学専攻博士後期課程社会福祉学分野は、人間や社会に関する多様な学問領域のより高度な学術的探究を進め、専門的、科学的な展望を提示するに必要な、知的分析力、批判能力、論理的構成力、言語運用能力、情報発信能力を養い、社会福祉領域における諸問題の解決に向けて、取り組むことができる人材の育成を目的としている。そのために、次の項目を学位授与のために身につけるべき能力とする。

- 1.社会福祉に関する研究課題において、自ら新しい問題を把握、設定して、それを解決する有用な方法を開発しうる能力。
- 2.専門的な研究のための方法論に関して十分に理解し、自らの課題の追究にふさわしい方法を選択することのできる能力、またその方法で研究を遂行する高度な技術を行使することのできる能力。
- 3.自らの研究課題に関連する領域の先行研究を十分に精査し、当該課題の学術的到達点に関して批判的に検討できる能力。
- 4.適確な文献、データ、資料を用いたうえで、全体として十分な整合性をもって展開され、そこから引き出される結論が説得的なものであるような論文を構成する能力。

5.十分に検討された明確な問題意識にもとづき科学的、合理的な研究を進めることで、社会福祉学の発展に貢献できる、独創性のある新しい知見を示す論文を執筆できる能力。

6.自らの研究の遂行および成果の発表と、それを通じた社会貢献について、使命感、責任感、高い倫理観に基づいて判断することのできる能力。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

言語文化学分野（学位：言語文化学）

人間社会学専攻博士前期課程言語文化学分野では、ディプロマ・ポリシーにおいて示した能力を持つ人材を育成するために、必修を含む31単位以上の科目を修得することと、研究指導を受けて修士論文を作成し、論文の審査および最終試験に合格することを、課程修了の必要要件として課している。本課程では、次のような科目編成により、学位取得に必要とされる専門知識・能力を修得させる。成績評価と学位論文審査に係る方針は、人間社会システム科学研究科が定めるカリキュラム・ポリシーによる。

・共通教育科目では、「研究公正A」を1年次の必修科目とし、講義およびグループワークを通じて、研究の遂行・発表において必要とされる高度な倫理観を修得させる。

・専攻演習科目では、「人間社会学特別演習Ⅰ」「人間社会学特別演習Ⅱ」を1年次の必修科目とし、研究指導科目では、「言語文化学特別研究Ⅰ」「言語文化学特別研究Ⅱ」を2年次の必修科目とする。これらの科目では、指導教員の個別の研究指導を通して、学術的内容を論理的に構成する思考力、文章や各種データを用いた効果的な表現能力を身につける。さらに、発表や議論を通して、自らの知識を相対化し、相互理解を図るためのコミュニケーション能力を養う。

・専攻基幹科目では、「人間社会学特論」を1年次の必修科目とし、言語文化学、人間科学、社会福祉学について、各分野の総合的知見と学術的特徴を理解するとともに、人間社会学が対象とする諸課題について学際的な視点を身につける。

・分野専門科目においては、日本言語文化学、日本語学、日本語教育学、英語圏言語文化学、英語教育学、言語情報学、個別言語学、対照言語学、社会言語学等の授業を1年次に講義形式で提供する。これらの科目を通して、先端的知識を修得し、研究に活かす能力および、隣接諸科学の知見と自らの専門の研究を関連づけ、批判的・建設的な考察を行う能

力を身につけさせる。

人間科学分野（学位：人間科学）

人間社会学専攻博士前期課程人間科学分野では、ディプロマ・ポリシーにおいて示した能力を持つ人材を育成するために、必修を含む31単位以上の科目を修得することと、研究指導を受けて修士論文を作成し、論文の審査および最終試験に合格することを、課程修了の必要要件として課している。本課程では、次のような科目編成により、学位取得に必要とされる専門知識・能力を修得させる。成績評価と学位論文審査に係る方針は、人間社会システム科学研究科が定めるカリキュラム・ポリシーによる。

- ・ 共通教育科目では、「研究公正 A」を1年次の必修科目とし、講義およびグループワークを通じて、研究の遂行・発表において必要とされる高度な倫理観を修得させる。

- ・ 専攻演習科目では、「人間社会学特別演習Ⅰ」「人間社会学特別演習Ⅱ」を1年次の必修科目とし、研究指導科目では、「人間科学特別研究Ⅰ」「人間科学特別研究Ⅱ」を2年次の必修科目とする。

- ・ これらの科目では、指導教員の個別の研究指導を通して自らの研究課題にふさわしい方法を選択し、それを使いこなすことのできる能力、先行研究を必要十分な範囲にわたり検討し、批判的に考察することのできる能力、研究成果を論理的に構成・展開し、表現することのできる能力を修得させる。

- ・ 専攻基幹科目では、「人間社会学特論」を1年次の必修科目とし、言語文化学、人間科学、社会福祉学について、各分野の総合的知見と学術的特徴を理解するとともに、人間社会学が対象とする諸課題について学際的な視点を身につける。

- ・ 分野専門科目においては、現代思想にかかわるテーマを扱う「思想研究系」、ジェンダーにかかわるテーマを扱う「ジェンダー研究系」、教育にかかわるテーマを扱う「教育研究系」、多様な文化とその形成過程を扱う「文化論・文化史研究系」の4研究系の授業を、1年次に講義形式で提供する。

これらの科目を通して、人間・社会・文化に関する諸現象を分析し、その動態と機能・意味を通時的・共時的に考察することのできる能力、社会の構造や実態についての量的把握ならびに質的把握のための調査・分析を行うことのできる能力、研究対象がもつ時空の限局性を越えて、グローバルな視点からも考察することのできる能力を身につけさせる。

社会福祉学分野（学位：社会福祉学）

人間社会学専攻博士前期課程社会福祉学分野では、ディプロマ・ポリシーにおいて示した能力を持つ人材を育成するために、必修を含む 31 単位以上の科目を修得することと、研究指導を受けて修士論文を作成し、論文の審査および最終試験に合格することを、課程修了の必要要件として課している。本課程では、次のような科目編成により、学位取得に必要とされる専門知識・能力を修得させる。成績評価と学位論文審査に係る方針は、人間社会システム科学研究科が定めるカリキュラム・ポリシーによる。

・共通教育科目では、「研究公正 A」を 1 年次の必修科目とし、講義およびグループワークを通じて、研究の遂行・発表において必要とされる高度な倫理観を修得させる。

・専攻演習科目では、「人間社会学特別演習 I」「人間社会学特別演習 II」を 1 年次の必修科目とし、研究指導科目では、「人間科学特別研究 I」「人間科学特別研究 II」を 2 年次の必修科目とする。

これらの科目では、指導教員の個別の研究指導を通して、自らの研究課題に関する先行研究の精査を不足なく行い、当該課題の学術的到達点を考察できる能力、これまでの学術的到達点をふまえて、論文で何を明らかにするのかという基本的な問いを適確に示すことができる能力、研究によって得られた結果を明確に示し、それをもとに批判的に考察や検討を行える能力、論文によって示された知見が、社会福祉学において有意義なものであることを説得的に示すことができる能力を修得させる。その上で社会福祉学にとって意義がある論文を仕上げさせる。

・専攻基幹科目では、「人間社会学特論」を 1 年次の必修科目とし、言語文化学、人間科学、社会福祉学について、各分野の総合的知見と学術的特徴を理解するとともに、人間社会学が対象とする諸課題について学際的な視点を身につける。

・分野専門科目においては、社会福祉の諸課題を扱う科目、社会福祉理論、社会福祉援助、ソーシャルワーク、児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉、公的扶助に関する科目、地域福祉、社会保障、社会福祉に関する法制度を扱う科目などを、主に 1 年次において提供する。

これらの科目を通して、社会福祉に関する諸事象を分析し、考察することのできる能力、専門的な研究のためのさまざまな方法論を知り、歴史的研究、実証的研究等自らの課題の追究にふさわしい方法を選択し、その方法で研究を遂行する技術を身につけさせる。

博士後期課程

言語文化学分野（学位：言語文化学）

人間社会学専攻博士後期課程言語文化学分野では、ディプロマ・ポリシーにおいて示した能力を持つ人材を育成するために、必修を含む17単位以上の科目を修得することと、研究指導を受けて博士論文を作成し、論文の審査および最終試験に合格することを、課程修了の必要要件として課している。本課程では、次のような科目編成により、学位取得に必要とされる専門知識・能力を修得させる。成績評価と学位論文審査に係る方針は、人間社会システム科学研究科が定めるカリキュラム・ポリシーによる。

・共通教育科目では、「研究公正 B」を1年次の必修科目とし、講義およびグループワークを通じて、研究の遂行・発表において必要とされる高度な倫理観を修得させる。

・特別研究科目では、1年次に「言語文化学特別研究Ⅲ・Ⅳ」、2年次に「言語文化学特別研究Ⅴ・Ⅵ」、3年次に「言語文化学特別研究Ⅶ・Ⅷ」を置き、必修科目とする。

これらの科目では、指導教員の個別指導を通して、自らの研究成果を論理的に構成する思考力、文章や各種データを用いた効果的な表現能力を身につける。また、研究発表や議論を通して、多様なメディアを活用し、グローバルな視点から情報を収集することで自らの知識・認識を相対化し、これによって、個人の認識や文化、専門分野の違いを超えて目的を達成する高度なコミュニケーション能力を養う。

・特別演習科目では、日本言語文化学、日本語学、日本語教育学、英語圏言語文化学、英語教育学、言語情報学、個別言語学、対照言語学、社会言語学等といった専門領域において、極めて高度な先端的知識を修得し、研究に活かす能力を養う。さらに、隣接諸科学の知見と自らの専門の研究を関連づけ、批判的・建設的な考察を行い、独創的に課題を設定し、解決を行う能力を身につけさせる。

人間科学分野（学位：人間科学）

人間社会学専攻博士後期課程人間科学分野では、ディプロマ・ポリシーにおいて示した能力を持つ人材を育成するために、必修を含む17単位以上の科目を修得することと、研究指導を受けて博士論文を作成し、論文の審査および最終試験に合格することを、課程修了の必要要件として課している。本課程では、次のような科目編成により、学位取得に必要とされる専門知識・能力を修得させる。成績評価と学位論文審査に係る方針は、人間社会システム科学研究科が定めるカリキュラム・ポリシーによる。

・共通教育科目では、「研究公正 B」を1年次の必修科目とし、講義およびグループワークを通じて、研究の遂行・発表において必要とされる高度な倫理観を修得させる。

・特別研究科目では、1年次に「人間科学特別研究Ⅲ・Ⅳ」、2年次に「人間科学特別研究

V・VI」、3年次に「人間科学特別研究Ⅶ・Ⅷ」を置き、必修科目とする。

これらの科目では、指導教員の個別指導を通して、専門研究のためのテーマ設定能力、研究方法の運用能力、先行研究についての批判的検討能力、資料データの収集・検討能力、研究成果の論理的な展開・表現能力を修得させる。

・特別演習科目では、現代社会が直面する多様な諸問題について学び、自らの研究テーマがその中においてどのような位置にあるのかを知ると同時に、これらの問題の解決に向けてどのような貢献をなすのかを考察することのできる能力を養う。

社会福祉学分野（学位：社会福祉学）

人間社会学専攻博士後期課程社会福祉学分野では、ディプロマ・ポリシーにおいて示した能力を持つ人材を育成するために、必修を含む17単位以上の科目を修得することと、研究指導を受けて博士論文を作成し、論文の審査および最終試験に合格することを、課程修了の必要要件として課している。本課程では、次のような科目編成により、学位取得に必要とされる専門知識・能力を修得させる。成績評価と学位論文審査に係る方針は、人間社会システム科学研究科が定めるカリキュラム・ポリシーによる。

・共通教育科目では、「研究公正B」を1年次の必修科目とし、講義およびグループワークを通じて、研究の遂行・発表において必要とされる高度な倫理観を修得させる。

・特別研究科目では、1年次に「社会福祉特別研究Ⅲ・Ⅳ」、2年次に「社会福祉特別研究Ⅴ・Ⅵ」、3年次に「社会福祉特別研究Ⅶ・Ⅷ」を置き、必修科目とする。

これらの科目では、指導教員の個別指導を通して、社会福祉に関する研究課題において、自ら新しい問題を把握、設定して、それを解決する有用な方法を開発しうる能力、専門的な研究のための方法論に関して十分に理解し、自らの課題の追究にふさわしい方法を選択することのできる能力、またその方法で研究を遂行する高度な技術を行使することのできる能力、自らの研究課題に関連する領域の先行研究を十分に精査し、当該課題の学術的到達点に関して批判的に検討できる能力、適確な文献、データ、資料を用いたうえで、全体として十分な整合性をもって展開され、そこから引き出される結論が説得的なものであるような論文を構成する能力、十分に検討された明確な問題意識にもとづき科学的、合理的な研究を進めることで、社会福祉学の発展に貢献できる、独創性のある新しい知見を示す論文を執筆できる能力を養成する。

・特別演習科目では、社会福祉に関する多様な研究課題を学び、自ら新しい問題を把握、設定して、自らの研究テーマがその中においてどのような位置にあるのかを知ると同時

に、これらの問題を解決する方法を考察する。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

人間社会学専攻では、現代の人間と社会の多様な諸問題、また錯綜した政策課題などに対し、人文・社会・福祉の各分野における深い専門的知識と、これら3分野を横断する幅広い視野に立って的確に問題を分析し、創造的にその解決の方途を探る能力をもつ人材、また高度の社会的発信能力をもつ人材を育成する。

したがって、本専攻では次のような学生を求める。

- 1.人文、社会、福祉のいずれかの分野における基礎的な研究能力を備え、自らの専門分野における研究に意欲を持って取り組むことができ、かつ異なる領域の研究成果への関心と理解力を有する人
- 2.論理的思考力を備え、公正で多角的な視点に立つ探究心を有している人
- 3.最新の知見から学ぶ意欲と向上心をもち、現代の人間と社会の諸問題の解決に積極的な姿勢を有している人

以上にに基づき、本専攻にふさわしい学生を迎えるため、次の1～5の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.人文、社会、福祉のいずれかの分野における現象や課題を明確に理解し、解明しようとする意欲を持っていること
- 2.専門的な研究のための多様な方法論の中から、自らの課題の追究にふさわしい方法を選択し、その方法で研究を遂行する具体的なスキルに習熟することを志向していること
- 3.当該領域における先行研究を調査し、文献、データ、資料を収集、検討する方法論を学ぼうとする意欲を持っていること
- 4.自らの研究成果を論理的に構成、展開し、表現する能力を備えていること
- 5.語学力を含むコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を備えていること

博士後期課程

人間社会学専攻では、現代の人間と社会の多様な諸問題、また錯綜した政策課題などに対し、人文・社会・福祉の各分野における高度な専門的知識を背景にして新たな探究の視点を見出し、研究を自律的に遂行する能力を備え、地域文化・社会の発展や諸問題の解決に貢献する人材を育成する。

したがって、本専攻では次のような学生を求める。

- 1.人文、社会、福祉のいずれかの分野における研究能力を備え、自らの専門分野において新しい研究領域とその研究方法を開拓しようとする強い意欲を有し、かつ異なる領域の研究成果への関心と理解力を有する人
- 2.高度な論理的思考力と分析力を備え、公正で多角的な視点に立つ探究心を有している人
- 3.自らの研究成果を論理性と実証性をもって展開し、研究成果を社会に向けて発信する高いコミュニケーション能力を備え、研究成果の社会的活用に積極的な姿勢を有している人

以上に基つき、本専攻にふさわしい学生を迎えるため、次の1～5の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.自らの研究課題において、新しい問題を発見して解決したうえで、さらに新しい研究領域を開拓していこうとする強い志向を持っていること
- 2.専門的な研究のための方法論に心を留め、自らの課題を追究するための研究方法を探求しようとする志を持っていること
- 3.関連する領域における先行研究を批判的に検討する批評精神を備え、文献、データ、資料を丁寧に収集しようとする強い忍耐力を有していること
- 4.自らの研究成果を論理性と実証性をもって展開し、説得的に表現する能力を持っていること
- 5.自らの研究成果を社会に向けて発信する高い語学力、文章表現力を含むコミュニケーション能力を備えていること

看護学研究科

○教育目的

博士前期課程

人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、高い倫理観をもち専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成する。

博士後期課程

豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進しその深奥を究め、高い倫理観をもって自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成する。

○教育目標

博士前期課程

- 1.専攻する看護専門領域に関連する理論に精通し、看護活動に適用する。
- 2.専攻する専門領域の看護実践の質の向上をめざして、専門性の高い看護ケアを提供し、改革を推進する。
- 3.高い倫理観をもち、複雑な倫理的問題を判断し調整する。
- 4.看護に関する研究業績をクリティカルに検討し、看護ケアに積極的に活用する。
- 5.看護教育並びに看護実践の向上のために、相談・教育・調整機能を高める。
- 6.専攻する看護専門領域に関する研究課題に取り組み、看護研究能力を高める。
- 7.看護実践・研究・教育を通して国際交流に貢献する。

博士後期課程

- 1.看護実践の改革をめざし、専門性の高い看護ケアを開発する。
- 2.理論や看護援助方法の妥当性を科学的に検証する。

- 3.優れた看護実践、関連領域の知識・研究を用いて、高い倫理観をもって研究活動を行い、看護学の発展に寄与する。
- 4.教育、医療、研究、行政関連機関において、社会の変革に対応できる指導的・管理的リーダーシップを発揮する。
- 5.都道府県や国家レベルの政策開発や意思決定に参画する。
- 6.学際的、国際的な視野に立ち、学術交流、研究活動、保健医療活動に貢献する。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

- 1.専攻する看護専門領域に関連する理論に精通し、看護活動に適用する能力を修得するとともに、看護に関する研究業績をクリティカルに検討し、看護ケアに積極的に活用できる能力を修得している。
- 2.専攻する専門領域の看護実践の質の向上を目指して、専門性の高い看護ケアを提供し、改革を推進できる能力を修得している。
- 3.高い倫理観をもち、複雑な倫理的問題を判断し調整できる能力を修得している。
- 4.看護教育並びに看護実践の向上のために、相談・教育・調整機能を高めることができる能力を修得している。
- 5.専攻する看護専門領域に関する研究課題に取り組み、看護研究能力を修得している。
- 6.看護実践・研究・教育を通して国際交流に貢献できる能力を修得している。

博士後期課程

- 1.看護実践を改革し、専門性の高い看護ケアを開発できる能力を修得している。
- 2.理論や専門援助方法の妥当性を科学的に検証できる能力を修得している。
- 3.優れた看護実践、関連領域の知識・研究を用いて、高い倫理観をもって研究活動を行い、看護学の発展に寄与できる能力を修得している。
- 4.教育・医療・研究・行政関連機関において、社会の変革に対応できる指導的・管理的リーダーシップを発揮できる能力を修得している。

5.都道府県や国家レベルの政策開発や意思決定に参画できる能力を修得している。

6.学際的、国際的視野に立ち、学术交流、研究活動、保健医療活動に貢献できる能力を修得している。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

専門分野における教育研究能力や高度に専門的な実践能力を有する人材を育成するため、共通教育、基盤教育、専門教育で構成された教育課程を編成する。修士論文コースと CNS（専門看護師）コースの選択により、1年次では共通教育科目および基盤教育科目および専攻した分野の「特論」、「演習」を、2年次の修士論文コースでは「特別研究」を、CNS コースでは「実習」、「課題研究」を各々担当する。「特論」「演習」では、アクティブ・ラーニングを取り入れ能動的学修とする。CNS コースの「演習」ではシミュレーション教育も取り入れる。修士論文（CNS コースは課題研究）の論文指導は、指導教員の専門性を考慮し主指導教員と副指導教員の3名以上の指導体制とし、あらかじめ主指導教員と学生とで作成した指導計画に沿って行う。

1.看護専門領域の理論に精通した看護活動に適用する能力および研究の批判的吟味により質の高い看護ケアが実践できる能力を育成するため、基盤教育において「理論看護学」、「看護学研究法」を、専門教育において「人・環境支援看護学」、「家族支援看護学」、「生活支援看護学」、「療養支援看護学」の4領域で構成された専門科目を提供する。また、修士論文コースでは2年次に「特別研究」、CNS コースでは2年次に「課題研究」を担当する。

2.専門性の高い看護ケアを提供し、改革を推進できる能力を育成するため、専門教育において専攻した分野の「特別研究」または「課題研究」を必修科目、「看護管理学特論」等を選択科目とするとともに、「人・環境支援看護学」、「家族支援看護学」、「生活支援看護学」、「療養支援看護学」の4領域で構成された専門科目を提供する。

3.高い倫理観をもち、複雑な倫理的問題を判断し調整できる能力を育成するため、1年次前期において、共通教育において「研究公正」を必修科目として、基盤教育において「看護倫理学」を選択科目として担当するとともに、「人・環境支援看護学」、「家族支援看護学」、「生活支援看護学」、「療養支援看護学」の4領域で構成された専門科目を提供する。

4.看護教育・看護実践の向上に資する相談・教育・調整機能を高める能力を育成するた

め、基盤教育において「コンサルテーション論」等を選択科目、専門教育において、「看護教育学特論」等を選択科目として提供するとともに、「人・環境支援看護学」、「家族支援看護学」、「生活支援看護学」、「療養支援看護学」、の1領域で構成された「特論」「演習」「実習」科目を提供する。

5.看護研究能力を育成するため、基盤教育において「理論看護学」、「看護学研究法」を必修科目、「調査研究処理法」等を選択科目として提供する。さらに専攻する看護専門領域に関する研究課題に取り組む研究能力を身に付けるために研究指導科目として修士論文コースでは2年次に「特別研究」、CNSコースでは2年次に「課題研究」を提供する。

6.看護実践・研究・教育を通して国際交流に貢献する能力を育成するため、基盤教育において「理論看護学」、「看護学研究法」を必修科目するとともに、「異文化看護フィールドワーク」を選択科目として提供する。

これらの学修成果の評価の方針は以下のとおりとする。

成績評価の基準

1.成績評価は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の到達目標に対する達成度に応じて、看護学研究科規程第15条に定めた基準に沿って、A+からDの評語で評価する。特に、単位修得（C以上）の基準を到達度として明記する。

2.学期ごとに全ての授業の成績分布を集計し、到達目標の達成度について組織的に検討し、改善を図る。

3.成績評価は、達成度の絶対評価を基本として行うが、受講者数が少ない科目を除き、偏った評語の分布にならないように努力する。また、偏った分布になった場合はその原因を分析し、次期以降に改善を図る。

成績評価の方法

1.成績評価は、最終の定期試験のみに偏重することなく、レポート、プレゼンテーション、学修態度等の多様な要素を組みあわせて到達目標の達成度を評価する。なお、授業への出欠状況は成績評価には使わない。

2.具体的な評価方法は、授業担当教員が決定し、評価の基準、評価に用いる項目の配分を含めて、シラバスを通じて学生に事前に提示する。

学位論文の審査

1.学位論文の審査は学位審査基準にしたがって行う。

博士後期課程

専門領域を生活支援看護学・療養支援看護学の2領域とし、生活支援看護学領域には6分野、療養支援看護学領域には4分野を設け、共通教育、基盤教育、専門教育で構成された教育課程を編成する。1年次には「看護学研究方法論」、専攻分野の「特論」、「演習」を、2年次から3年次前期には専攻領域の「特別研究」を配当し、学際的視野を持ち、自立して研究活動が行えることを目標としている。「特論」「演習」では、アクティブ・ラーニングを取り入れ能動的学修とする。博士論文の論文指導は、指導教員の専門性を考慮し、主指導教員と副指導教員の3名以上の指導体制とし、あらかじめ主指導教員と学生とで作成した指導計画に沿って行う。

1.看護実践を改革し、専門性の高い看護ケアを開発できる能力を育成するため、1年次前期は基盤教育において「看護学研究方法論」を必修科目、専門教育で専攻分野の「特論」、1年次後期には専門教育で「演習」を各々配当する。2年次前期から3年次前期に専門教育で専攻領域の「特別研究」を配当し、2年次前期での研究計画書の審査を経て、3年次後期に博士論文審査委員会による最終審査を行う。

2.理論や専門援助方法の妥当性を科学的に検証できる能力を育成するため、専門教育として、1年次前期は専攻分野の「特論」、1年次後期には「演習」を、2年次前期から3年次前期には専攻領域の「特別研究」を配当する。2年次前期での研究計画書の審査、論文作成に必要なデータ収集・分析への指導助言を経て、3年次後期に博士論文審査委員会による最終審査を行う。

3.高い倫理観をもって研究活動を行い看護学の発展に寄与できる能力を育成するため、1年次前期に、共通教育として「研究公正」を必修科目とし、基盤教育において「看護学研究方法論」を必修科目、1年次後期に「看護学研究方法論演習」を選択科目として配当する。2年次前期から3年次前期には専門教育として専攻領域の「特別研究」を配当し、2年次前期での研究計画書の審査を経て、3年次後期に博士論文審査委員会による最終審査を行う。

4.社会の変革に対応したリーダーシップを発揮できる能力を育成するため、1年次前期は基盤教育で「看護学研究方法論」を必修科目、専門教育で専攻分野の「特論」、1年次後期には「演習」、2年次前期から3年次前期には専門教育で専攻領域の「特別研究」を配当し、指導的・管理的リーダーシップの資質を養う。

5.都道府県や国家レベルの政策開発や意思決定に参画できる能力を育成するため、専門教育では1年次前期に専攻分野の「特論」、1年次後期には「演習」、2年次前期から3年次前期には専攻領域の「特別研究」を配当し、専攻分野における行政課題の理解を深める。

6.学際的、国際的視野に立ち、学術交流、研究活動、保健医療活動に貢献できる能力を育成するため、専門教育では1年次前期に専攻分野の「特論」、1年次後期には「演習」、2年次前期から3年次前期には専攻領域の「特別研究」を配当し、国内外の研究に精通する。

これらの学修成果の評価の方針は以下のとおりとする。

成績評価の基準

1.成績評価は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の到達目標に対する達成度に応じて、看護学研究科規程第15条に定めた基準に沿って、A+からDの評語で評価する。特に、単位修得（C以上）の基準を到達度として明記する。

2.学期ごとに全ての授業の成績分布を集計し、到達目標の達成度について組織的に検討し、改善を図る。

3.成績評価は、達成度の絶対評価を基本として行うが、受講者数が少ない科目を除き、偏った評語の分布にならないように努力する。また、偏った分布になった場合はその原因を分析し、次期以降に改善を図る。

成績評価の方法

1.成績評価は、最終の定期試験のみに偏重することなく、レポート、プレゼンテーション、学修態度等の多様な要素を組み合わせて到達目標の達成度を評価する。なお、授業への出欠状況は成績評価には使わない。

2.具体的な評価方法は、授業担当教員が決定し、評価の基準、評価に用いる項目の配分を含めて、シラバスを通じて学生に事前に提示する。

学位論文の審査

1.学位論文の審査は学位審査基準にしたがって行う。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

看護学研究科は、多様化、複雑化、高度化する社会環境の中で、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を実践的・創造的に発展させ、地域社会および国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者を育成することをめざす。

看護学専攻は、人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成することを目標とする。

したがって、看護学専攻では次のような学生を求める。

- 1.論理的思考力や課題探求力と併せて、専攻する学問分野の専門的基礎および応用能力と国際的関心を有している人
- 2.高度専門職業人として、看護実践並びに看護学の発展に貢献する意欲を有している人
- 3.豊かな人間性と倫理観を備え、自ら学ぶ姿勢を有している人

以上に基づき、次の1～4の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.専攻する学問分野の専門基礎と応用能力を有していること
- 2.研究に対する意欲と具体的な展望を持ち、論理的思考力を有すること
- 3.高度専門職業人として、看護実践並びに看護学の発展に貢献する意欲を有していること
- 4.英文で書かれた看護学の論文を読むための語学力を有すること

博士後期課程

看護学研究科は、多様化、複雑化、高度化する社会環境の中で、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を実践的・創造的に発展させ、地域社会および国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者を育成することをめざす。

看護学専攻は、豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進しその深奥を究め、自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成することを目標とする。

したがって、看護学専攻では次のような学生を求める。

- 1.探究心旺盛で看護学の視点から自立して研究に取り組む姿勢を有している人
- 2.専門分野について深い基礎および応用能力を有し、多様な学問分野への高い関心と国際的な視野を備えている人
- 3.豊かな人間性と看護学の発展に貢献する熱意を有している人

以上にに基づき、次の 1～3 の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

- 1.博士前期課程で身に付けた、専門領域の研究内容を高い水準で理解し、かつ分析手法を修得していること
- 2.提出された修士論文、研究計画書、および口述試験において、研究テーマの学術的発展性を見抜く洞察力を示すとともに、それを論理的に説明、表現できていること
- 3.研究成果を海外に発信するための英語力を有すること

総合リハビリテーション学研究科

○教育目的

総合リハビリテーション学研究科は、人々の健康と生活の質の向上に貢献しうる、より高い資質を持った医療専門職者の育成、並びに生命の尊さと人の尊厳を重んじることを基本理念とする。この基本理念のもとで、高い倫理観をもち、予防から治療、回復、社会参加に至る総合的なリハビリテーションに関する教育・研究を実践し、保健・医療・福祉の発展・向上に貢献できる人材を育成する。

博士前期課程

博士前期課程は、総合的なリハビリテーションに関する深い探求心と洞察力を備え、相互の信頼と協働の重要性を理解し、責任ある判断、行動のできる豊かな人間性並びに専門性を有する人材を育成する。

博士後期課程

博士後期課程は、研究活動により重点をおいた教育を行い、総合リハビリテーション学領域における高度な知識や技術を持ち、総合的な視野や深い洞察力、独創性や自立して研究を行いうる能力を身につけ、高い倫理観と豊かな人間性と深い教養を備えた人材を育成する。

○教育目標

博士前期課程

- 1.人体の構造と機能に関する最新の知識を学ばせ、身体運動機能、高次脳機能、精神機能に関するリハビリテーションの高度な研究能力を養う。
- 2.地域保健における疫学の高度な知識を学ばせるとともに、リハビリテーションにおける生活機能・生活環境ならびに社会参加支援の発展的な研究能力を養う。
- 3.栄養改善、傷病者の栄養的支援に必要な基礎から臨床に至る高度な知識と研究能力を養う。

4.高い倫理観を持って、最先端の総合リハビリテーション学研究に必要な情報の収集・活用能力を養う。

5.最先端の研究を理解する能力の向上および国際レベルの研究能力の向上をめざす。

博士後期課程

1.身体機能と精神機能の2つのリハビリテーションの視点から、人体の構造、機能、活動に関わる研究を実施する能力を養う。

2.個人の健康の維持増進を含むリハビリテーション・アプローチに加えて、社会的障壁の除去や軽減を積極的に行い、個人の生活機能の維持増進と社会参加を促進支援するための研究を実施する能力を養う。

3.リハビリテーションとの整合性をもって、栄養に関わる一連の生命現象を解明するための研究を実施する能力を養う。

4.高い倫理観をもって、専門分野における高度な研究課題に取り組む能力を養う。

○ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

人々の健康増進と生活の質向上に貢献できる高い資質をもった高度医療専門職者並びに研究者の育成を目的とし、大学院共通教育科目と基礎科目に加え各専門領域のリハビリテーション学科目特論、特別研究科目の単位を修得し、次に掲げる能力を修得した者に学位を授与する。

1.生命の尊さと人の尊厳を重んじることを基本理念とする高い倫理観を修得した者。

2.最先端の総合リハビリテーション学研究に必要な情報の収集・活用能力、指導力を修得した者。

3.国際レベルの最先端の研究を理解する能力を修得し、さらに向上をめざす者。

博士後期課程

人々の健康と生活の質の向上に貢献するための総合リハビリテーション学研究を、さらに深化させる探究心を備えた上で、高い倫理観と人間性を有し、総合リハビリテーション学に関する学際領域において自立した研究活動を行い、教育者、研究者、指導者として社会

を牽引できる人材を育成することを目的とし、各専門領域のリハビリテーション学科目特別講義、特別研究科目の単位を修得し、領域ごとに次に掲げる能力を修得した者に学位を授与する。

1.身体機能と精神機能の2つのリハビリテーションの視点から、人体の構造、機能、活動に関わる研究を実施する能力。

2.個人の健康の維持増進を含むリハビリテーション・アプローチに加えて、社会的障壁の除去や軽減を積極的に行い、個人の生活機能の維持増進と社会参加を促進支援するための研究を実施する能力。

3.リハビリテーションとの整合性をもって、栄養に関わる一連の生命現象を解明するための研究を実施する能力。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

共通教育科目、基礎科目では、研究公正、研究方法論を学び、学際的な視野と深い教養、研究の公正性に責任を持つ高い倫理観、国際的な協働を可能とする能力を修得する。

各領域科目では理学療法学、作業療法学、栄養療法学の深化と有機的連携によって新たに構築された総合リハビリテーション学に関する深い探求心と洞察力を養い、最先端の専門知識や技能を修得する。

研究指導は特別演習科目、特別研究科目によって行い、研究デザインから論文執筆までを個別指導と複数教員による集団指導を組み合わせ、1年次末に研究科として中間報告会を行うなど、基礎から実践にわたる研究能力を涵養する。

これらの科目を30単位以上修得し、審査委員会による論文審査と最終審査会における最終試験に合格することを修了要件とする。学位論文の審査は学位審査基準にしたがって行う。

成績評価の基準

- 1.成績評価は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の到達目標に対する達成度に応じて、履修規程第13条に定めた基準に沿って、A+からDの評語で評価する。特に、単位修得（C以上）の基準を到達度として明記する。
- 2.学期ごとに全ての授業の成績分布を集計し、到達目標の達成度について組織的に検討し、改善を図る。
- 3.成績評価は、達成度の絶対評価を基本として行うが、受講者数が少ない科目を除き、偏った評語の分布にならないように努力する。また、偏った分布になった場合はその原因を分析し、次期以降に改善を図る。

成績評価の方法

- 1.成績評価は、最終の定期試験のみに偏重することなく、レポート、プレゼンテーション、学修態度等の多様な要素を組みあわせて到達目標の達成度を評価する。なお、授業への出欠状況は成績評価には使わない。
- 2.具体的な評価方法は、授業担当教員が決定し、評価の基準、評価に用いる項目の配分を含めて、シラバスを通じて学生に事前に提示する。

博士後期課程

共通教育科目では、研究の公正性に責任を持つ高い倫理観、リーダーとして研究を牽引する能力を修得する。

各領域科目では総合リハビリテーション学領域における高度な知識や技術に基づき、総合的な視野や深い洞察力を修得する。

研究指導は特別演習科目、特別研究科目によって行い、研究デザインから論文執筆までを個別指導と複数教員による集団指導を組み合わせ、複数回の中間報告会などにより、独創性や自立して研究を行いうる能力とプレゼンテーション能力を修得する。

これらの科目を18単位以上修得することを修了要件とし、審査委員会による論文審査

と、最終審査会における最終試験に合格した者に学位を授与する。学位論文の審査は学位審査基準にしたがって行う。

成績評価の基準

1.成績評価は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の到達目標に対する達成度に応じて、履修規程第13条に定めた基準に沿って、A+からDの評語で評価する。特に、単位修得（C以上）の基準を到達度として明記する。

2.学期ごとに全ての授業の成績分布を集計し、到達目標の達成度について組織的に検討し、改善をはかる。

3.成績評価は、達成度の絶対評価を基本として行うが、受講者数が少ない科目を除き、偏った評語の分布にならないように努力する。また、偏った分布になった場合はその原因を分析し、次期以降に改善を図る。

成績評価の方法

1.成績評価は、最終の定期試験のみに偏重することなく、レポート、プレゼンテーション、学修態度等の多様な要素を組みあわせて到達目標の達成度を評価する。なお、授業への出欠状況は成績評価には使わない。

2.具体的な評価方法は、授業担当教員が決定し、評価の基準、評価に用いる項目の配分を含めて、シラバスを通じて学生に事前に提示する。

○アドミッション・ポリシー（学生受入の方針）

博士前期課程

本研究科は、人々の健康と生活の質の向上に貢献するより高い資質をもった医療専門職者の育成並びに生命の尊さと人の尊厳を重んじることを理念として、予防から治療、回復、社会参加に至る総合的なリハビリテーションに関する深い探求心と洞察力を備え、相互の信頼と協働の重要性を理解し、責任ある判断、行動ができる豊かな人間性並びに専門性を有する高度専門職業人並びに研究者の育成をめざす。

このような理念と目標を達成するため、総合リハビリテーション学専攻博士前期課程では、次のような資質と能力、意欲をもった学生を求める。

1. 疾病の予防や治療から障害の軽減、さらに主に障がい児・者や高齢者の地域での自立生活や社会参加の支援等に至る、広範囲で総合的なリハビリテーションの展開に貢献しようという意欲をもった人

2. 医療および地域の実践場面における問題発見能力や問題解決能力をはじめ、実践研究の計画、情報処理、ディスカッション、プレゼンテーション等の各々の能力を高め、高度専門職業人並びに実践研究者としての資質を高めたいという姿勢と熱意をもった人

3. 高い倫理観と豊かな人間性をもった人

以上に基づき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1. 総合的なリハビリテーション学の知識を備えていること

2. 研究に対する意欲と具体的な展望を持ち、円滑な研究指導のために必要な論理的思考を有すること

3. 高い倫理観と豊かな人間性を有すること

博士後期課程

本研究科は、人々の健康と生活の質の向上に貢献するより高い資質をもった医療専門職者の育成並びに生命の尊さと人の尊厳を重んじることを理念として、予防から治療、回復、社会参加に至る総合的なリハビリテーションに関する深い探求心と洞察力を備え、相互の信頼と協働の重要性を理解し、責任ある判断、行動ができる豊かな人間性並びに専門性を有する教育者・研究者の育成をめざす。

このような理念と目標を達成するため、総合リハビリテーション学専攻博士後期課程では、次のような資質と能力、意欲をもった学生を求める。

1. 保健・医療領域において高度の知識や技術を有し、なおかつ総合リハビリテーション学領域において、更なる探求心を備えている人

2. 将来、総合リハビリテーション学領域の教育者、研究者として、地域社会および国際社会において、自立してリハビリテーションの実践および総合リハビリテーション学の発展に貢献する熱意をもった人

3.高い倫理観と豊かな人間性をもった人

以上に基づき、次の1～4の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1.博士前期課程で身に付けた、専門領域の研究内容を高い水準で理解し、かつ分析手法を修得していること

2.提出された修士学位論文の概要、研究計画書および面接試験において、研究テーマの学術的発展性を見抜く洞察力を示すとともに、論理的に説明表現できていること

3.将来、総合リハビリテーション学領域の教育者、研究者として、地域社会および国際社会において、自立してリハビリテーションの実践および総合リハビリテーション学の発展に貢献する熱意を有すること

4.高い倫理観と豊かな人間性を有すること